

二本松市
子ども・子育てに関する
アンケート
調査結果報告書

令和6年9月
福島県 二本松市

目 次

第1章 調査の概要.....	2
1 調査の目的.....	2
2 調査の設計.....	2
3 調査票の配布と回収状況.....	2
4 報告書の見方について.....	3
(1) 年齢の定義.....	3
(2) 電算処理の注意点.....	3
5 調査対象者の属性・家族状況.....	4
(1) 就学前児童の保護者.....	4
(2) 小学生の保護者.....	6
6 調査結果からみた現状と課題.....	8
第2章 就学前児童の調査結果.....	13
1 子どもの育ちをめぐる環境について.....	13
(1) 子育てに日常的に関わっている人.....	13
(2) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無.....	14
(3) 子育てを楽しい・つらいと感じる度合い.....	14
(4) 子育てに日常悩んでいること.....	15
(5) 子育てに関して相談できる人.....	17
2 保護者の就労状況について.....	18
(1) 就労状況.....	18
(2) 1週当たりの就労日数と就労時間.....	19
(3) 家を出る時間、帰宅時間.....	20
(4) フルタイムへの転換希望.....	22
(5) 就労希望.....	23
(6) 希望する就労形態.....	24
3 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	25
(1) 平日利用している定期的な教育・保育事業.....	25

(2) 教育・保育事業の利用日数と利用時間	26
(3) 教育・保育事業を利用していない理由	28
(4) 平日利用したい教育・保育事業	29
4 地域の子育て支援事業の利用状況について	30
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	30
(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向	31
5 土曜・休日や長期休業中の教育・保育事業の利用希望について	32
(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育の利用意向	32
(2) 毎週ではなく、たまに利用したい理由	34
(3) 長期休業期間中の教育・保育事業の利用意向	35
6 子どもの病気の際の対応について	36
(1) 子どもの病気やケガで教育・保育事業が利用できなかったこと	36
(2) 病児・病後児のための保育施設等の利用意向	38
7 不定期の事業利用について	39
(1) 不定期に利用している事業	39
(2) 不定期の教育・保育事業の利用意向	40
(3) 短期入所生活援助事業の利用意向について	41
8 こども誰でも通園制度の利用意向について	42
(1) 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向	42
9 小学校就学後の放課後の過ごし方について	43
(1) 低学年の希望する放課後の過ごし方	43
(2) 高学年の希望する放課後の過ごし方	45
(3) 土曜日・日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望	47
10 職場の両立支援制度について	49
(1) 育児休業の取得状況	49
(2) 育児休業取得後の職場復帰の状況	51
(3) 職場復帰のタイミング	52
(4) 育児休業の取得期間	53
(5) 3歳まで取得できる制度があった場合の、職場復帰の希望時期	55
(6) 希望の時期に職場復帰しなかった理由	56

(7) 職場復帰時の短時間勤務制度の利用	57
(8) 短時間勤務制度を利用しなかった理由	58
(9) 1歳時に預けられる事業があった場合の育児休業の取得意向	59
1 1 保護者の子育ての状況について	60
(1) 現在の暮らしの状況	60
(2) 経済的な理由による経験	61
(3) 子育て支援環境の充実のため、望ましい支援策	62
(4) 子育て環境や支援への満足度	62
第3章 小学生の調査結果	63
1 保護者の子育ての状況について	63
(1) 子育てを主に行っている人	63
(2) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無	63
(3) 子育てを楽しい・つらいと感じる度合い	64
(4) 子育てで日常悩んでいること	65
(5) 子育てに関して相談できる人	67
(6) 現在の暮らしの状況	68
(7) 経済的な理由による経験	69
(8) 子育て支援環境の充実のため、望ましい支援策	70
(9) 子育て環境や支援への満足度	70
2 仕事と子育ての両立と保護者の就労状況について	71
(1) 仕事と子育てを両立させる上での課題	71
(2) 就労状況	72
(3) 1日当たりの就労日数と就労時間	73
(4) 家を出る時間、帰宅時間	75
(5) フルタイムへの転換希望	77
(6) 就労希望	78
(7) 希望する就労形態	79
3 放課後の過ごし方について	80
(1) 低学年の放課後の過ごし方	80
(2) 高学年の希望する放課後の過ごし方	82
(3) 土曜日・日曜・祝日の放課後児童クラブの利用意向	84

(4) 現在通っている(通いたい)学童保育に希望すること	86
第4章 自由意見	87
1 自由意見件数	87
2 意見内容(抜粋)	88
第5章 資料	97
1 就学前児童の保護者調査票	
2 小学生の保護者調査票	

第1章

調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

二本松市では「子ども・子育て支援法」に基づき、5か年を計画期間とした「二本松市子ども・子育て支援事業計画」の第一期を平成27年3月に策定、第二期を令和2年3月に策定し、一人ひとりの子どもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して事業を推進しています。

今回の調査は、令和7年度から令和11年度を計画期間とする「二本松市第三期子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けて、保護者の子育てに関する生活実態や子育てについての意見・要望などの課題を把握し、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

2 調査の設計

調査の種類ごとの件数および調査期間・方法は、以下のとおりです。

【調査対象者及び調査の実施方法】

① 子ども・子育てに関するアンケート(就学前児童の保護者用)	
調査対象者	令和6年4月1日現在、 二本松市に在住の就学前児童を持つ保護者(無作為抽出)
調査票配布数	900人
調査期間	令和6年4月24日～令和6年5月15日
調査方法	郵送により配布 回収は郵送またはインターネットにて回答
② 子ども・子育てに関するアンケート(小学生の保護者用)	
調査対象者	令和6年4月1日現在、 二本松市に在住の小学生児童を持つ保護者(無作為抽出)
調査票配布数	900人
調査期間	令和6年4月24日～令和6年5月15日
調査方法	郵送により配布 回収は郵送またはインターネットにて回答

3 調査票の配布と回収状況

調査ごとの配布・回収状況は、以下のとおりです。

【調査票の配布・回収状況】

調査対象者	配布数	有効回収数	回収率
就学前児童の保護者	900人	389人	43.2%
小学生の保護者	900人	463人	51.4%

4 報告書の見方について

(1) 年齢の定義

就学前児童・小学生の年齢定義は、アンケート調査において誕生日（生年月）を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	令和5年4月以降	6歳児	平成29年4月～平成30年3月
1歳児	令和4年4月～令和5年3月	7歳児	平成28年4月～平成29年3月
2歳児	令和3年4月～令和4年3月	8歳児	平成27年4月～平成28年3月
3歳児	令和2年4月～令和3年3月	9歳児	平成26年4月～平成27年3月
4歳児	平成31年4月～令和2年3月	10歳児	平成25年4月～平成26年3月
5歳児	平成30年4月～平成31年3月	11歳児	平成24年4月～平成25年3月

（注）調査対象者抽出時【令和6年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

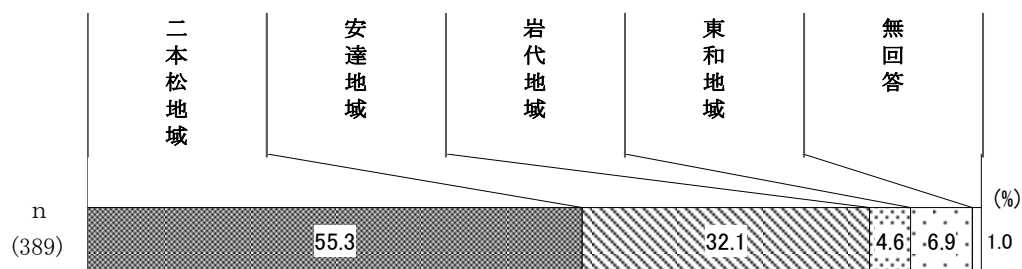
調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

5 調査対象者の属性・家族状況

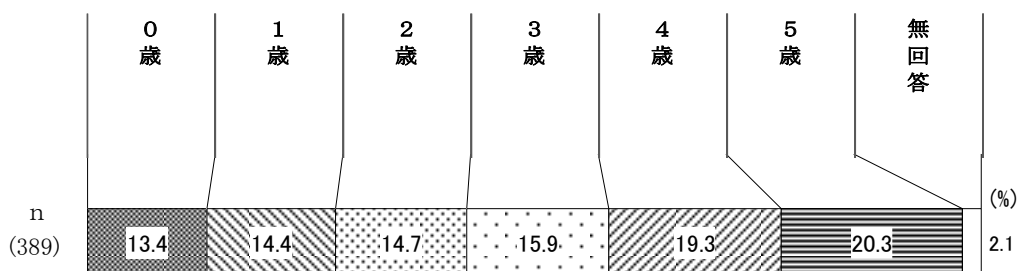
(1) 就学前児童の保護者

① 居住地区



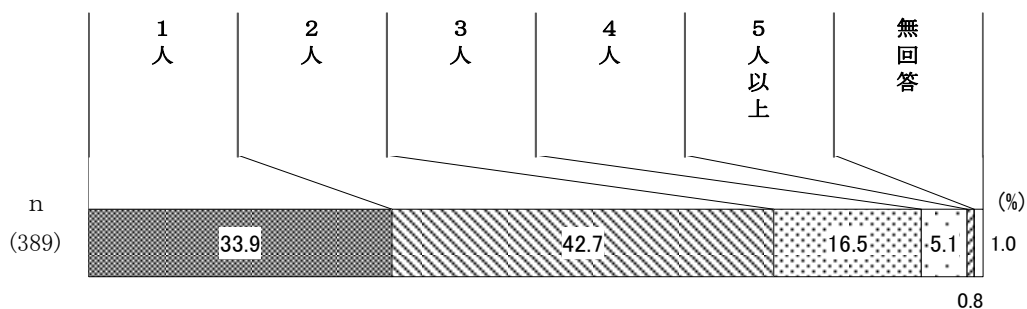
○居住地区は、「二本松地域」が55.3%と最も多く、次いで「安達地域」が32.1%、「東和地域」が6.9%、「岩代地域」が4.6%となっています。

② 子どもの年齢



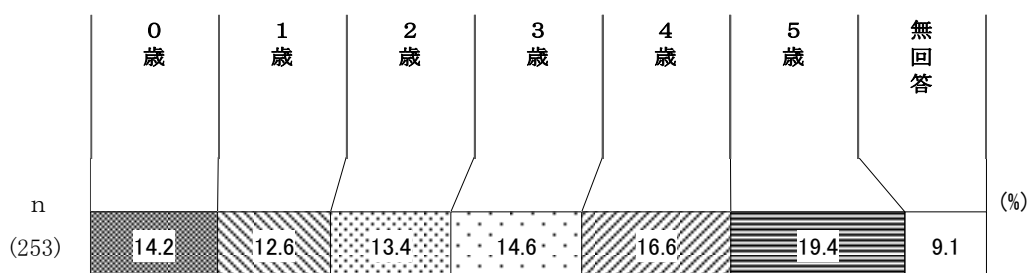
○子どもの年齢は、「5歳」が20.3%と最も多く、次いで「4歳」が19.3%、「3歳」が15.9%、「2歳」が14.7%、「1歳」が14.4%、「0歳」が13.4%と、0～2歳児が42.5%、3～5歳児が55.5%となっています。

③ きょうだいの数



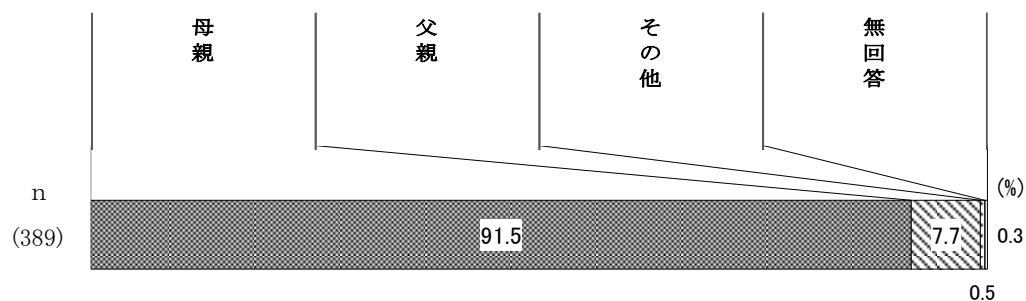
○きょうだいの数は、「2人」が42.7%と最も多く、次いで「1人」が33.9%、「3人」が16.5%、「4人」が5.1%となっています。

④末子の年齢



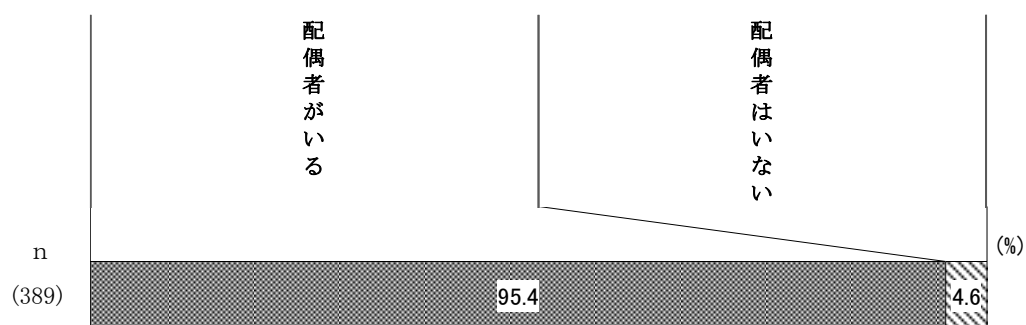
○末子の年齢は、「5歳」が19.4%と最も多く、次いで「4歳」が16.6%、「3歳」が14.6%、「0歳」が14.2%などとなっています。

⑤回答者



○回答者は、「母親」が91.5%を占めています。

⑥回答者の配偶関係

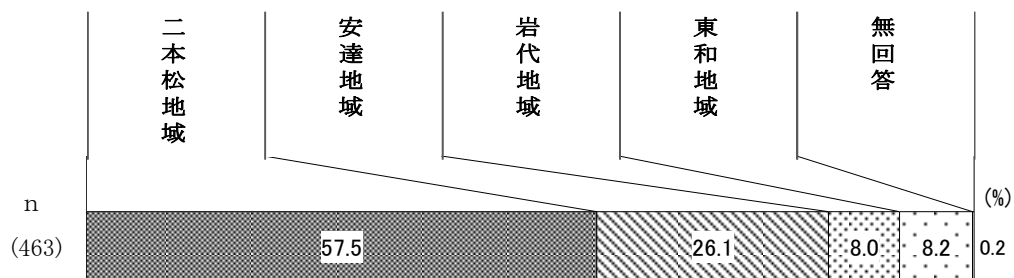


○回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が95.4%を占めています。

○一方で、「配偶者がいない」は4.6%となっています。

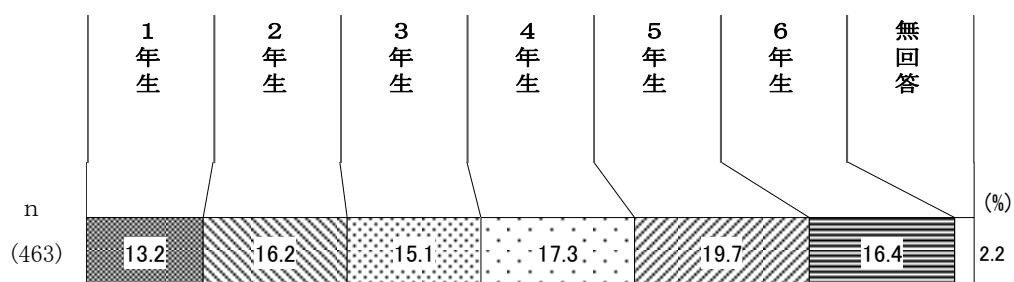
(2) 小学生の保護者

① 居住地区



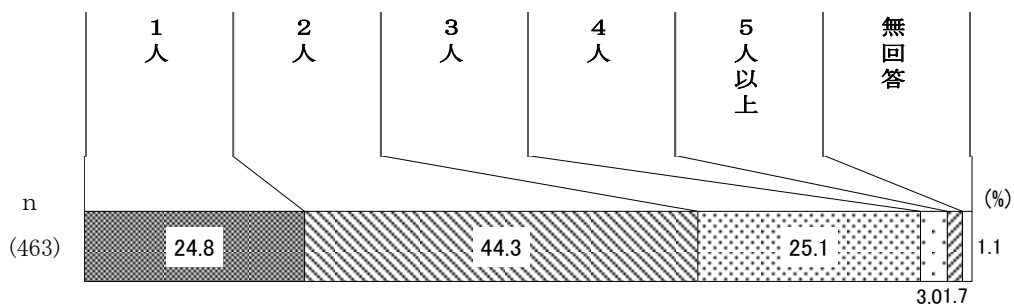
○居住地区は、「二本松地域」が57.5%と最も多く、次いで「安達地域」が26.1%、「東和地域」が8.2%、「岩代地域」が8.0%となっています。

② 子どもの学年



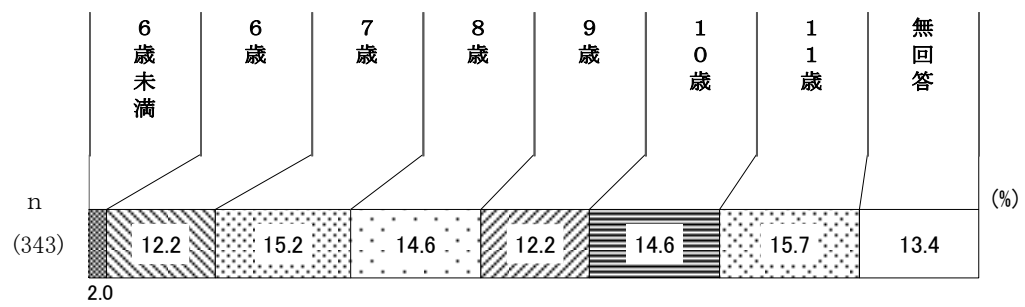
○子どもの学年は、「5年生」が19.7%最も多く、次いで「4年生」が17.3%、「6年生」が16.4%、「2年生」が16.2%、「3年生」が15.1%、「1年生」が13.2%と、小学1～3年生が44.5%、4～6年生が53.4%となっています。

③ きょうだいの数



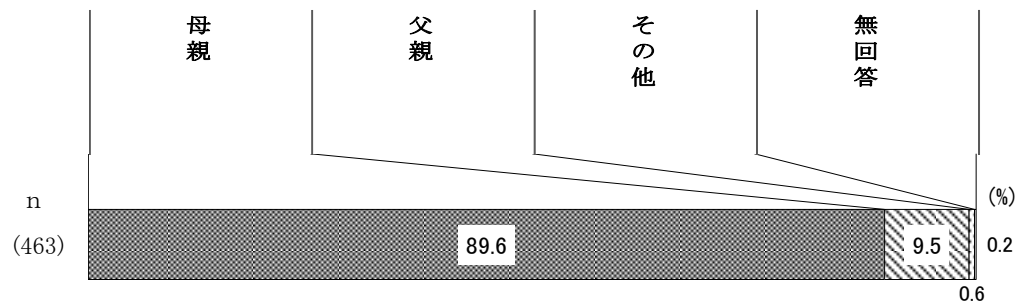
○きょうだいの数は、「2人」が44.3%と最も多く、次いで「3人」が25.1%、「1人」が24.8%、「4人」が3.0%となっています。

④末子の年齢



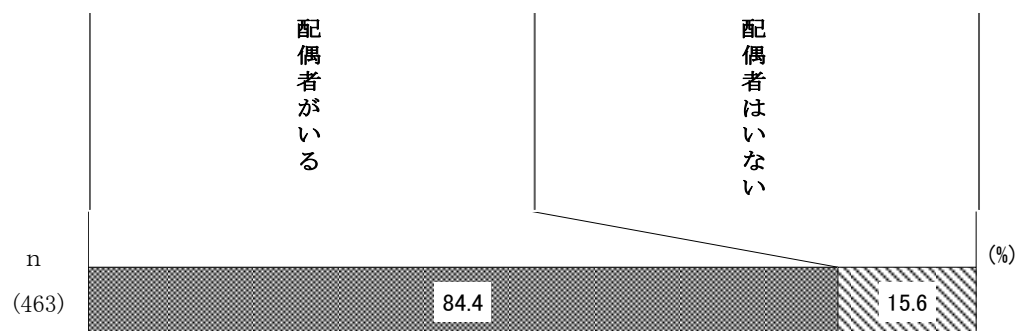
○末子の年齢は、「11歳」が15.7%と最も多く、次いで「7歳」が15.2%、「8歳」「10歳」がともに14.6%などとなっています。

⑤回答者



○回答者は、「母親」が89.6%を占めています。

⑥回答者の配偶関係



○回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が84.4%を占めています。

○一方で、「配偶者がいない」は15.6%となっています。

6 調査結果からみた現状と課題

課題の抽出にあたっては、調査結果に加えてクロス集計等のデータを基に、より詳しい分析を行いました。

結果1 子育ての環境や支援に対する満足度（ふつう・やや満足・満足）は、 就学前児童は7割・小学生は6割弱

○本市の子育て環境や支援に対する満足度を就学前児童・小学生別にみると、「ふつう」＋「やや満足」＋「満足」の計は就学前児童が70.5%、小学生が64.8%となっています。令和元年度調査との経年比較では、就学前児童は5.0^{ポイント}、小学生は11.6^{ポイント}低くなっています。【問30[問20]】



以上の結果から、本市の子育て環境や支援は両保護者から厳しく評価されていると言えます。女性の社会進出や就労形態の変化、子どもの貧困問題等、現代の生活スタイルにより求められる子育て支援サービスは多様化しているため、子育て中の保護者が安心して子育てができるよう、保護者の視点に立った施策、時代に即した施策が求められています。

結果2 親族や友人等の援助が得られない就学前児童・小学生の保護者は約1割

○就学前児童・小学生の保護者の多くは、子育てに関して親族や友人・知人からの協力を得られる状況です。一方、「いずれもない」割合をみると就学前児童は7.7%、小学生は10.6%となっています。【問7】



以上の結果から、身近な人からの援助が得られない育児環境にある世帯に対し、個々のニーズに対応した子育て支援の手を差し伸べるとともに、利用可能な子育て支援サービスに関する積極的な情報提供や、利用促進への取組が必要となります。

結果3 子育てに関して気軽に相談できる相手のいる保護者は多いが、 公的機関への相談割合は低い

○保護者が子育てに関して気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」は就学前児童・小学生ともに8割を超えており、相談相手は「祖父母等の親族」、「友人や知人」と、身近な人が上位を占めています。【問10・10-1】

○一方、公的機関を相談先としている割合は低く、就学前児童の保護者では「保健センター等の保健師」（11.7%）、「子育て支援センター等の職員」（11.1%）、「NPO法人の職員」（1.2%）、「市役所や家庭児童相談室の職員」（0.3%）などの状況です。【問10-1】

○子育てに関して気軽に相談できる人が「いない／ない」割合は、就学前児童は11.6%、小学生は11.7%となっています。【問10】



以上の結果から、公的な相談機関がより身近な相談先となるよう、教育・保育施設等と連携して、活動の周知徹底・普及を図るとともに、体制の充実を図る必要があります。

結果4 母親の就労率（育休等を含む）は、就学前児童7割台、小学生8割台

○母親の就労状況（育休等を含む）をみると、「フルタイムで就労している」と「フルタイム以外で就労している」を合わせた就労率は、就学前児童78.1%、小学生86.0%となっています。令和元年度調査との経年比較では、就学前児童は5.1^{ポイント}、小学生は5.5^{ポイント}高くなっています。【問11[問15]】



以上の結果から、定期的な教育・保育事業の利用は平日の7時台～19時台まで預けられる事業運営や、平日以外にも預けられる運営体制についても検討が必要となります。

結果5 放課後児童クラブ（小学校低学年時）の利用希望は、小学生は5割半

○小学校低学年時の放課後の過ごし方として、「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用を希望する割合は、小学生は55.8%となっています。一方、小学校高学年時では、37.8%となっています。【問16・17】

○現在通っている（通いたい）学童保育に希望することは、「夕方の利用時間を延長する」（20.9%）、「施設や設備を改善する」（20.4%）、「指導内容を工夫する」（19.4%）となっています。【問19】



以上の結果から、小学生の放課後の安全な過ごし方として、放課後児童クラブ（学童保育）は重要な役割を果たしていると言えます。今後も子どもの健全な成長に繋がる事業として、保護者のニーズを反映しながら、よりよい事業内容への改善、環境・運営の整備を図り、さらに充実していくことが求められます。

結果6 就労者の育児休業の取得（または取得中）割合は、母親8割、父親1割弱

○就労者（「働いていなかった」と回答した方を除く）のうち、育児休業を取得または取得中の母親は80.9%、父親は12.8%となっています。また、母親は前回調査時（78.6%）に比べて2.3^{ポイント}高く、父親は前回調査時（1.1%）に比べて11.7^{ポイント}高くなっています。【問26】

○父親が育児休業を取得していない理由をみると、「仕事が忙しかった」（43.5%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（38.4%）、「配偶者が育児休業制度を利用した」（32.2%）などとなっています。【問26】

○育児休業取得後の母親の職場復帰状況をみると、8割近くが復帰し、1割強が取得中、そして、休業中の離職が4.6%となっています。【問26-1】

○母親が育児休業から職場復帰の時期をみると、「1歳～1歳6ヶ月未満」が58.0%と最も高くなっています。【問26-3】



以上の結果から、安心して出産・育児ができるよう、職場環境の整備と公的支援制度の周知・普及を図るとともに、育児休業期間満了時からスムーズな教育・保育事業の利用につなげ、保護者が不安なく利用できる事業体制・運営となるよう、更なる改善への取組が必要です。また、父親の育児休業取得率は上昇してきたことから、今後の更なる向上を目指し、育児や家事分担に対する意識改革や、取得しやすい職場環境の整備など、父親の育児参加の促進を図る必要があります。

第2章

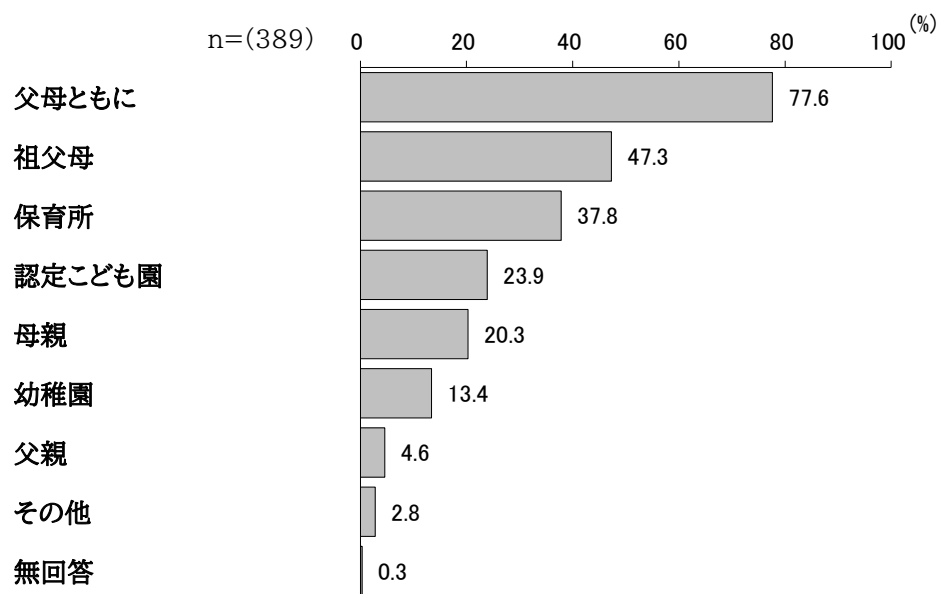
調査結果

第2章 就学前児童の調査結果

1 子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに日常的に関わっている人

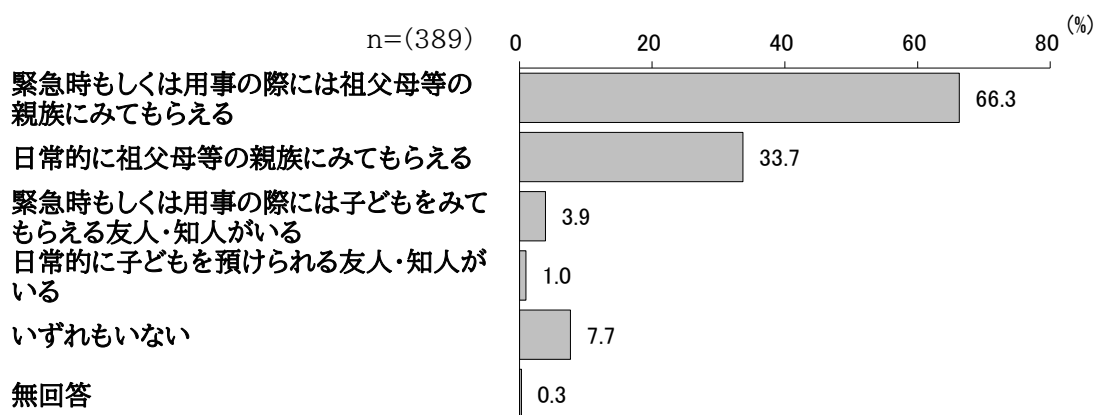
問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。※お子さんからみた関係でお答えください。（あてはまるものすべてに○）



○主に子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人は、「父母ともに」が77.6%と最も多く、次いで「祖父母」（47.3%）、「保育所」（37.8%）、「認定こども園」（23.9%）などとなっています。

(2) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

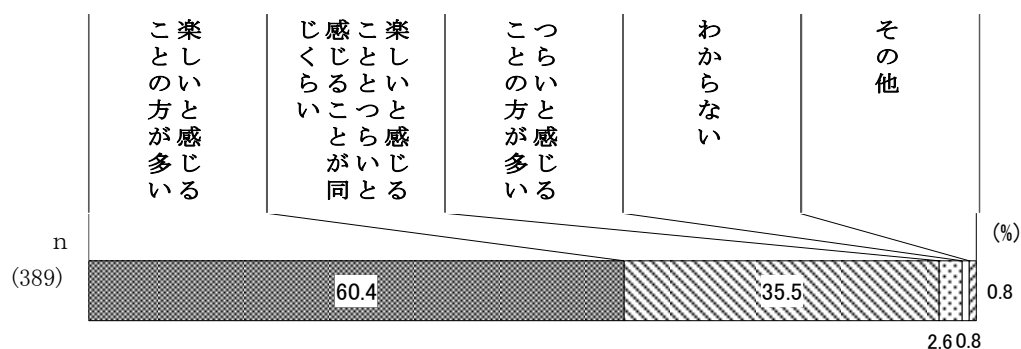


○子どもをみてもらえる親族・知人は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 66.3%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(33.7%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(3.9%)となっています。

○一方で、「いずれもない」は 7.7%となっています。

(3) 子育てを楽しい・つらいと感じる度合い

問8 ご自身にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか。それともつらいと感じることが多いと思いますか。(1つに○)



○子育てを楽しいまたは、つらいと感じる度合いについては、「楽しいと感じることが多い」が 60.4%と最も多いものの、「楽しいと感じることが多いとつらいと感じることが同じくらい」が 35.5%、「つらいと感じることが多い」は 2.6%となっています。

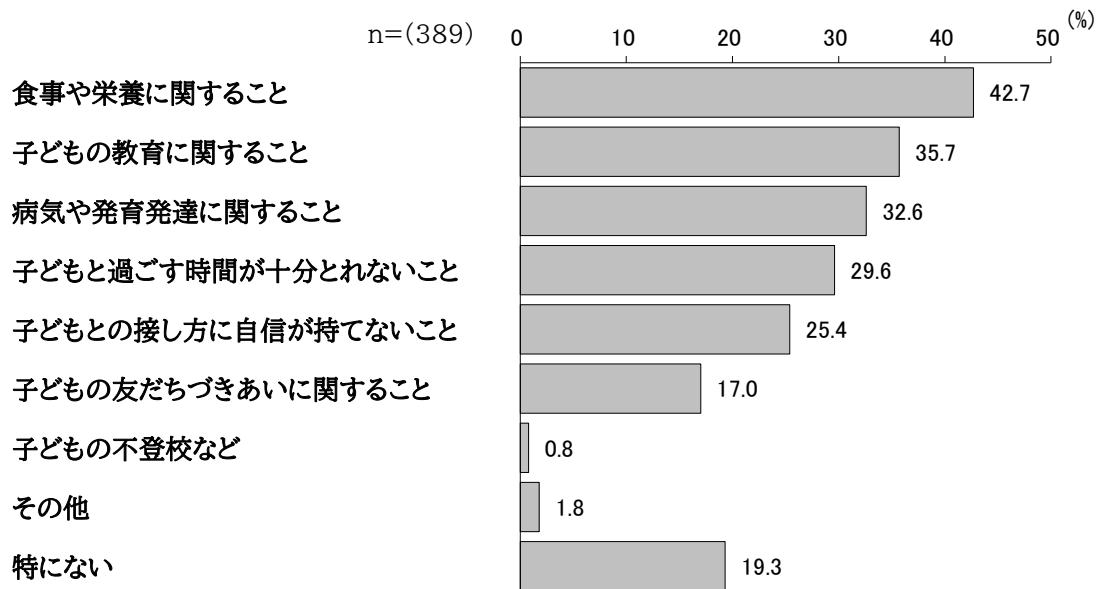
(4) 子育てに日常悩んでいること

問9 子育てに関して、日常悩んでいること、あるいは気になることは何ですか。

(1) 子どもに関すること

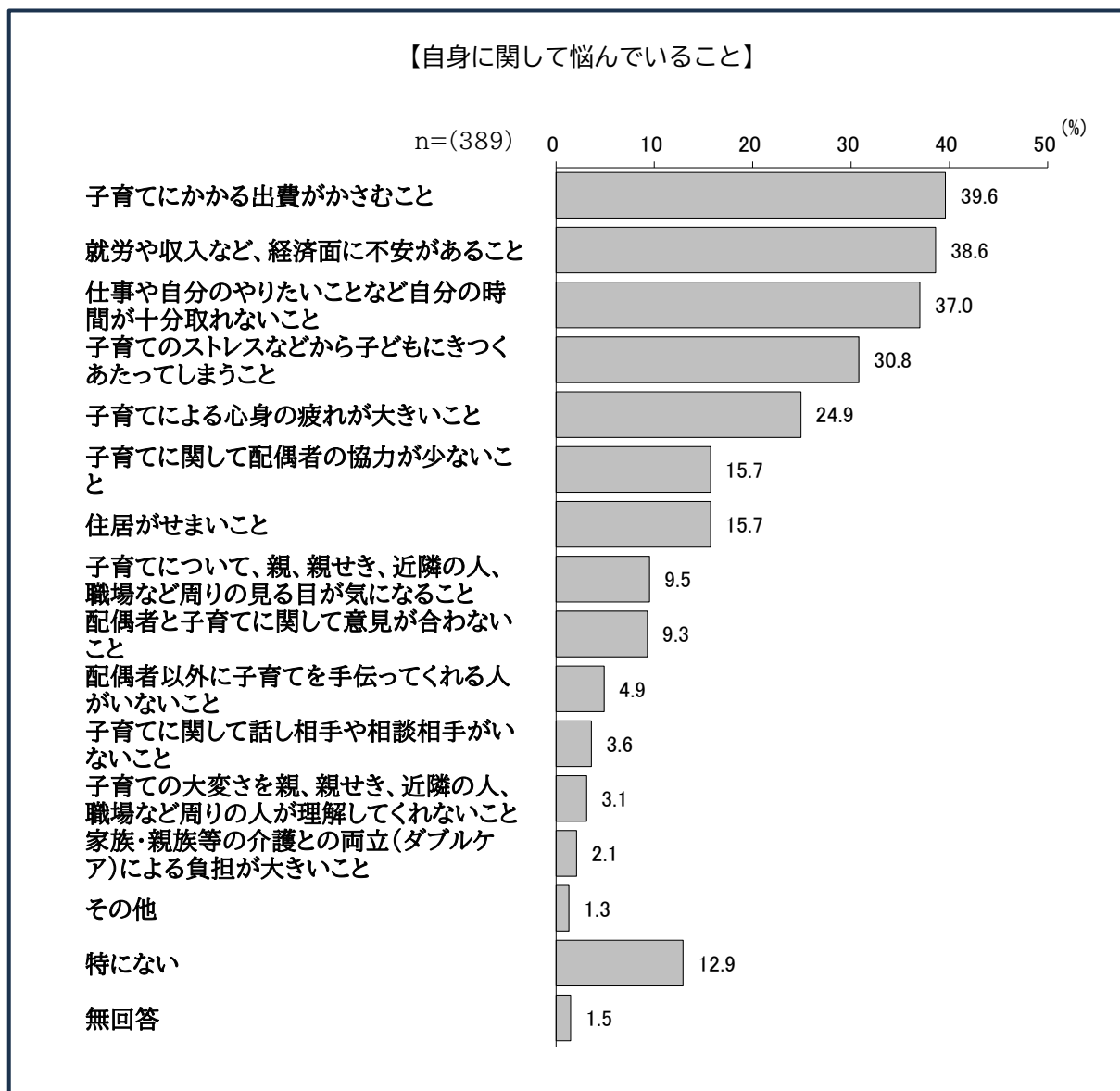
(2) ご自身に関すること（あてはまるものすべてに○）

【子どもに関して悩んでいること】



○子育てに関して、子どもに関することで日常悩んでいる、気になることは、「食事や栄養に関すること」が(42.7%)と最も多く、次いで「子どもの教育に関すること」(35.7%)、「病気や発育発達に関すること」(32.6%)、「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」(29.6%) などとなっています。

○一方で、「特にない」は19.3%となっています。



○子育てに関して、自身に関することで日常悩んでいる、気になることは、「子育てにかかる出費がかさむこと」が 39.6%と最も多く、次いで「就労や収入など、経済面に不安があること」(38.6%)、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」(37.0%)、「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」(30.8%)、「子育てによる心身の疲れが大きいこと」(24.9%) などとなっています。

○一方で、「特にない」は 12.9%となっています。

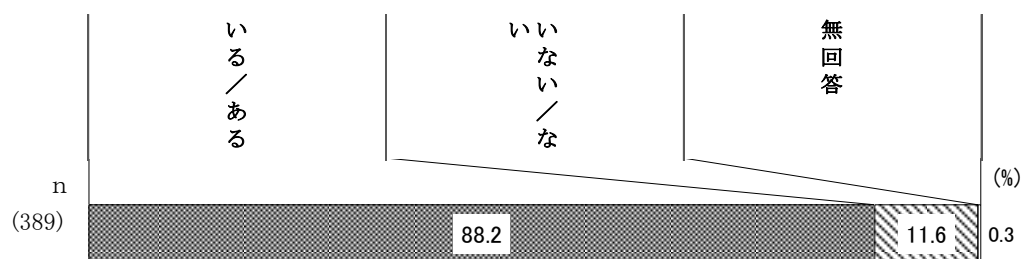
(5) 子育てに関して相談できる人

問10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（1つに○）

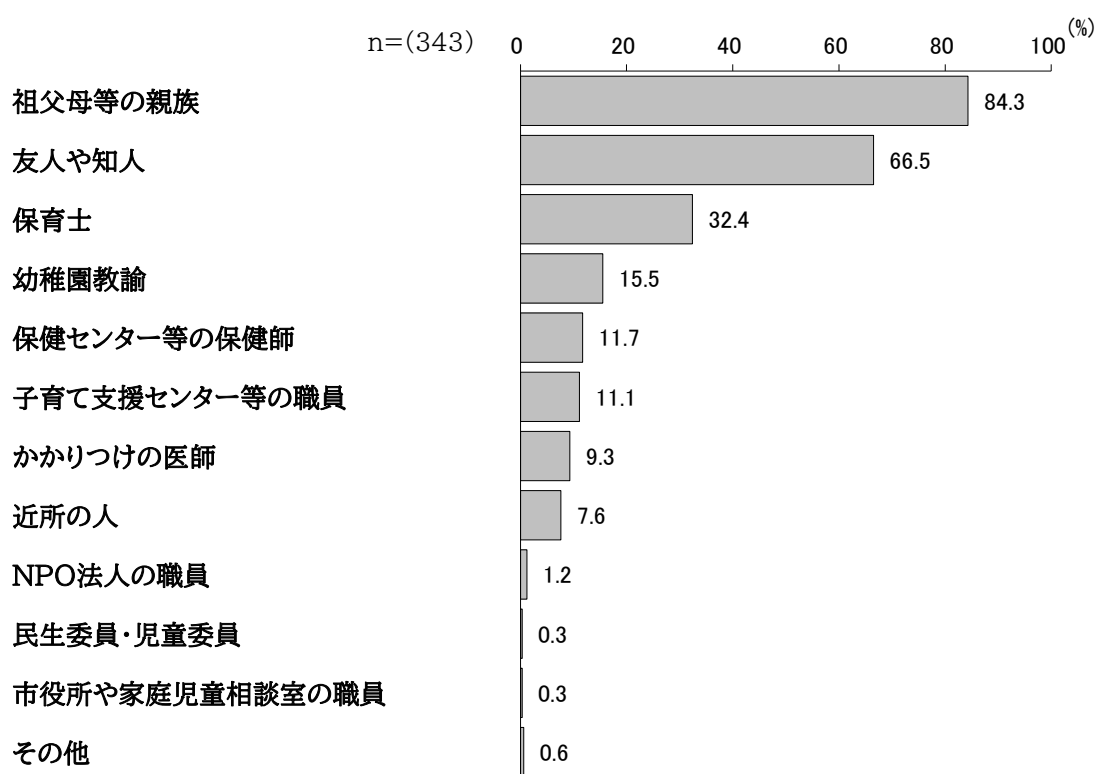
【問10で「いる／ある」と回答した方のみ】

問10-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

【相談相手の有無】



【相談相手】



○子育てに関して、相談できる人の有無は、「いる／ある」は88.2%を占めています。

○一方で、「いない／ない」は11.6%となっています。

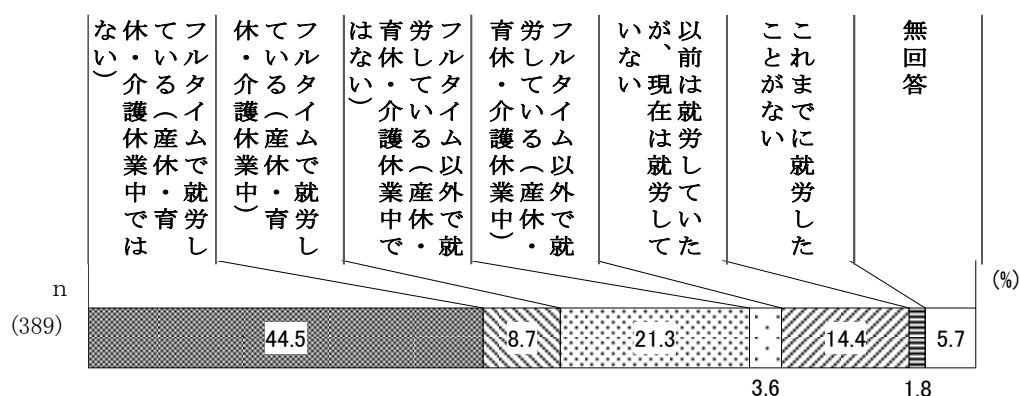
○子育てに関しての相談相手は、「祖父母等の親族」が84.3%と最も多く、次いで「友人や知人」(66.5%)、「保育士」(32.4%)、「幼稚園教諭」(15.5%) などとなっています。

2 保護者の就労状況について

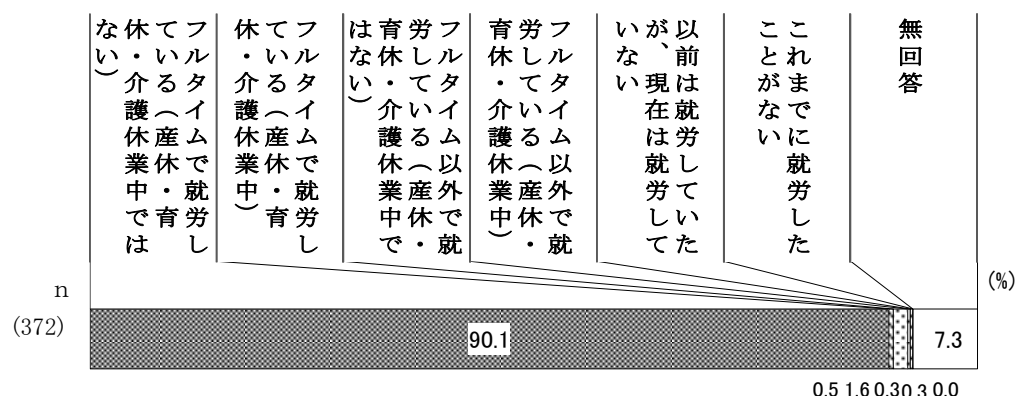
(1) 就労状況

問 11 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。
（母親、父親のそれぞれについて、1つに○）

【就労状況：母親】



【就労状況：父親】



○母親の就労状況は、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中ではない）」が44.5%と最も多く、次いで「フルタイム以外で就労している（産休・育休・介護休業中ではない）」(21.3%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(14.4%)、などとなっており、「フルタイム」と「フルタイム以外」を合わせた『就労している』人は78.1%となっています。

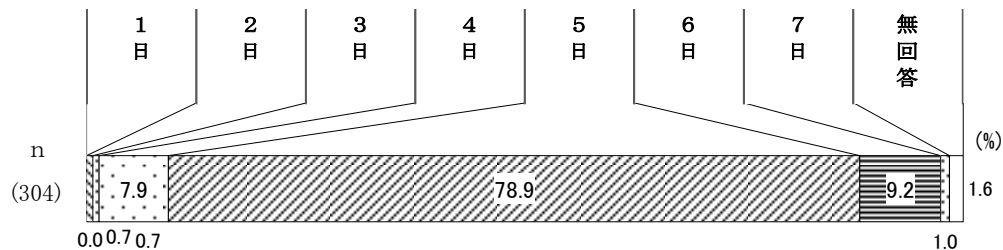
○父親の就労状況は、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中ではない）」が最も多く90.1%を占め、『就労している』人は92.5%となっています。

(2) 1週当たりの就労日数と就労時間

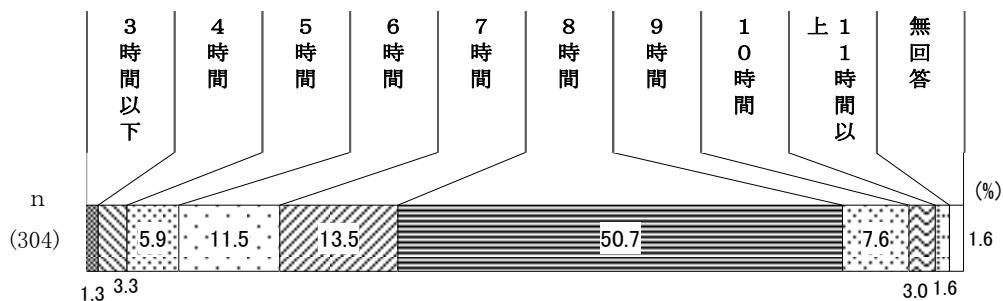
【問11で「就労している」と回答した方のみ】

問11-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」を、口内に具体的な数字でご記入ください。

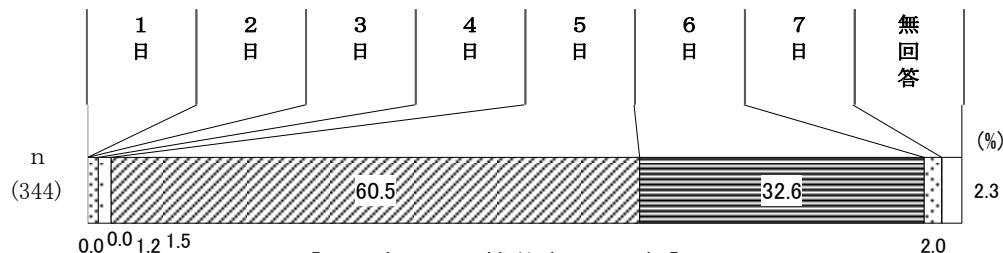
【1週当たりの就労日数：母親】



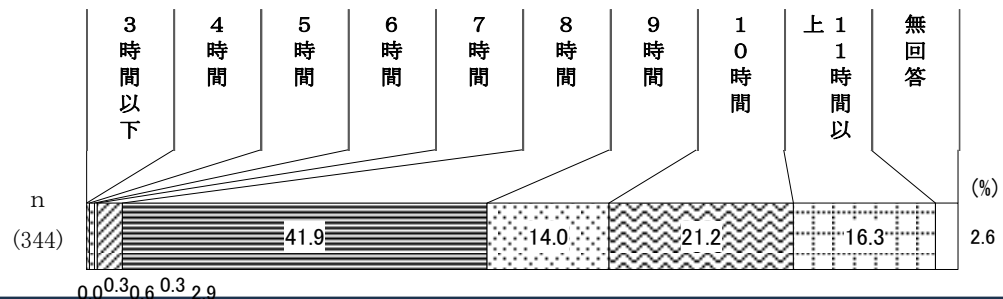
【1日当たりの就労時間：母親】



【1週当たりの就労日数：父親】



【1日当たりの就労時間：父親】



○母親の1週当たりの就労日数は、「5日」が78.9%と最も多く、次いで「6日」(9.2%)、「4日」(7.9%)となっています。1日当たりの就労時間は、「8時間」が50.7%と最も多く、次いで「7時間」(13.5%)、「6時間」(11.5%)などとなっています。

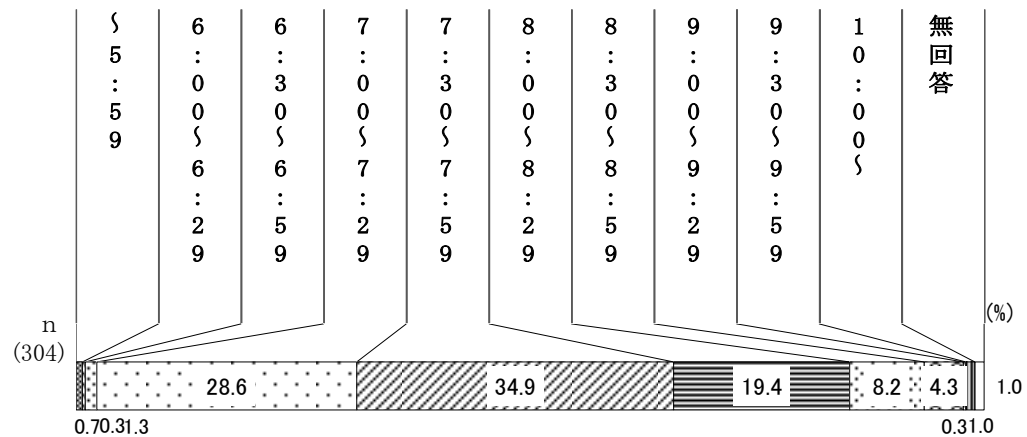
○父親の1週当たりの就労日数は、「5日」が60.5%と最も多く、次いで「6日」が32.6%となっています。1日当たりの就労時間は、「8時間」が41.9%と最も多いものの、母親を8.8ポイント下回り、「10時間」(21.2%)、「11時間以上」(16.3%)、「9時間」(14.0%)が多くなっています。

(3) 家を出る時間、帰宅時間

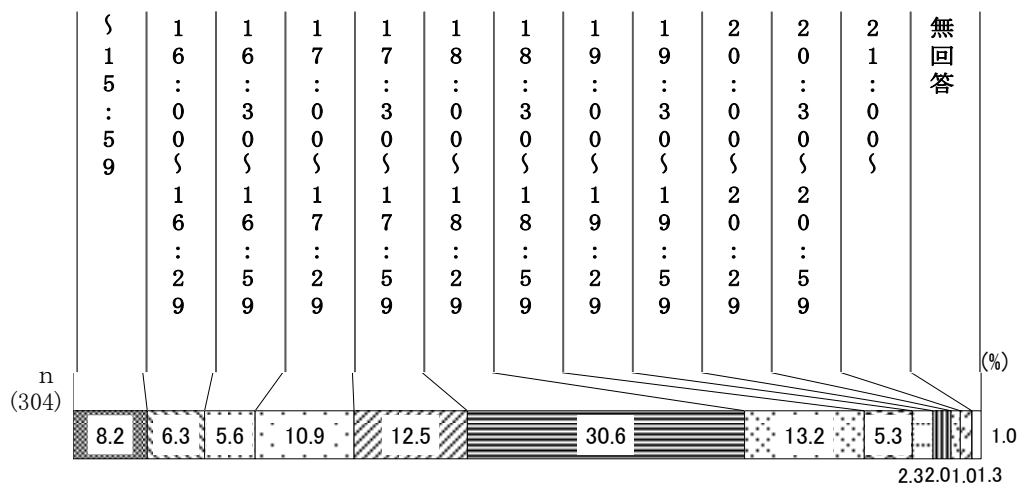
【問 11 で「就労している」と回答した方のみ】

問 11-2 家を出る時間と帰宅時間を、口内に具体的な数字でご記入ください。時間は 24 時間制でご記入ください。

【家を出る時間：母親】

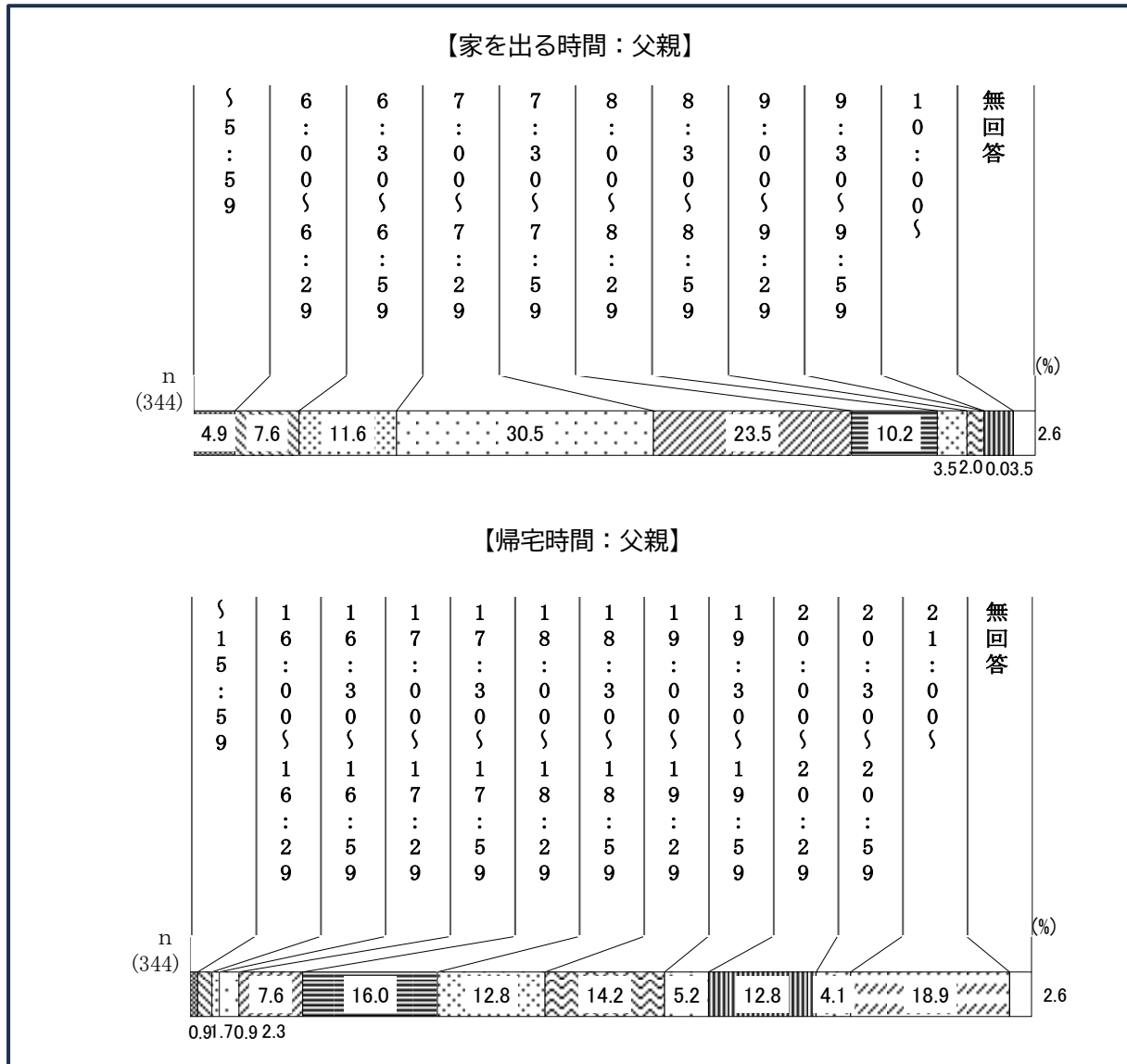


【帰宅時間：母親】



○母親の家を出る時間は、「7：30～7：59」が 34.9%と最も多く、次いで「7：00～7：29」（28.6%）、「8：00～8：29」（19.4%）と、7時台は 63.5%、8時台は 27.6%となっています。

○帰宅時間は、「18：00～18：29」が 30.6%と最も多く、次いで「18：30～18：59」（13.2%）、「17：30～17：59」（12.5%）、「17：00～17：29」（10.9%）と、17時台は 23.4%、18時台は 43.8%となっています。



○父親の家を出る時間は、「7:00～7:29」が30.5%と最も多く、次いで「7:30～7:59」(23.5%)、「6:30～6:59」(11.6%)、「8:00～8:29」(10.2%)と、6時台は19.2%、7時台は54.0%となっています。

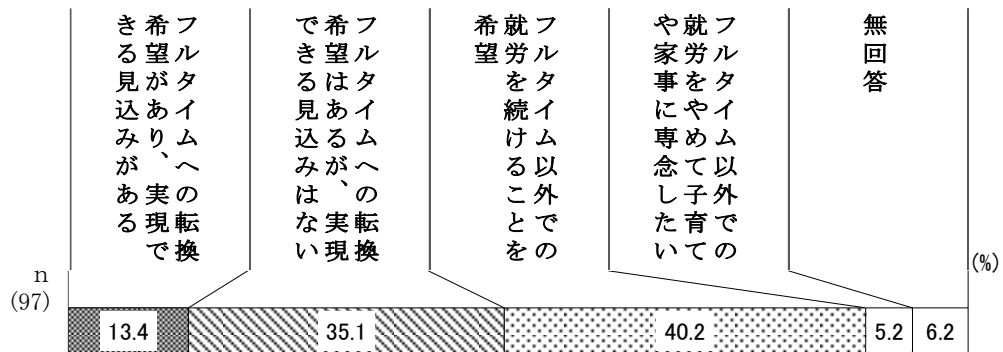
○帰宅時間は、「21:00～」が18.9%と最も多く、次いで「18:00～18:29」(16.0%)、「19:00～19:29」(14.2%)、「20:00～20:29」(12.8%)と、18時台は28.8%、19時台は19.4%、20時台は16.9%となっています。

(4) フルタイムへの転換希望

【問 11 で「フルタイム以外で就労している」と回答した方のみ】

問 11-3 フルタイムへの転換希望はありますか。(母親、父親のそれぞれについて、1 つに○)

【母親】



○フルタイム以外で就労している人のフルタイムへの転換希望は、母親では、「フルタイム以外での就労を続けることを希望」が 40.2%と最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(35.1%)、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」(13.4%)となっています。

※父親の調査結果は、回答数が7件と少ないため非掲載とします。

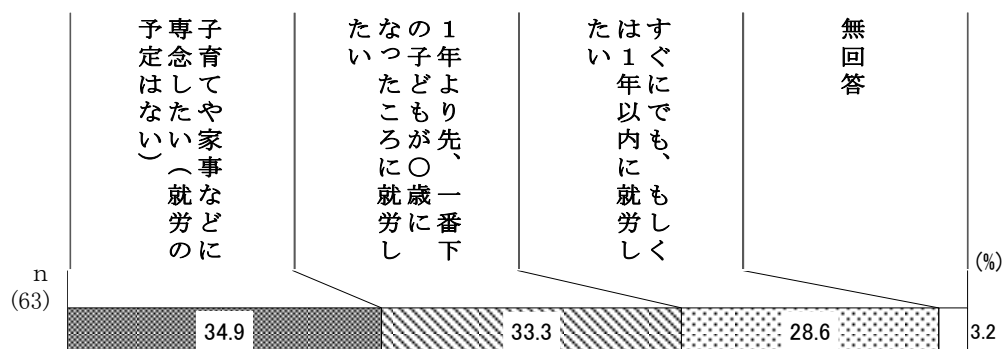
(5) 就労希望

【問11で「就労していない」と回答した方のみ】

問11-4 就労したいという希望はありますか。

(母親、父親のそれぞれについて、1つに○。□内に具体的な数字記入)

【就労希望：母親】



【就労したい末子の年齢：母親】

調査数	上段：件数、下段：%				
	0～1歳	2～3歳	4～5歳	6～8歳	無回答
21	3	4	4	9	1
100.0	14.3	19.0	19.0	42.9	4.8

○就労していない人の就労希望は、母親では、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が34.9%と最も多く、次いで1年より先、一番下の子どもが○歳になったところに就労したい（33.3%）、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（28.6%）となっています。

○母親の就労したい末子の年齢は、「6～8歳」が42.9%と最も多く、次いで「2～3歳」「4～5歳」（ともに19.0%）となっています。

※父親の調査結果は、回答数が1件と少ないため非掲載とします。

(6) 希望する就労形態

【問 11-4 で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した方のみ】

問 11-5 希望する就労形態をお答えください。

(母親、父親のそれぞれについて、1つに○。□内に具体的な数字記入)

【希望する就労形態：母親】

上段：件数、下段：%

調査数	フルタイム	フルタイム以外等
18	5	13
100.0	27.8	72.2

【希望する1週当たり就労日数：母親】

上段：件数、下段：%

調査数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
13	-	-	5	5	3	-	-
100.0	-	-	38.5	38.5	23.1	-	-

【希望する1日当たり就労時間：母親】

上段：件数、下段：%

調査数	3時間未満	4時間	5時間	6時間	7時間以上
13	-	6	4	3	-
100.0	-	46.2	30.8	23.1	-

○すぐに、または1年以内に就労したい人の希望する就労形態は、母親では、「フルタイム」が27.8%、「フルタイム以外等」が72.2%となっています。

○フルタイム以外等で希望する人の1週当たり就労日数は、「3日」「4日」(ともに38.5%)や「5日」(23.1%)となっています。

○1日当たり就労時間は、「4時間」が46.2%と最も多く、次いで「5時間」(30.8%)、「6時間」(23.1%)となっています。

※父親の調査結果は、回答数が1件と少ないため非掲載とします。

3 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

(1) 平日利用している定期的な教育・保育事業

問 12 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用していますか。(1つに○)

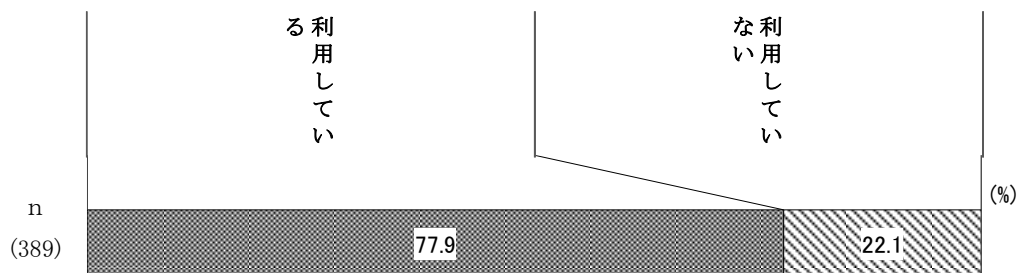
【問 12 で「利用している」と回答した方のみ】

問 12-1 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。

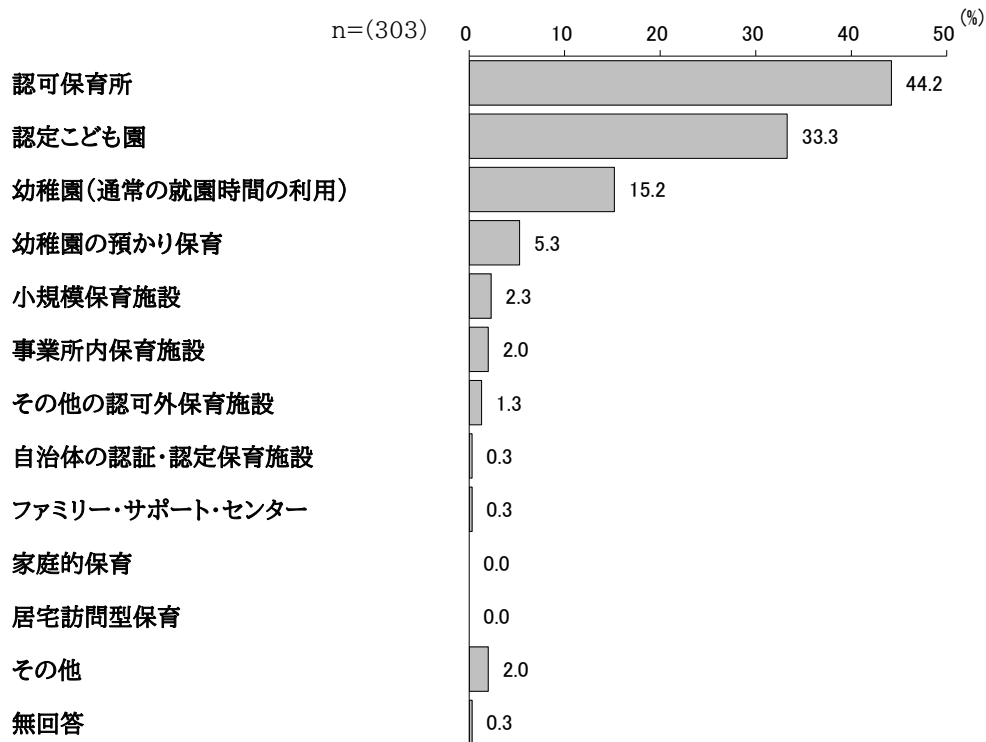
※年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

【定期的な教育・保育事業の利用状況】



【利用している教育・保育事業】



○平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は、「利用している」が 77.9%、「利用していない」が 22.1%となっています。

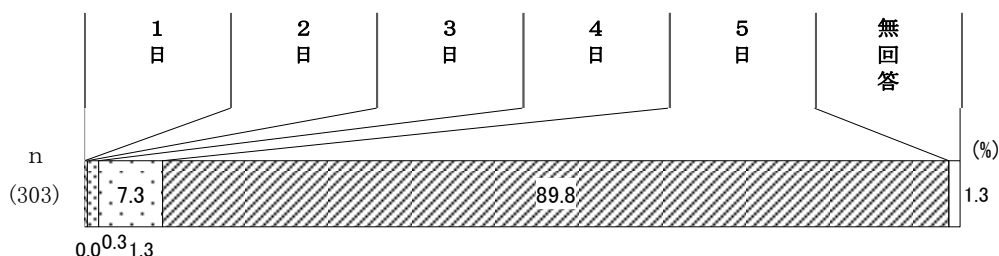
○利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が 44.2%と最も多く、次いで「認定こども園」(33.3%)、「幼稚園(通常の就園時間の利用)」(15.2%)、「幼稚園の預かり保育」(5.3%) などとなっています。

(2) 教育・保育事業の利用日数と利用時間

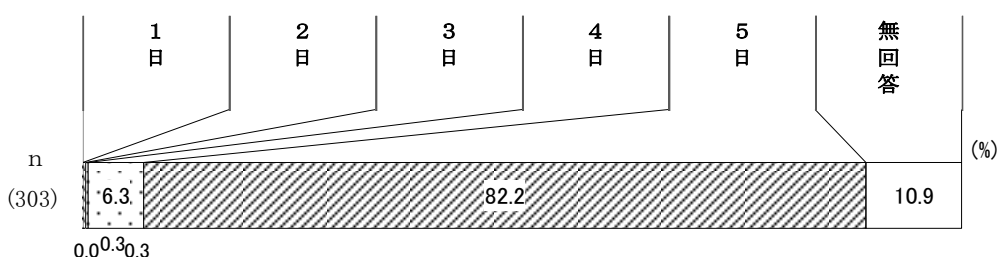
【問12で「利用している」と回答した方のみ】

問12-2 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、どのくらい利用していますか。
また、希望としてはどのくらい利用したいですか。

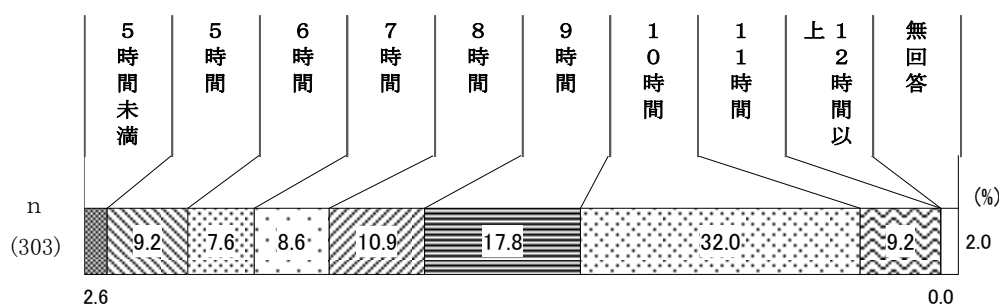
【1週当たりの利用日数：現在】



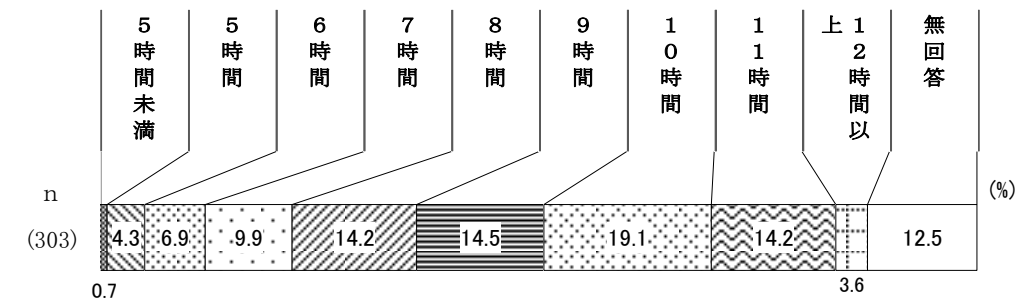
【1週当たりの利用日数：希望】



【1日当たりの利用時間：現在】



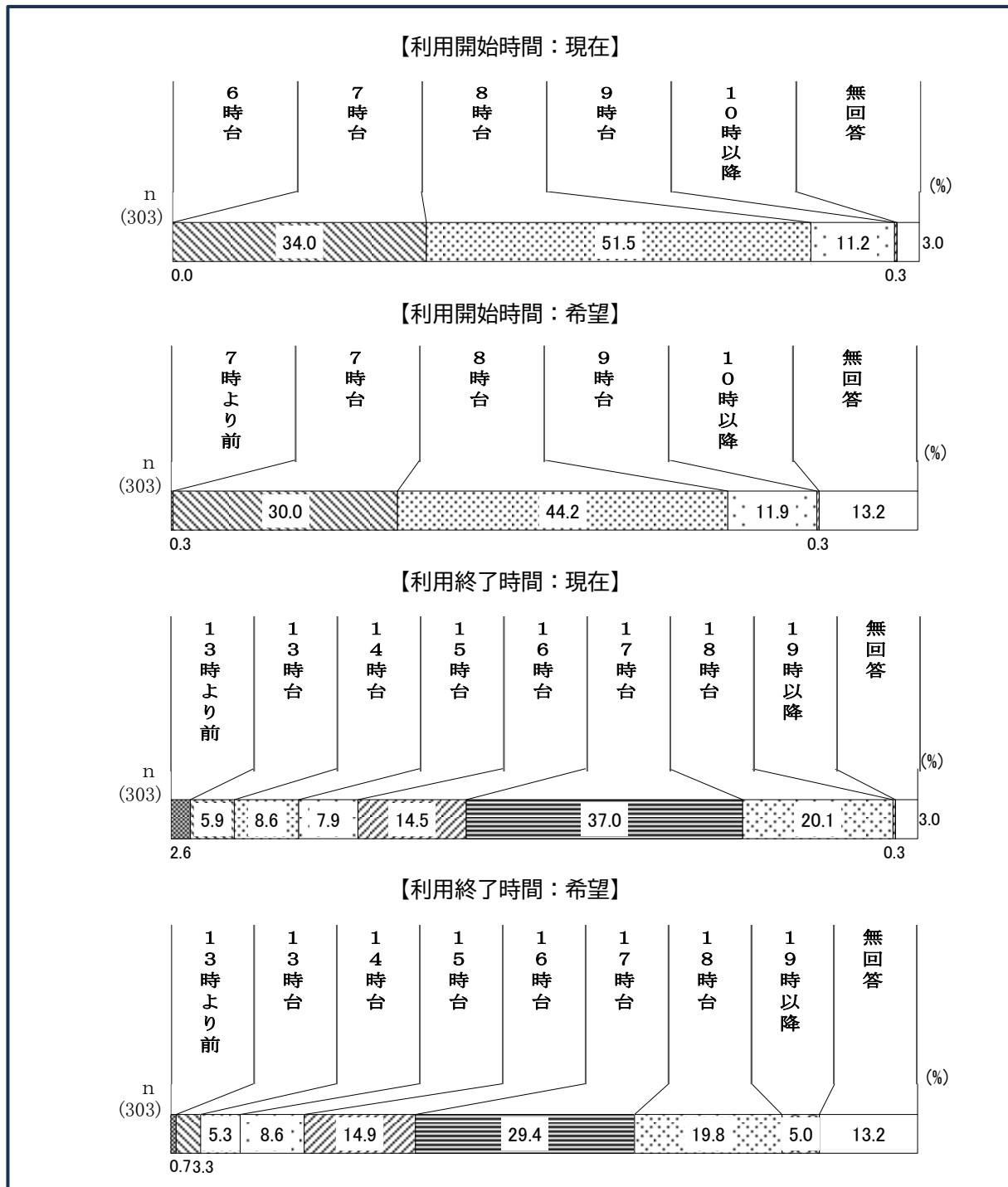
【1日当たりの利用時間：希望】



○利用している人の1週当たり利用日数は、「5日」が 89.8%を占め、希望の利用日数も「5日」が 82.2%となっています。

○現在の1日当たり利用時間は、「10時間」が 32.0%と最も多く、次いで「9時間」(17.8%)、「8時間」(10.9%) となっています。

○希望の1日当たり利用時間は、「10時間」(19.1%) や「9時間」(14.5%) が多いものの現在より少なくなり、「8時間」「11時間」(ともに 14.2%) が多くなっています。



○現在の利用開始時間は、「8時台」が51.5%と最も多く、次いで「7時台」(34.0%)、「9時台」(11.2%)となっています。

○希望の利用開始時間は、「8時台」が44.2%と最も多いものの、現在より7.3ポイント少なくなっています。次いで「7時台」(30.0%)、「9時台」(11.9%)となっています。

○現在の利用終了時間は、「17時台」が37.0%と最も多く、次いで「18時台」(20.1%)、「16時台」(14.5%)、「14時台」(8.6%)となっています。

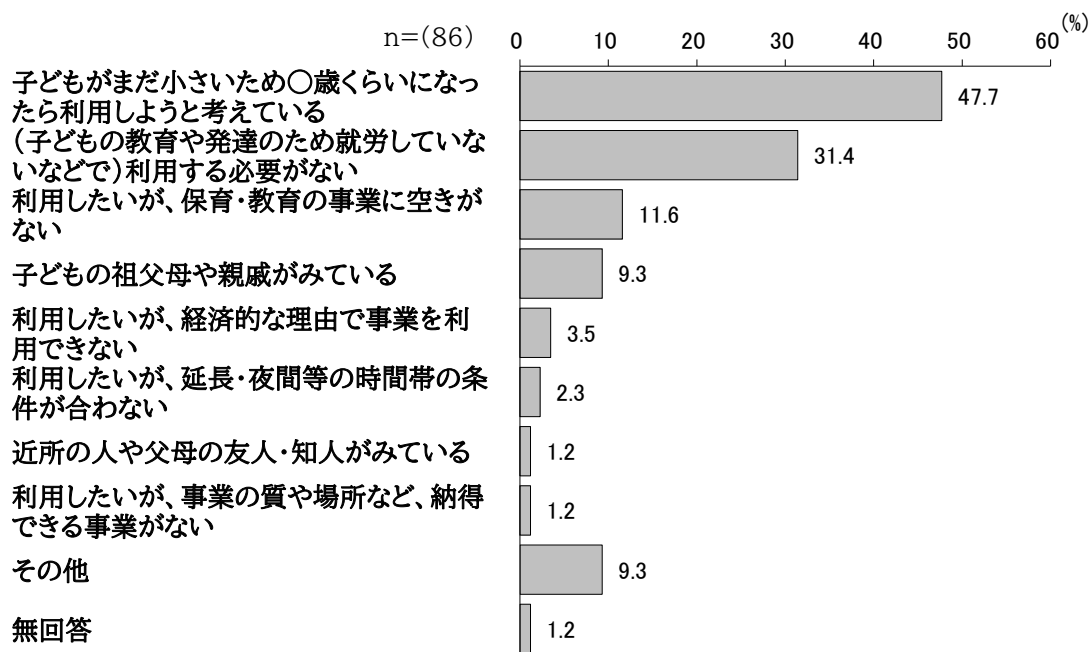
○希望の利用終了時間は、「17時台」が29.4%と最も多いものの、現在より7.6ポイント少なくなり、次いで「18時台」(19.8%)、「16時台」(14.9%)となっています。

(3) 教育・保育事業を利用していない理由

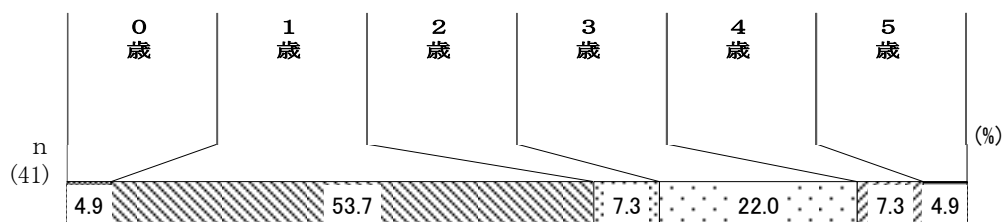
【問12で「利用していない」と回答した方のみ】

問12-3 利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

【教育・保育事業を利用していない理由】



【利用を考えている子どもの年齢】



○平日に定期的な教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため○歳くらいになったら利用しようと考えている」が47.7%と最も多く、次いで「(子どもの教育や発達のため就労していないなどで)利用する必要がある」(31.4%)、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」(11.6%) などとなっています。

○「子どもがまだ小さいため○歳くらいになったら利用しようと考えている」と回答した人が、利用を考えている子どもの年齢は、「1歳」が53.7%と最も多く、次いで「3歳」(22.0%)、「2歳」「4歳」(ともに7.3%) となっています。

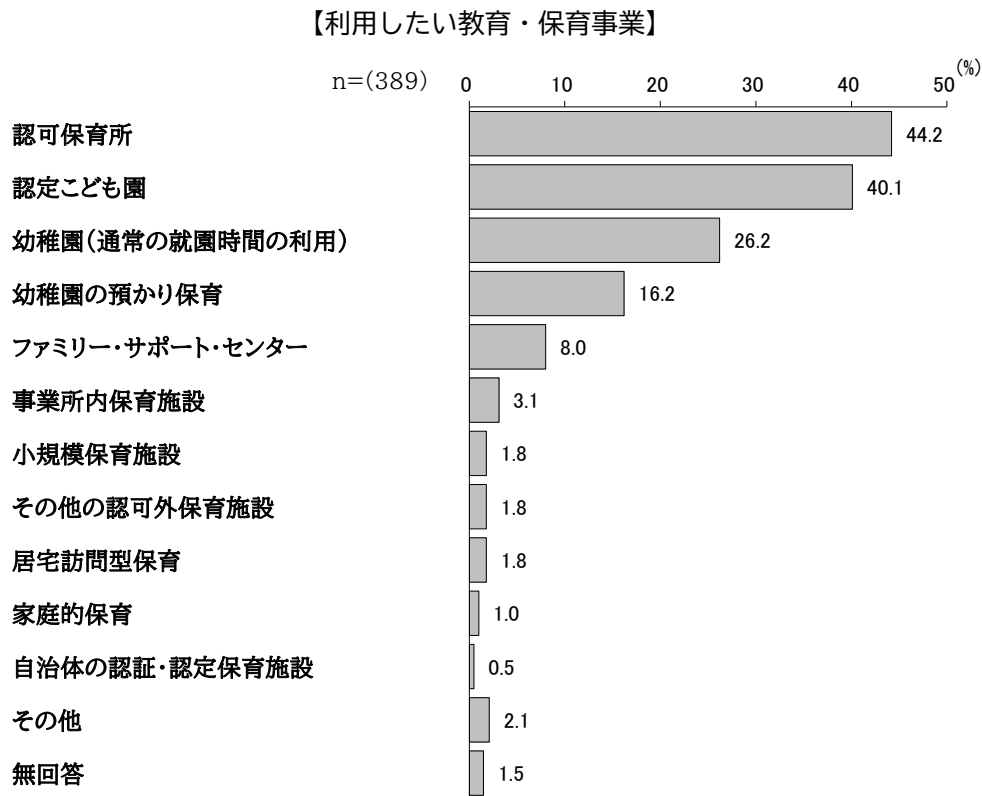
(4) 平日利用したい教育・保育事業

問 13 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したいと考える事業はどれですか。

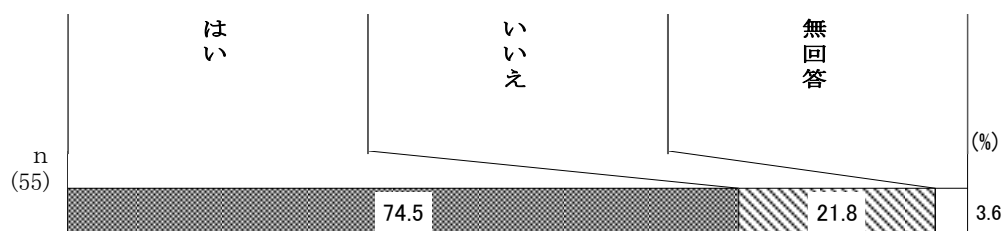
(あてはまるものすべてに○)

【問 13 で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」かつ、それ以外も回答した方のみ】

問 13-1 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育を併せて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（1 つに○）



【特に幼稚園の利用を強く希望するか】



○平日、定期的に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」が 44.2%と最も多く、次いで「認定こども園」(40.1%)、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」(26.2%)、「幼稚園の預かり保育」(16.2%)と、現在の利用状況と同順ではあるもの、「認定こども園」「幼稚園（通常の就園時間の利用）」「幼稚園の預かり保育」の意向は多くなっています。

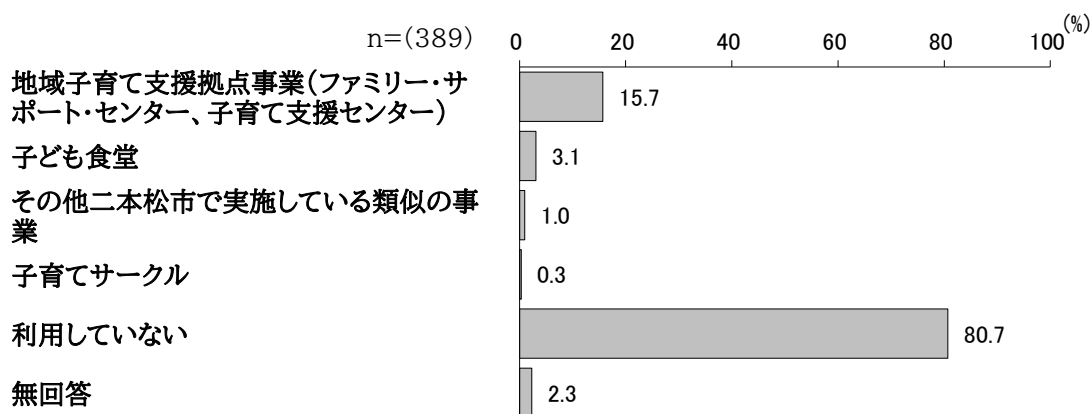
○「幼稚園」とそのほかの事業を希望した人のうち、特に幼稚園の利用を強く希望するかは、「はい」が 74.5%、「いいえ」が 21.8%となっています。

4 地域の子育て支援事業の利用状況について

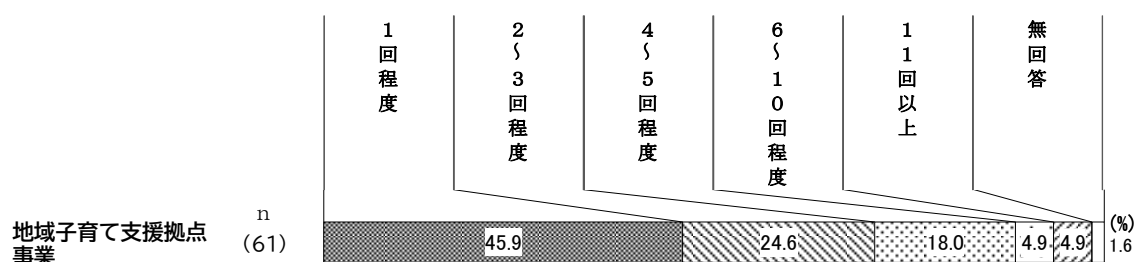
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

問 14 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「ファミリー・サポート・センター」「子育て支援センター」等と呼ばれています）を利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

【地域子育て支援拠点事業の利用状況】



【1ヶ月当たりの利用回数】



○地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「地域子育て支援拠点事業（ファミリー・サポート・センター、子育て支援センター）」で 15.7%、「子ども食堂」は 3.1%となっています。

○一方で、「利用していない」が 80.7%を占めています。

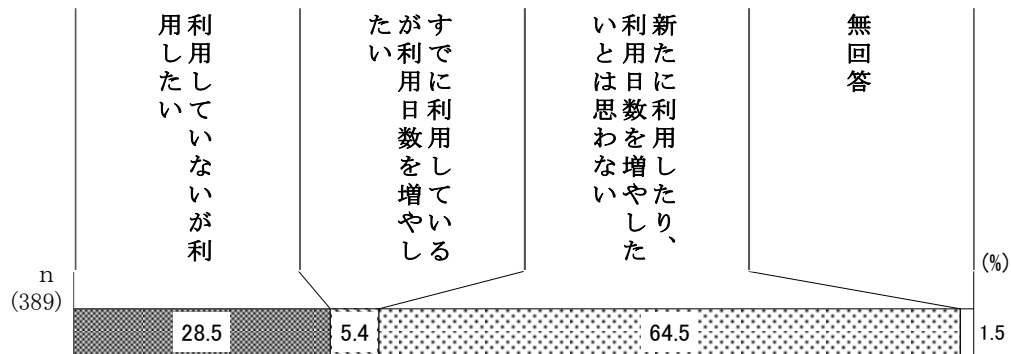
○地域子育て支援拠点事業を利用している人の1ヶ月の利用回数は、「1回程度」(45.9%)が最も多く、次いで「2～3回程度」(24.6%)、「4～5回程度」(18.0%)となっています。

※《子ども食堂》(12件)、《子育てサークル》(1件)、《その他類似の事業》(4件)の1ヶ月の利用回数は、回答数が少ないため非掲載とします。

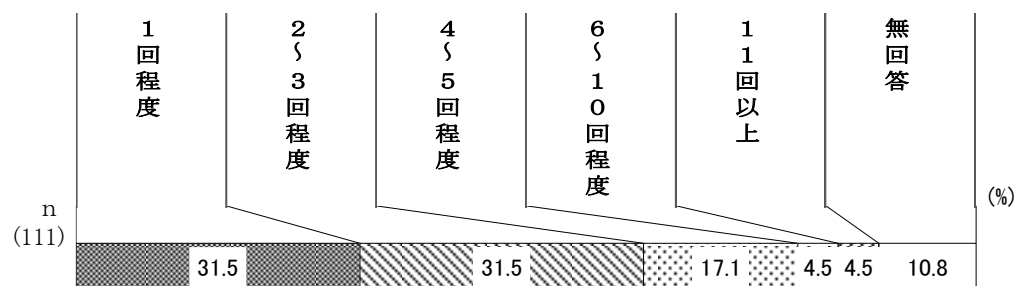
(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向

問 15 問 14 のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないができれば利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。(1つに○)

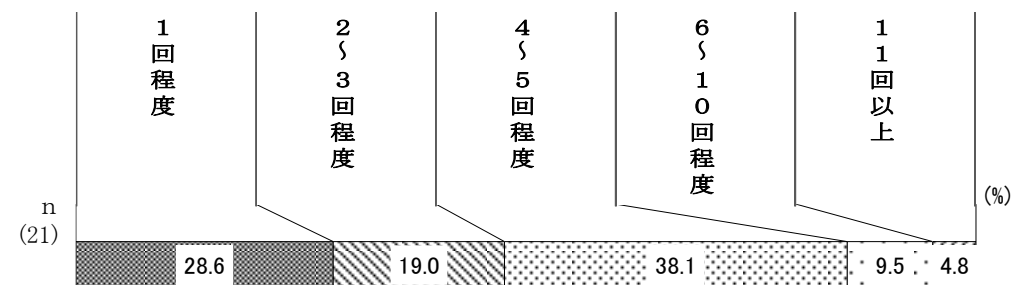
【地域子育て支援拠点事業の利用意向】



【1ヶ月当たりの希望利用回数（利用していないが利用したい）】



【1ヶ月当たりの希望利用回数（利用しているが増やしたい）】



○地域子育て支援拠点事業の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 64.5%と最も多く、「利用していないが利用したい」は 28.5%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」は 5.4%となっています。

○利用していないが今後利用したい場合の、1ヶ月当たりの利用希望回数は、「1回程度」「2～3回程度」が最も多く、ともに 31.5%となっています。

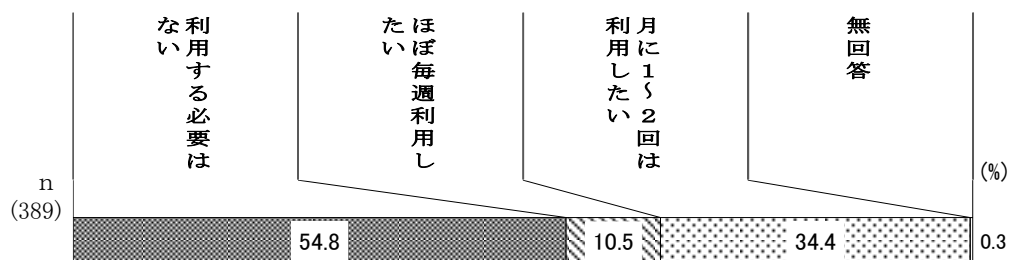
○すでに利用しているが増やしたい場合の、1ヶ月当たりの利用希望回数は、「4～5回程度」が 38.1%と最も多く、次いで「1回程度」(28.6%)、「2～3回程度」(19.0%)となっています。

5 土曜・休日や長期休業中の教育・保育事業の利用希望について

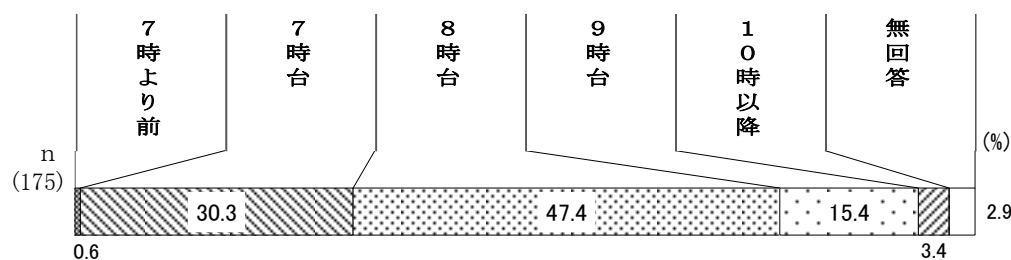
(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育の利用意向

問 16 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか。(一時的な利用は除きます)。((1)(2)それぞれについて、1つに○)
※希望がある場合は、利用したい時間帯を口内に数字でご記入ください。

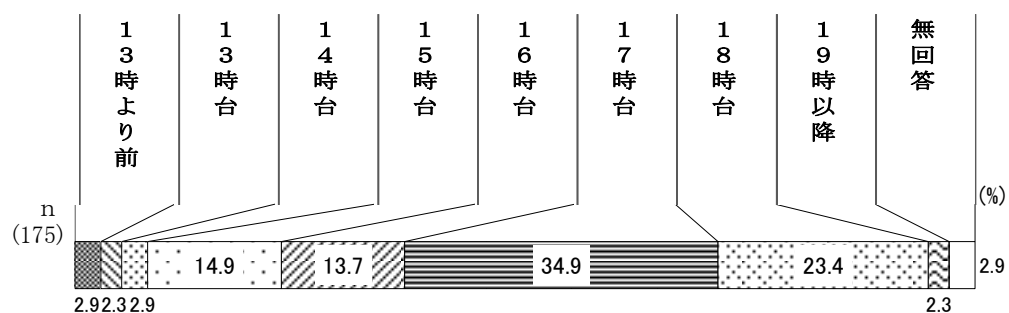
【土曜日の利用意向】



【土曜日の希望開始時間】



【土曜日の希望終了時間】

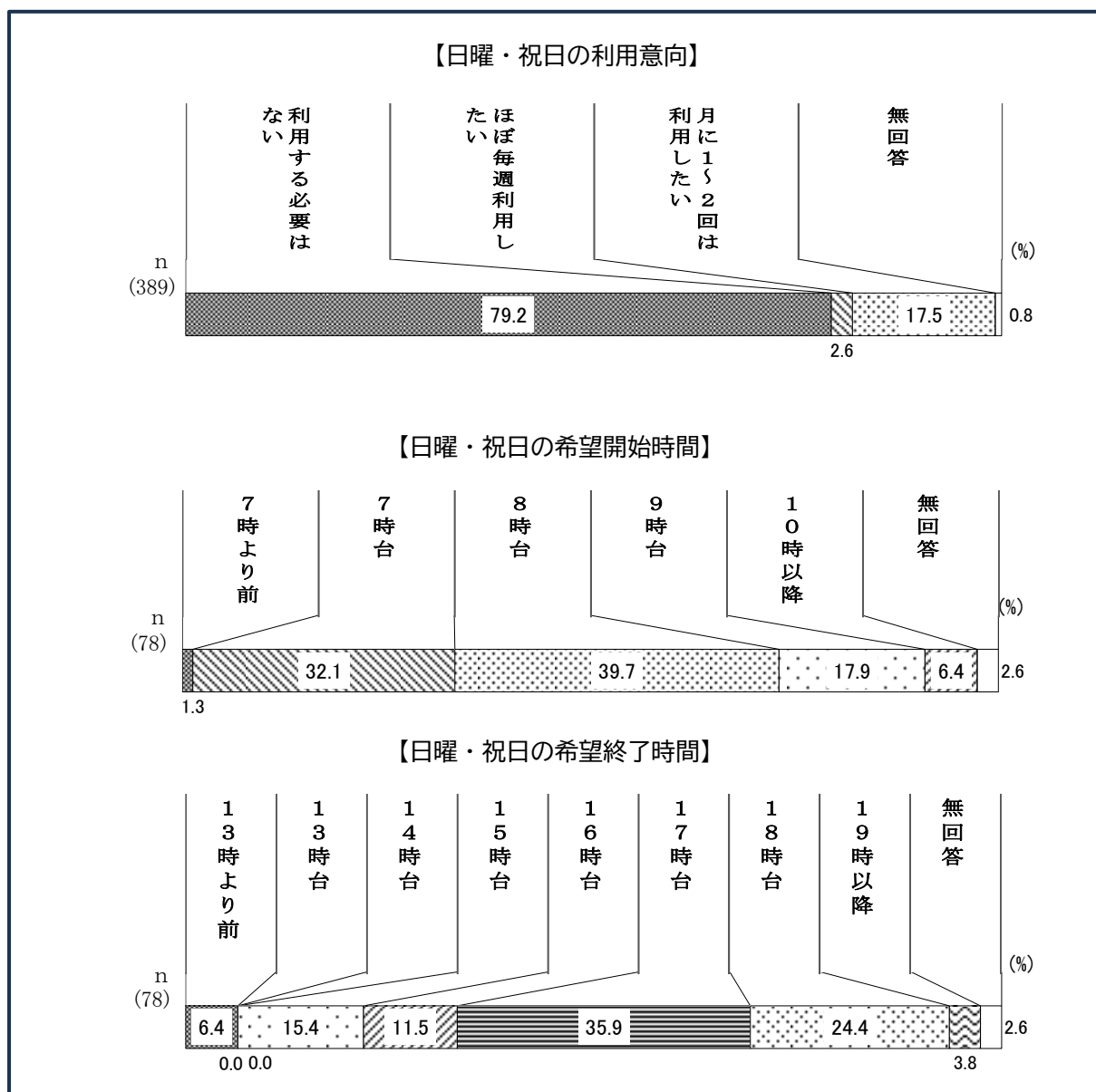


○土曜日の教育・保育の利用希望は、「月に1～2回は利用したい」は34.4%、「ほぼ毎週利用したい」は10.5%と、合わせた『使用したい』は44.9%となっています。

○一方で、「利用する必要はない」は54.8%となっています。

○利用したい人の希望の開始時間は、「8時台」が47.4%と最も多く、次いで「7時台」(30.3%)、「9時台」(15.4%)となっています。

○希望の終了時間は、「17時台」が34.9%と最も多く、次いで「18時台」(23.4%)、「15時台」(14.9%)、「16時台」(13.7%)となっています。



○日曜・祝日の教育・保育の利用希望は、「月に1～2回は利用したい」は17.5%、「ほぼ毎週利用したい」は2.6%となっています。

○一方で、「利用する必要はない」が79.2%を占めています。

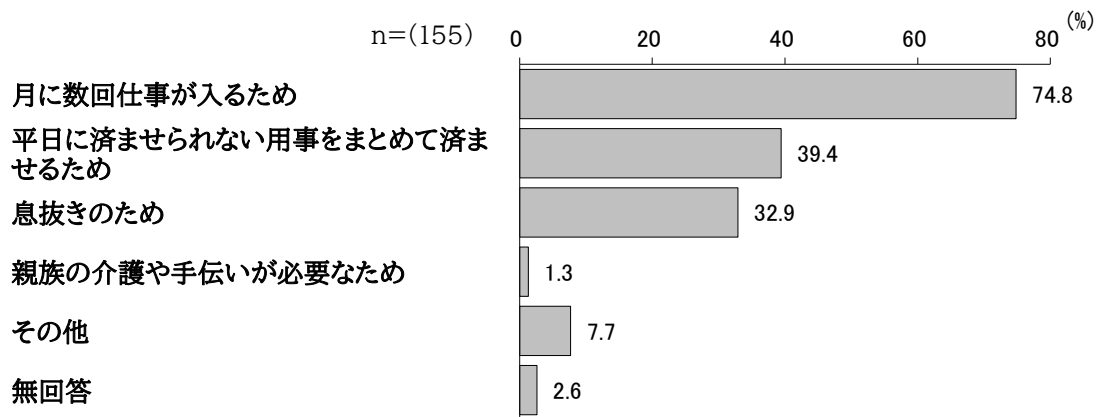
○利用したい人の希望の開始時間は、「8時台」が39.7%と最も多く、次いで「7時台」(32.1%)、「9時台」(17.9%)、「10時以降」(6.4%)となっています。

○希望の終了時間は、「17時台」が35.9%と最も多く、次いで「18時台」(24.4%)、「15時台」(15.4%)、「16時台」(11.5%)となっています。

(2) 毎週ではなく、たまに利用したい理由

【問 16(1)または (2) で「月に1～2回は利用したい」と回答した方のみ】

問 16-1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



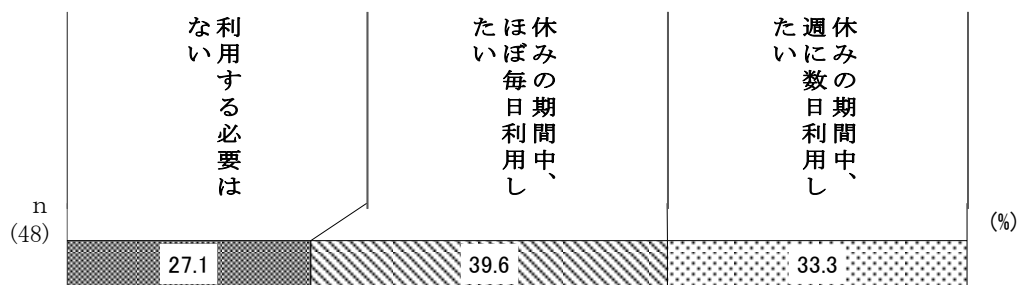
○土曜日と日曜・祝日に、月に1～2回は利用したい人のたまに利用したい理由は、「月に数回仕事が入るため」が74.8%と最も多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(39.4%)、「息抜きのため」(32.9%)となっています。

(3) 長期休業期間中の教育・保育事業の利用意向

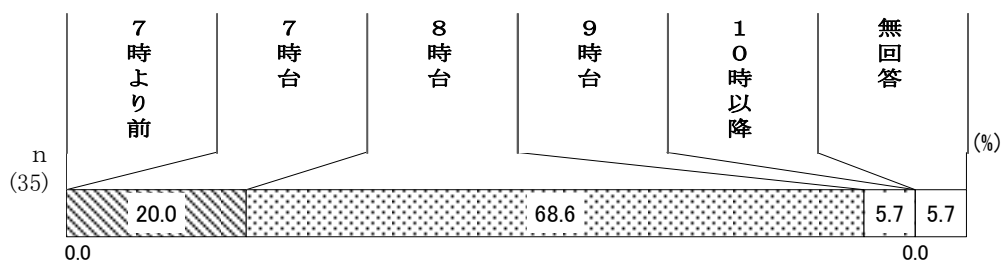
【幼稚園を利用している方のみ】

問 17 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休業期間中の教育・保育事業の利用を希望しますか。(あてはまる番号1つに○)

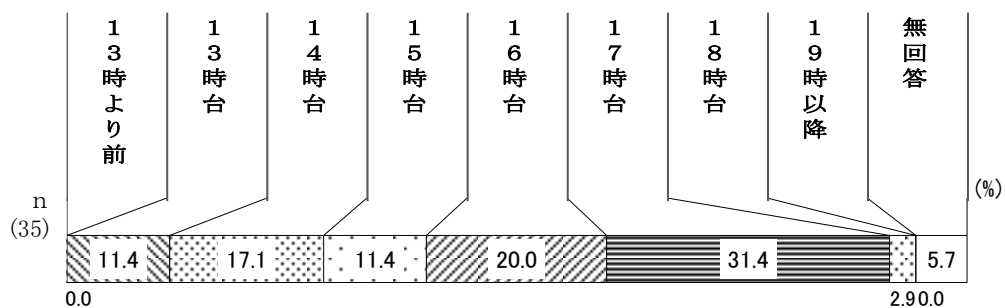
【長期休業期間中の利用意向】



【希望開始時間】



【希望終了時間】



○平日、幼稚園を利用している人の長期休暇の教育・保育の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が39.6%と最も多く、「休みの期間中、週に数日利用したい」(33.3%)と合わせた『利用したい』は72.9%となっています。

○一方で、「利用する必要はない」は27.1%となっています。

○『利用したい』人の希望の開始時間は、「8時台」が68.6%と最も多く、次いで「7時台」(20.0%)、「9時台」(5.7%)で、希望の終了時間は、「17時台」が31.4%と最も多く、次いで「16時台」(20.0%)、「14時台」(17.1%)となっています。

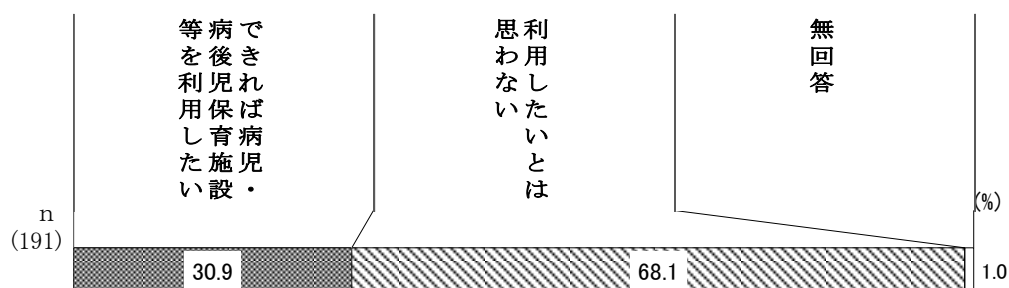
- 平日、定期的な教育・保育事業を利用している人の、子どもの病気やケガで教育・保育事業が利用できなかったことの有無は、「あった」が70.0%を占め、「なかった」は28.7%となっています。
- 教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法は、「母親が休んだ」が87.7%と最も多く、次いで「父親が休んだ」(42.0%)、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」(38.2%)となっています。
- 対処方法ごとの1年間の対処日数は、「父親が休んだ」「親族・知人にみてもらった」では、「1～5日」が最も多く、「父親が休んだ」「親族・知人にみてもらった」は7割前後を占めています。
- 《母親が休んだ》は「1～5日」が最も多いものの35.5%にとどまっており、「6～10日」が30.6%となっています。
- 《就労していない父母がみた》では、「6～10日」が最も多く、47.1%となっています。
- ※《ベビーシッターを利用した》(0件)、《子どもだけで留守番》(0件)、《その他》(2件)の1年間の対処日数は、回答数が少ないため非掲載とします。

(2) 病児・病後児のための保育施設等の利用意向

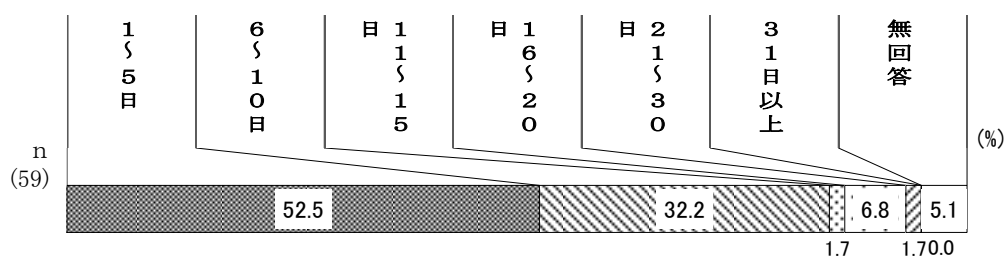
【問 18-1 で「父親が休んだ」「母親が休んだ」と回答した方のみ】

問 18-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。
(1つに○)

【病児・病後児保育施設等の利用意向】



【利用希望日数】



○対処方法で父親または母親が休んだ人の、病児・病後児のための保育施設等の利用意向は、「利用したいとは思わない」が 68.1%に対し、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は 30.9%となっています。

○病児・病後児のための保育施設等の利用希望日数は、「1～5日」が 52.5%と最も多く、次いで「6～10日」が 32.2%となっています。

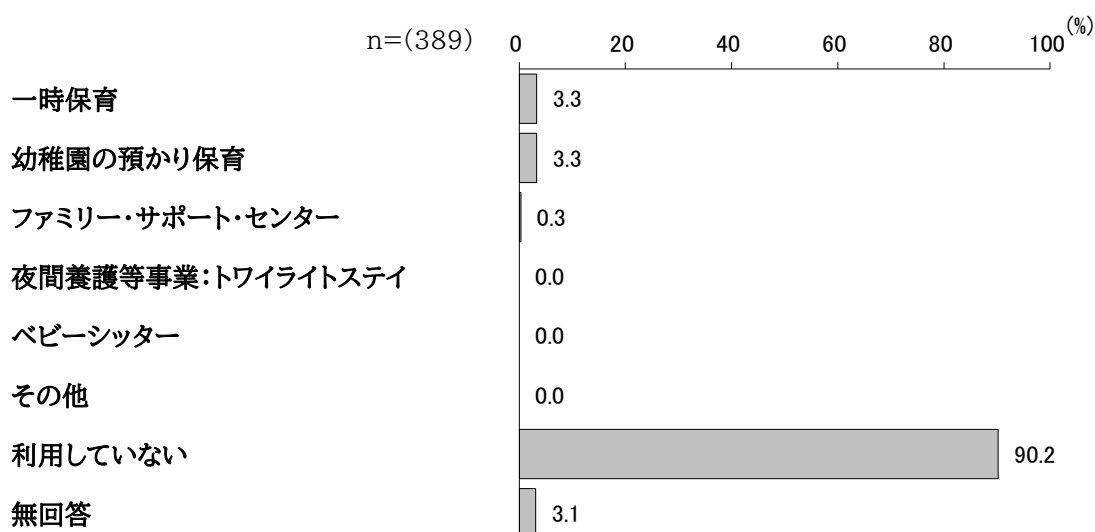
7 不特定の事業利用について

(1) 不定期的に利用している事業

問 19 宛名のお子さんについて、平日の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

【不定期的に利用している事業】



【利用日数】

上段：件数、下段：%

	調査数	1 ～ 5 日	6 ～ 10 日	11 ～ 15 日	16 ～ 20 日	21 ～ 30 日	31 日 以上	無 回 答
一時保育	13 100.0	8 61.5	3 23.1	1 7.7	1 7.7	-	-	-
幼稚園の預かり保育	13 100.0	8 61.5	4 30.8	-	-	-	-	1 7.7

○不定期で利用している教育・保育事業は、「利用していない」が 90.2%を占め、利用は「一時保育」「幼稚園の預かり保育」がともに 3.3%となっています。

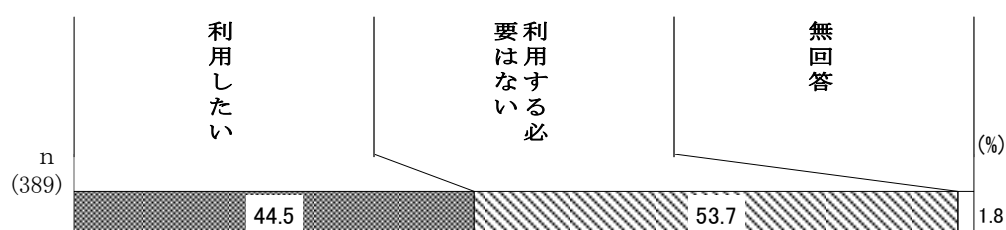
○1年間の利用日数は、《一時保育》《幼稚園の預かり保育》ともに、「1～5日」が最も多く、約6割となっています。

※《ファミリー・サポート・センター》(1件)、《夜間養護等事業：トワイライトステイ》《ベビーシッター》《その他》(いずれも0件)の1年間の利用日数は、回答数が少ないため非掲載とします。

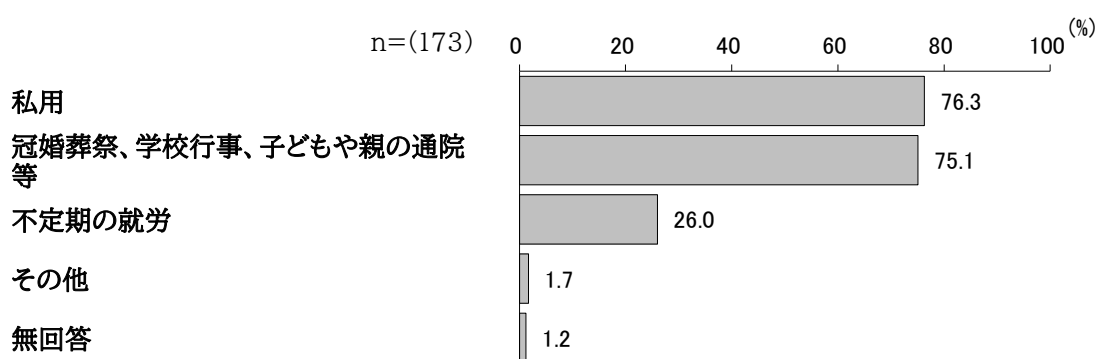
(2) 不定期の教育・保育事業の利用意向

問 20 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無・日数をお答えください。(あてはまるもの・数字すべてに○)

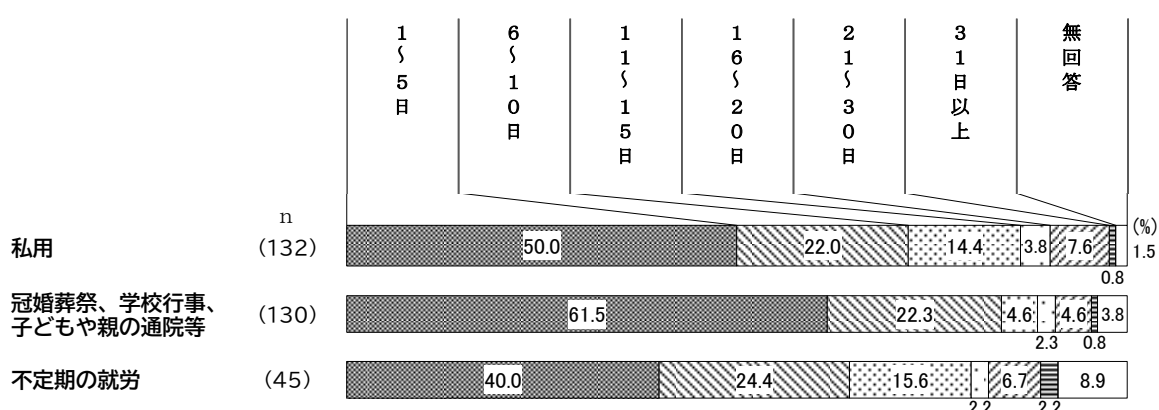
【不定期の教育・保育事業の利用意向】



【利用希望目的】



【利用希望日数】



○不定期の教育・保育事業の利用希望については、「利用したい」は44.5%で、「利用する必要がある」が53.7%となっています。

○利用希望の目的は、「私用」(76.3%)と「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(75.1%)が7割以上と多く、ほか「不定期の就労」(26.0%)となっています。

○利用希望の日数は、いずれも「1～5日」が最も多く、《私用》《冠婚葬祭、学校行事、通院等》では5割以上、《不定期の就労》では40.0%となっています。

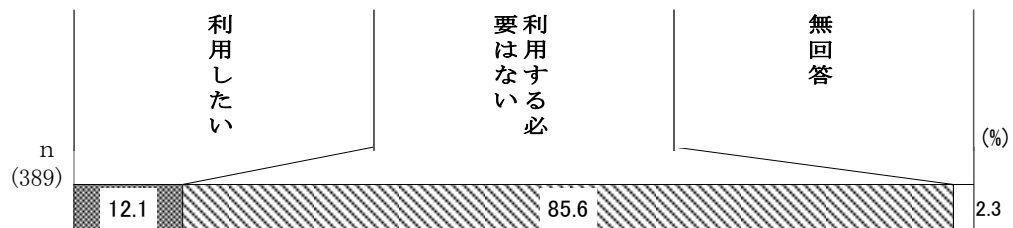
※《その他》の1年間の利用日数は、回答数が3件と少ないため非掲載とします。

(3) 短期入所生活援助事業の利用意向について

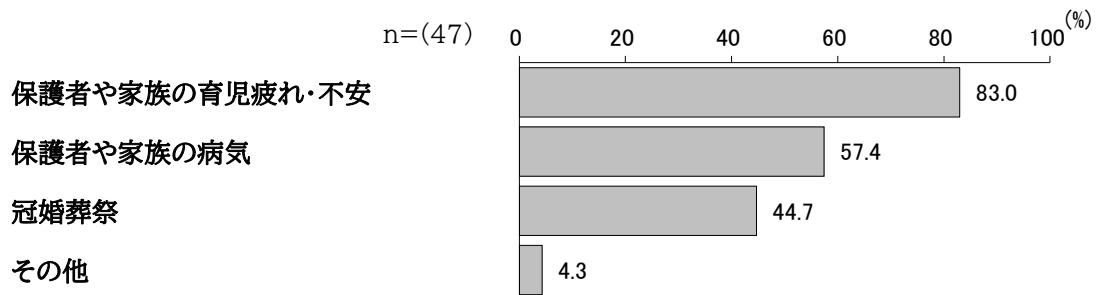
問 21 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望の有無について、利用希望の有無・日数をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

【短期入所生活援助事業の利用意向】



【利用希望目的】



【利用希望日数】

		上段：件数、下段：%						
	調査数	1 日	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	無 回 答
冠婚葬祭	21 100.0	18 85.7	2 9.5	—	—	—	—	1 4.8
保護者や家族の 育児疲れ・不安	39 100.0	28 71.8	6 15.4	3 7.7	—	—	—	2 5.1
保護者や家族の病気	27 100.0	18 66.7	6 22.2	1 3.7	1 3.7	—	—	1 3.7

○短期入所生活援助事業の利用希望は、「利用する必要はない」が 85.6%を占め、「利用したい」は 12.1%にとどまっています。

○利用希望の目的は、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 83.0%と最も多く、次いで「保護者や家族の病気」(57.4%)、「冠婚葬祭」(44.7%)となっています。

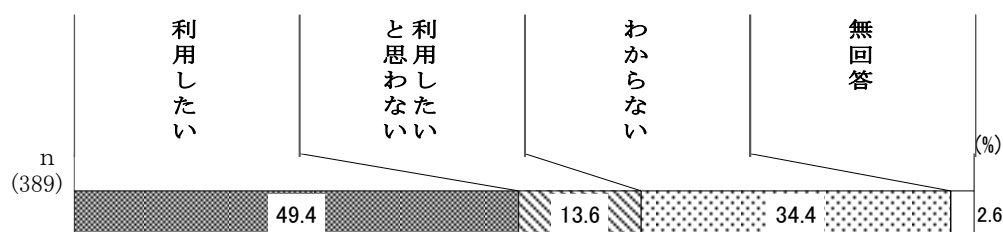
○利用希望日数は、いずれも「1～5日」が最も多く、6割以上となっています。

※《その他》の利用希望日数は、回答数が2件と少ないため非掲載とします。

8 こども誰でも通園制度の利用意向について

(1) 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向

問 22 現在、国では、保護者が仕事をしていなくても、月の一定時間まで子どもを保育施設等に時間単位で預けられる「こども誰でも通園制度（仮称）」の検討をすすめています。この制度が実施された場合、保育施設等を利用しようと思いますか。なお、施設の利用には、一定の利用者負担が発生する可能性があります。（1つに○）



○「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向については、「利用したい」が49.4%、「利用したいと思わない」が13.6%となっています。

○なお、「わからない」は34.4%となっています。

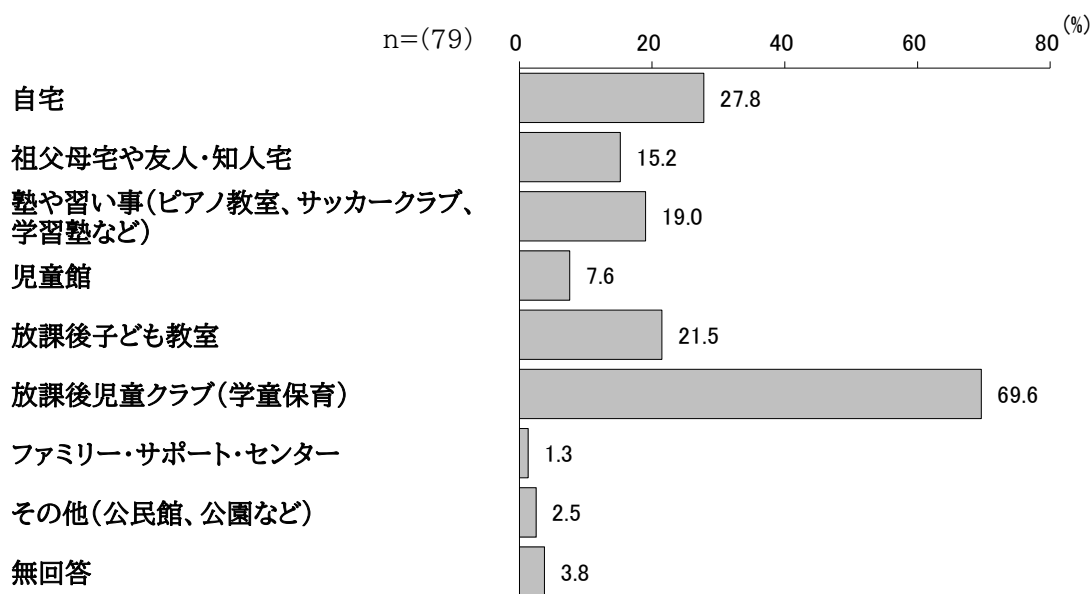
9 小学校就学後の放課後の過ごし方について

(1) 低学年の希望する放課後の過ごし方

【宛名のお子さんが5歳以上の方のみ】

問23 宛名のお子さんが、小学校低学年（1～3年生）になった時、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

【希望する低学年の放課後の過ごし方】

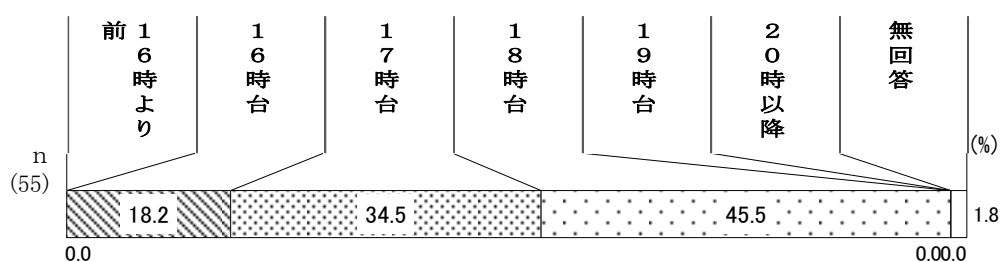


【1週当たりの利用希望日数】

上段：件数、下段：%

	調査数	1日	2日	3日	4日	5日	無回答
自宅	22	1	3	3	4	9	2
	100.0	4.5	13.6	13.6	18.2	40.9	9.1
祖父母宅や友人・知人宅	12	2	3	4	—	3	—
	100.0	16.7	25.0	33.3	—	25.0	—
塾や習い事	15	8	6	—	—	1	—
	100.0	53.3	40.0	—	—	6.7	—
放課後子ども教室	17	8	3	1	1	3	1
	100.0	47.1	17.6	5.9	5.9	17.6	5.9
放課後児童クラブ	55	5	—	3	3	44	—
	100.0	9.1	—	5.5	5.5	80.0	—

【放課後児童クラブの利用希望時間】



○低学年の希望する平日の放課後の過ごし方は、「放課後児童クラブ(学童保育)」が69.6%と最も多く、次いで「自宅」(27.8%)、「放課後子ども教室」(21.5%)、「塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(19.0%)などとなっています。

○1週当たりの利用希望日数は、《塾や習い事》《放課後子ども教室》では、「1日」「2日」が多く、《放課後児童クラブ》では、「5日」が80.0%を占めています。

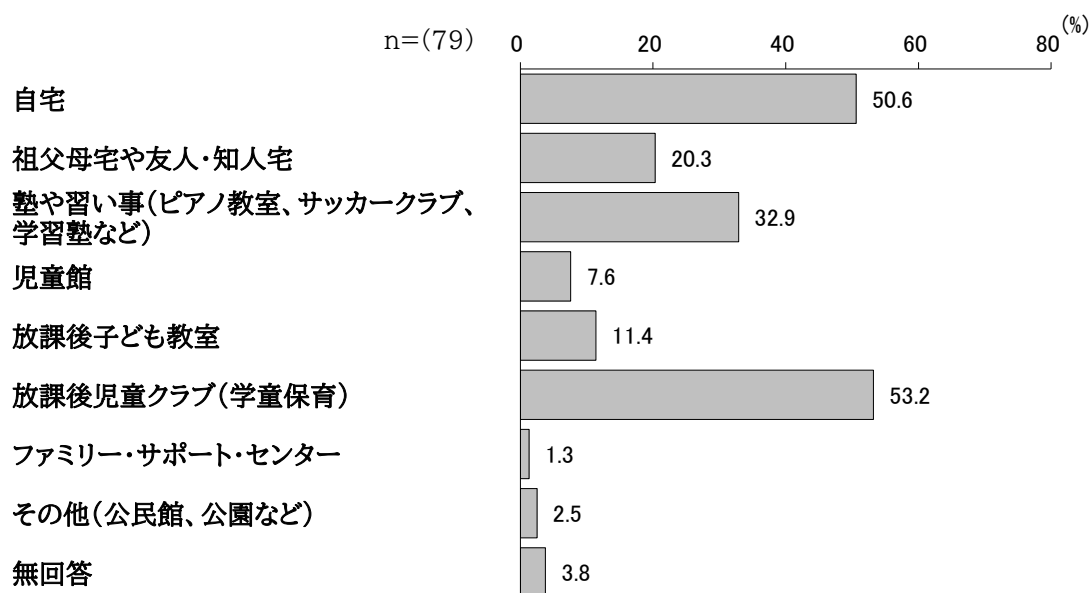
○放課後児童クラブの利用希望時間は、「18時台」が45.5%と最も多く、次いで「17時台」(34.5%)、「16時台」(18.2%)となっています。

※《児童館》(6件)、《ファミリー・サポート・センター》(1件)、《その他》(2件)の1週当たりの利用希望日数は、回答数が少ないため非掲載とします。

(2) 高学年の希望する放課後の過ごし方

問 24 宛名のお子さんが、小学校高学年（4～6年生）になった時、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

【高学年の希望する放課後の過ごし方】

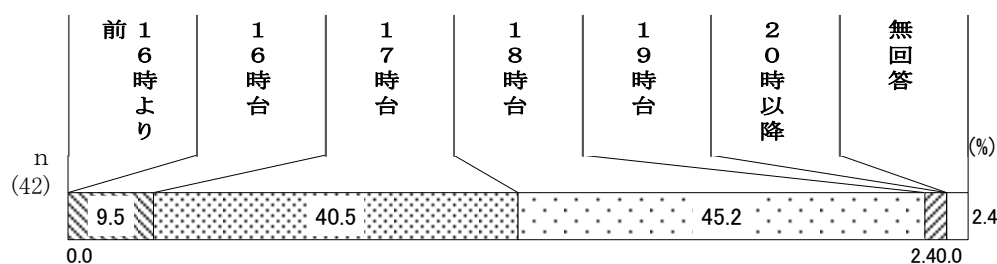


【1週当たりの利用希望日数】

上段：件数、下段：%

	調査数	1日	2日	3日	4日	5日	無回答
自宅	40	2	4	9	5	17	3
	100.0	5.0	10.0	22.5	12.5	42.5	7.5
祖父母宅や友人・知人宅	16	7	3	2	—	4	—
	100.0	43.8	18.8	12.5	—	25.0	—
塾や習い事	26	13	11	1	—	1	—
	100.0	50.0	42.3	3.8	—	3.8	—
放課後児童クラブ	42	2	2	3	1	32	2
	100.0	4.8	4.8	7.1	2.4	76.2	4.8

【放課後児童クラブの利用希望時間】



○高学年の希望する平日の放課後の過ごし方は、「放課後児童クラブ(学童保育)」が53.2%と最も多く、次いで「自宅」(50.6%)、「塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(32.9%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(20.3%)などとなっています。

○1週当たりの利用希望日数は、《自宅》《放課後児童クラブ》では、「5日」が最も多く、《自宅》は42.5%、《放課後児童クラブ》は76.2%を占めています。

《塾や習い事》では、「1日」「2日」が最も多く、約4～5割となっています。

○放課後児童クラブ利用希望時間は、「18時台」が45.2%と最も多く、次いで「17時台」(40.5%)、「16時台」(9.5%)となっています。

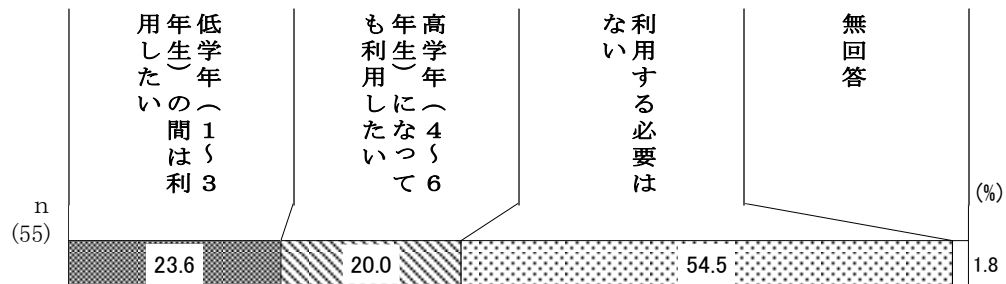
※《児童館》(6件)、《放課後子ども教室》(9件)、《ファミリー・サポート・センター》(1件)、《その他》(2件)の1週当たりの利用希望日数は、回答数が少ないため非掲載とします。

(3) 土曜日・日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望

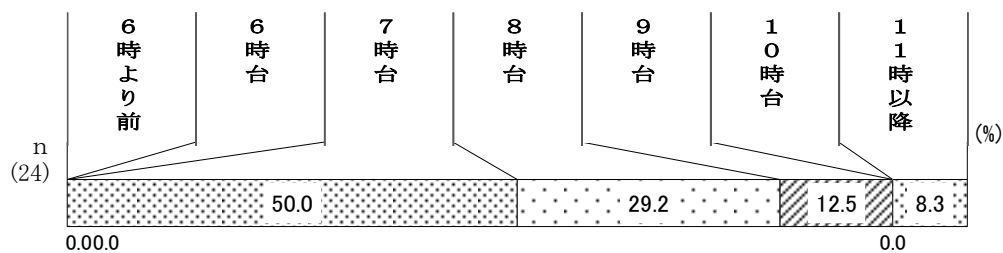
【問 23 または問 24 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方のみ】

問 25 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。（(1) (2) それぞれについて、1 つに○）

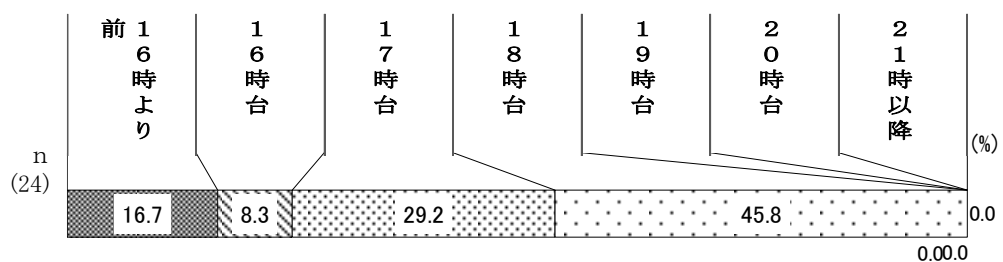
【土曜日の利用意向】



【土曜日の希望開始時刻】



【土曜日の希望終了時刻】



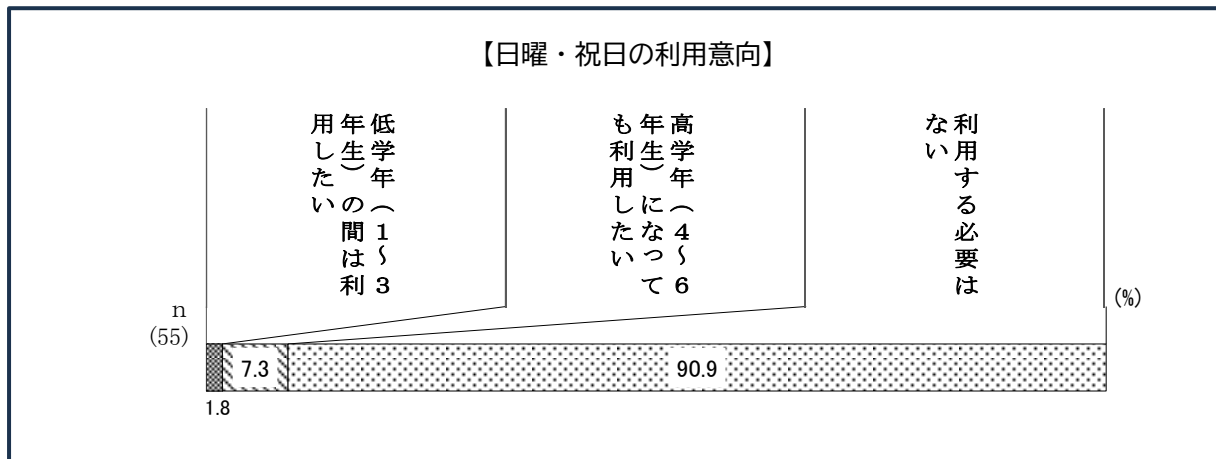
○土曜日の放課後児童クラブの利用希望は、「利用する必要はない」が 54.5%と最も多く、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は 23.6%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は 20.0%となっています。

○希望の開始時間は、「7時台」が 50.0%と最も多く、次いで「8時台」（29.2%）、「9時台」（12.5%）、「11時以降」（8.3%）となっています。

○希望の終了時間は、「8時台」が 45.8%と最も多く、次いで「7時台」（29.2%）、「6時より前」（16.7%）、「6時台」（8.3%）となっています。

第2章 就学前児童の調査結果

～就学前児童の保護者～



○日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望は、「利用する必要はない」が90.9%を占めています。「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は1.8%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は7.3%となっています。

※希望の開始・終了時間の調査結果は、回答数が5件と少ないため非掲載とします。

10 職場の両立支援制度について

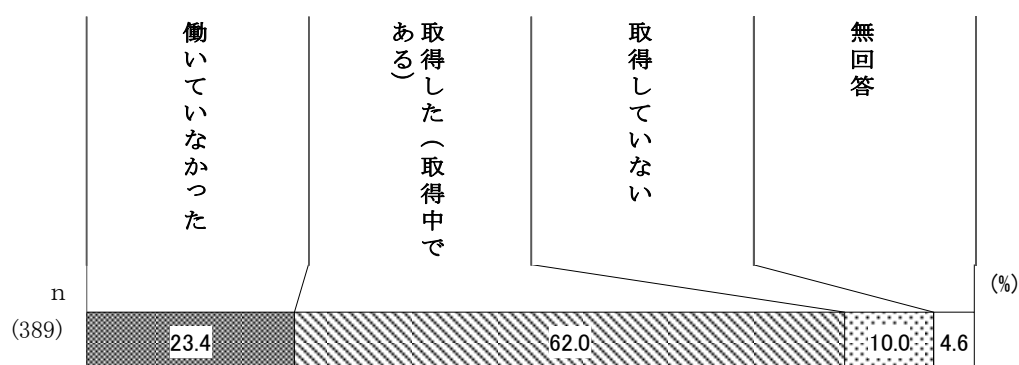
(1) 育児休業の取得状況

問 26 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。
(母親、父親のそれぞれについて、1つに○)

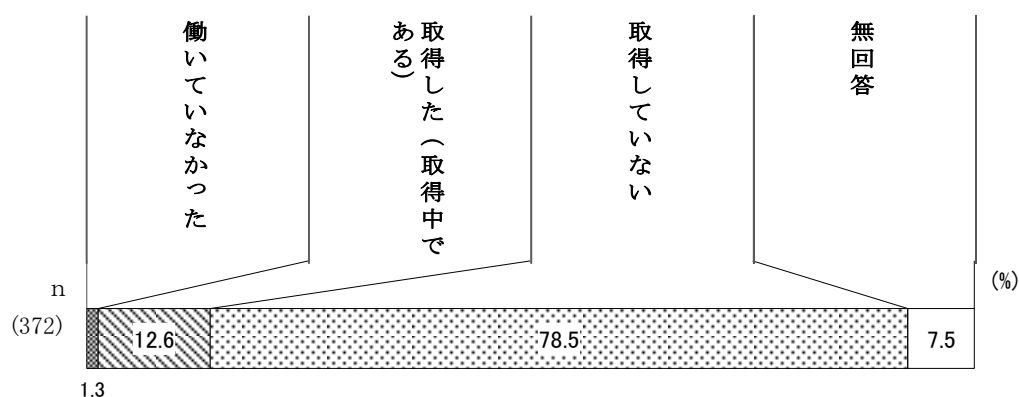
【「取得していない」と回答した方のみ】

取得していない方はその理由をご記入ください。(いくつでも)

【育児休業の取得状況：母親】



【育児休業の取得状況：父親】



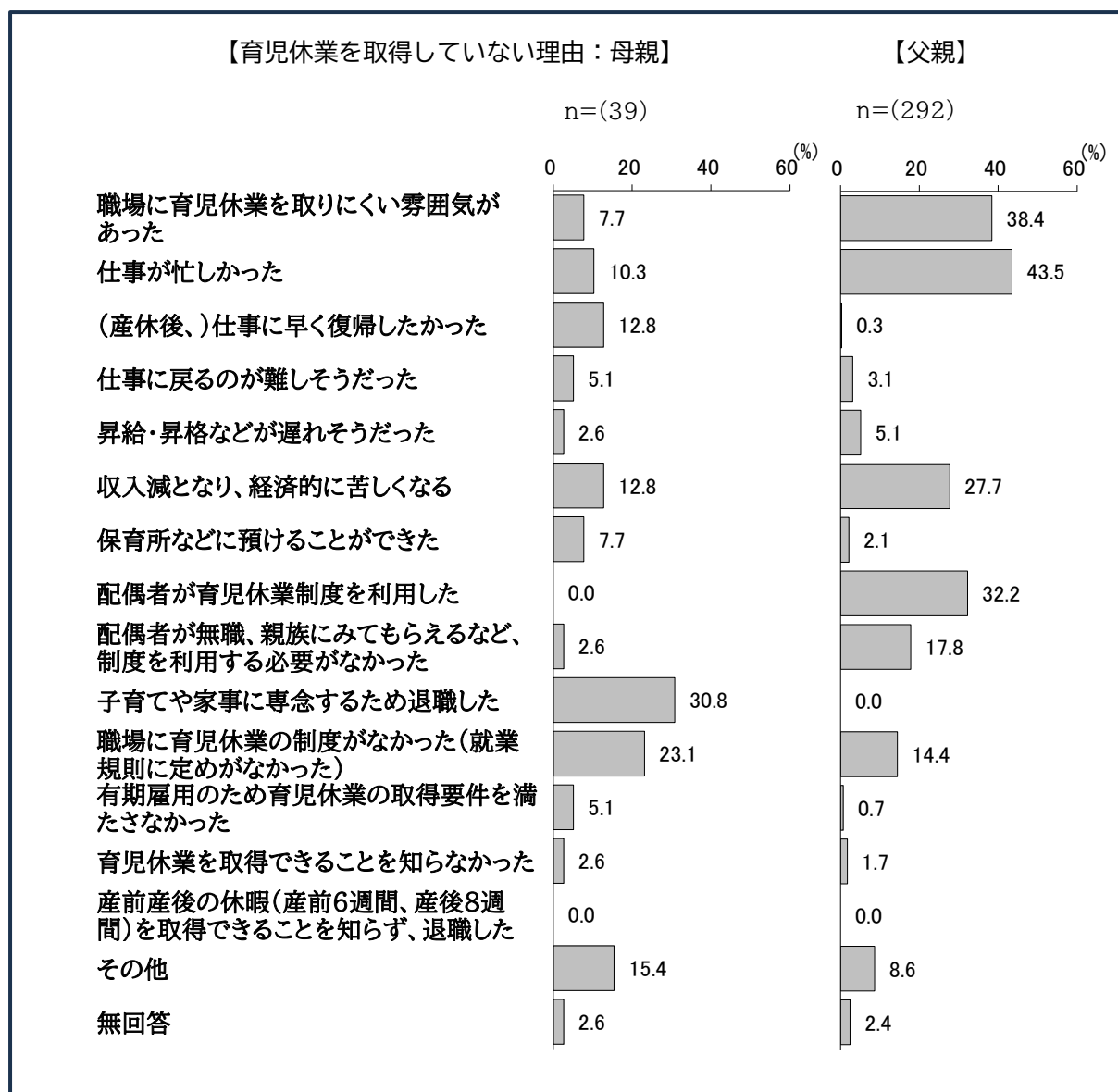
○母親の育児休業の取得状況は、「取得した（取得中である）」が 62.0%と最も多くなっています。

○一方で、「取得していない」は 10.0%となっています。

○父親の育児休業の取得状況は、「取得していない」が 78.5%を占めており、「取得した（取得中である）」は 12.6%にとどまっています。

第2章 就学前児童の調査結果

～就学前児童の保護者～

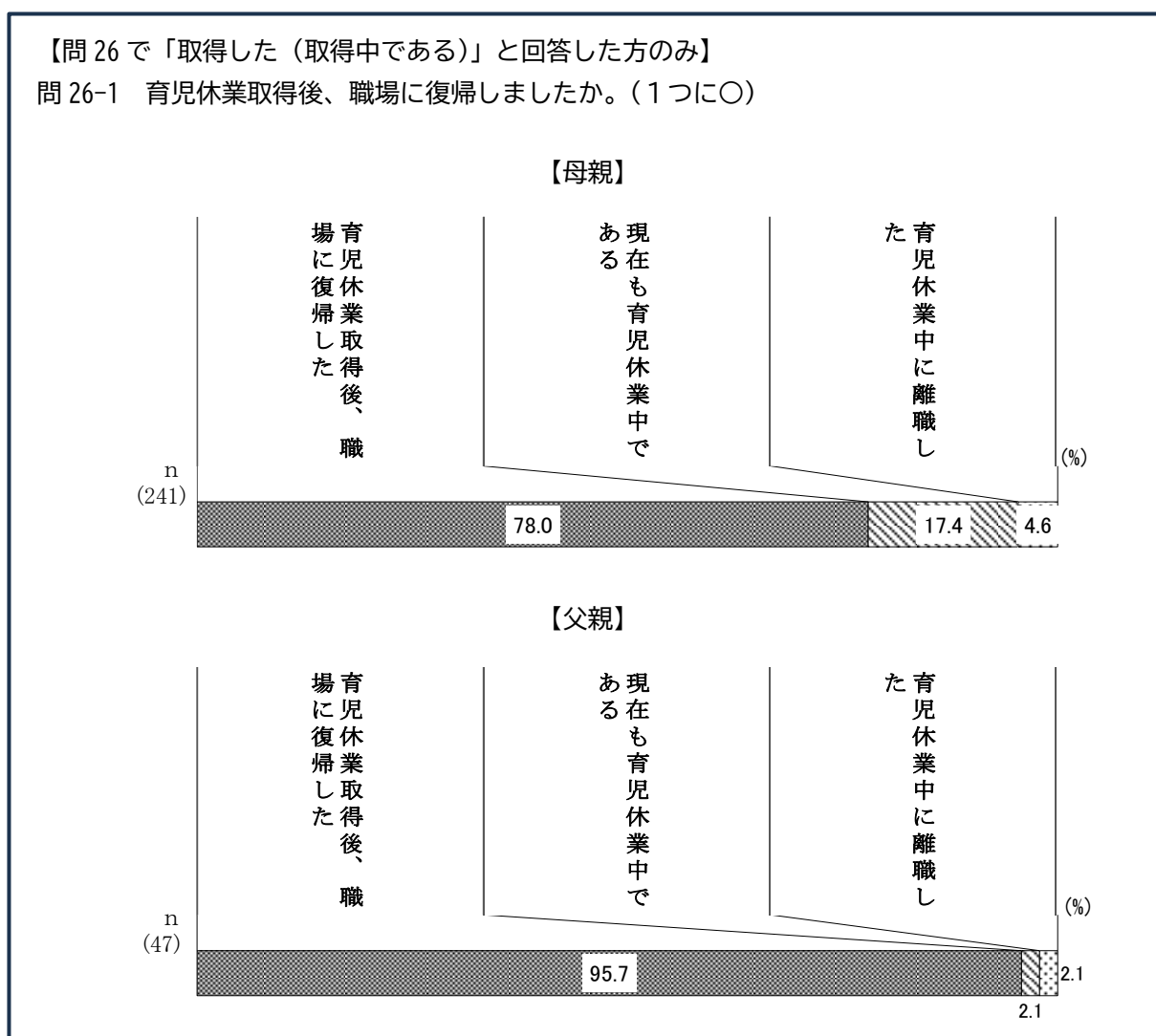


- 育児休業を取得していない人の取得していない理由は、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」が30.8%と最も多く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(23.1%)、「(産休後、)仕事に早く復帰したかった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」(ともに12.8%)などとなっています。
- 父親では、「仕事が忙しかった」が43.5%と最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(38.4%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(32.2%)などとなっています。

(2) 育児休業取得後の職場復帰の状況

【問 26 で「取得した（取得中である）」と回答した方のみ】

問 26-1 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（1 つに○）



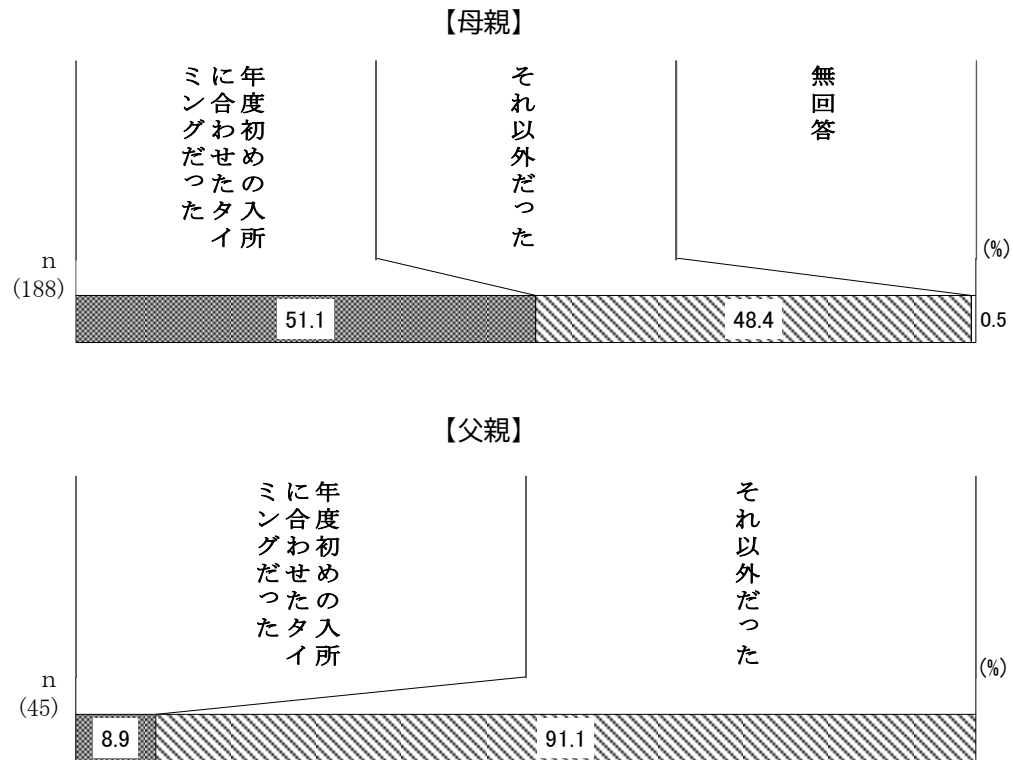
○取得した人の職場復帰の状況は、母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 78.0%と最も多く、「現在も育児休業中である」は 17.4%、「育児休業中に離職した」は 4.6%となっています。

○父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 95.7%を占め、「現在も育児休業中である」「育児休業中に離職した」はともに 2.1%となっています。

(3) 職場復帰のタイミング

【問 26-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ】

問 26-2 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。(1つに○)



○取得した人の職場復帰のタイミングは、母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が 51.1%、「それ以外だった」は 48.4%と、ほぼ半々となっています。

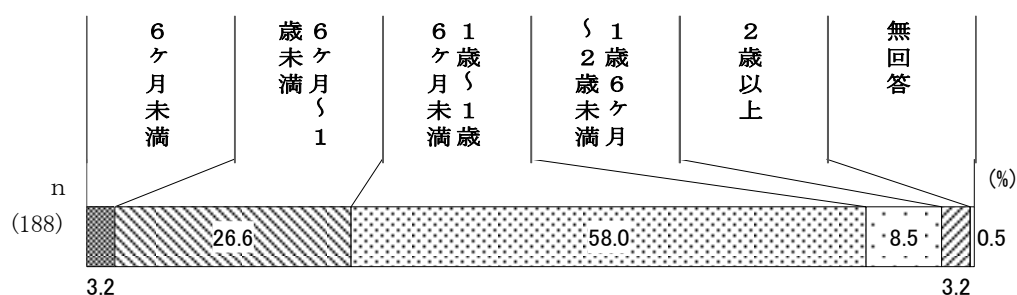
○父親では、「それ以外だった」が 91.1%を占め、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は 8.9%となっています。

(4) 育児休業の取得期間

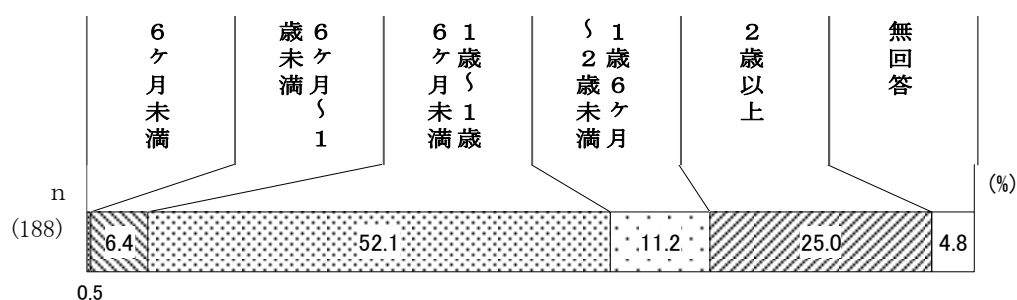
【問 26-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ】

問 26-3 育児休業から、「実際」に職場復帰したのは、お子さんが何歳何ヶ月のときでしたか。また、「希望」としては、お勤め先の育児休業制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

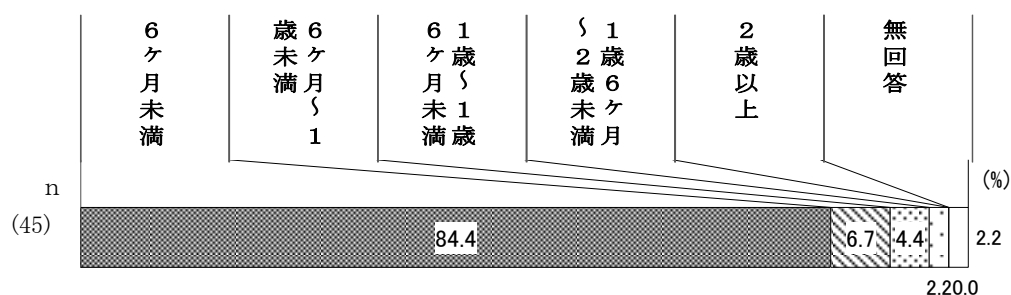
【実際の復帰時期（子の月齢）：母親】



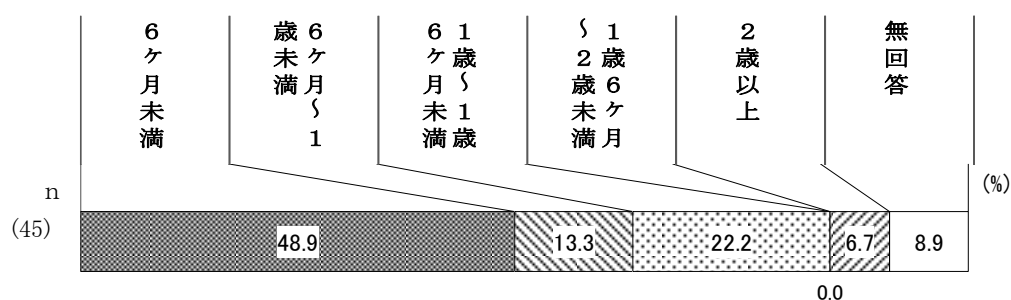
【希望の復帰時期（子の月齢）：母親】



【実際の復帰時期（子の月齢）：父親】



【希望の復帰時期（子の月齢）：父親】



○育児休業取得後、職場に復帰した人の職場復帰の時期は、母親の実際の時期は「1歳～1歳6ヶ月未満」が58.0%と最も多く、次いで「6ヶ月～1歳未満」が26.6%となっています。

○希望の時期は、「1歳～1歳6ヶ月未満」が52.2%と最も多く、次いで「2歳以上」が25.0%となっています。

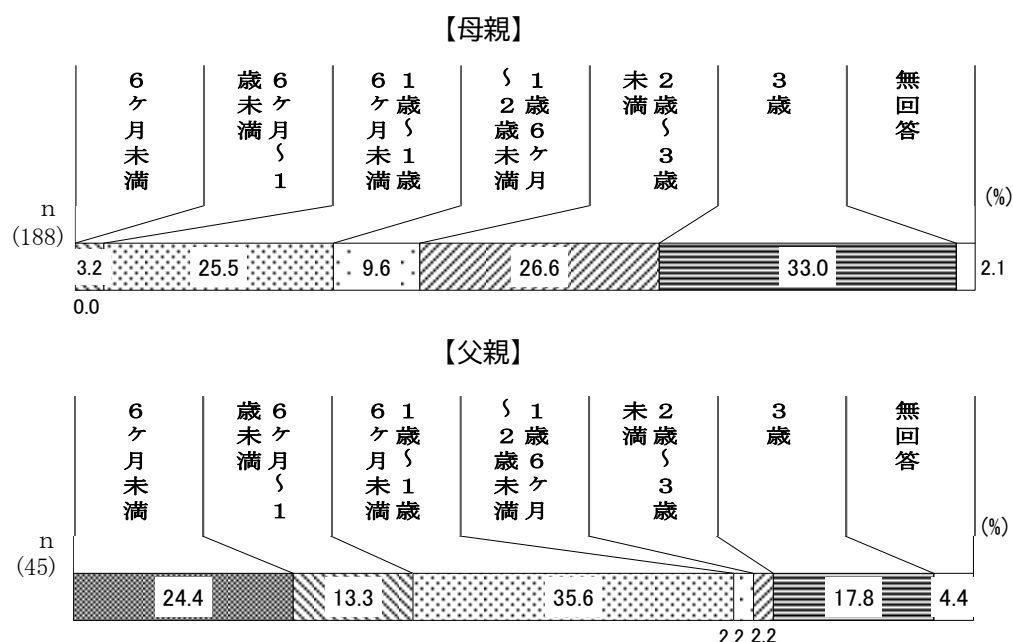
○父親の実際の時期は、「6ヶ月未満」が84.4%と最も多くなっています。

○希望の時期は、「6ヶ月未満」が48.9%と最も多く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」が22.2%となっています。

(5) 3歳まで取得できる制度があった場合の、職場復帰の希望時期

【問 26-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ】

問 26-4 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。



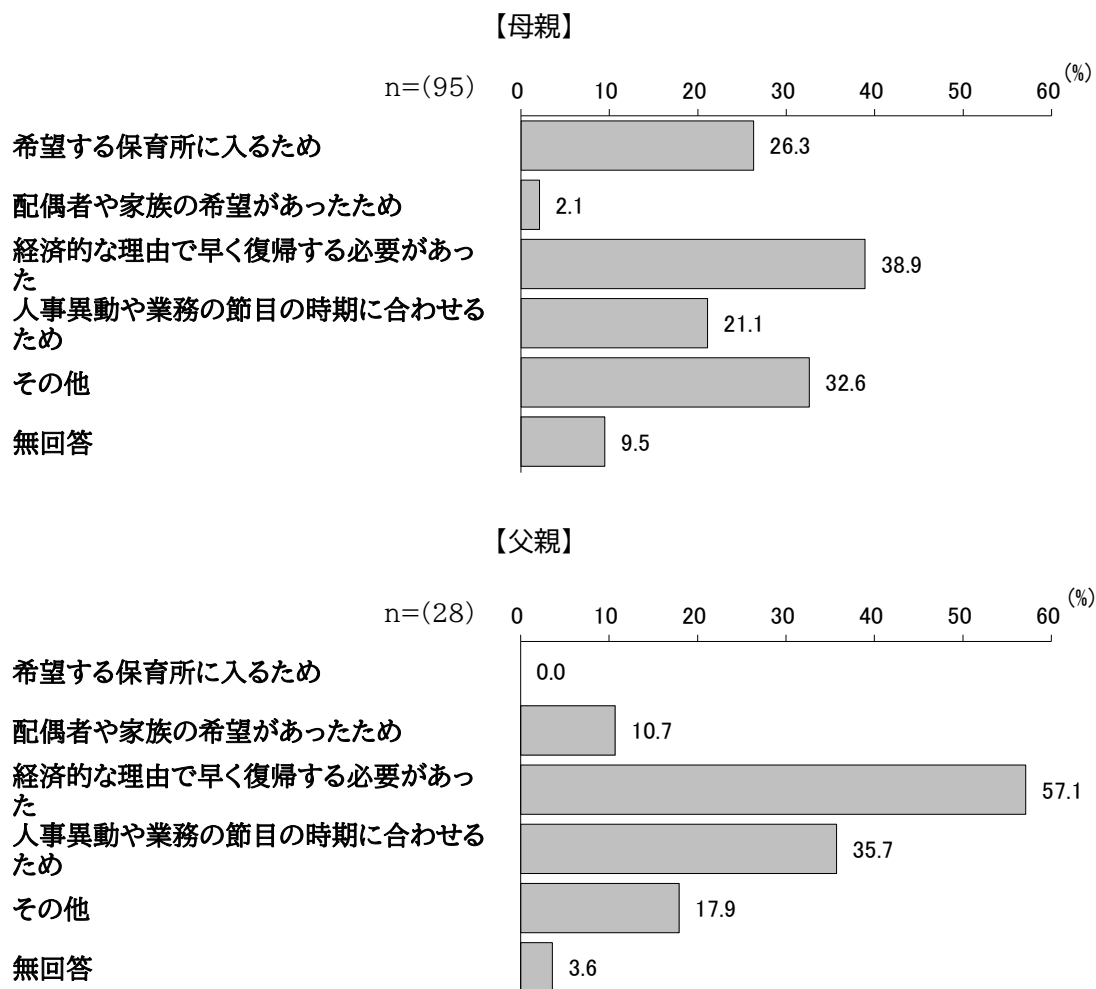
○育児休業取得後、職場に復帰した人で、3歳まで取得できる制度がある場合の職場復帰の希望時期は、母親では、「3歳」が33.0%と最も多く、次いで「2歳～3歳未満」(26.6%)、「1歳～1歳6ヶ月未満」(25.5%)、「1歳6ヶ月～2歳未満」(9.6%)となっています。

○父親では、「1歳～1歳6ヶ月未満」が35.6%と最も多く、次いで「6ヶ月未満」(24.4%)、「3歳」(17.8%)、「6ヶ月～1歳未満」(13.3%)となっています。

(6) 希望の時期に職場復帰しなかった理由

【問 26-3 で実際と希望の復帰時期が異なる方のみ】

問 26-5 希望の時期に職場復帰しなかった理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)



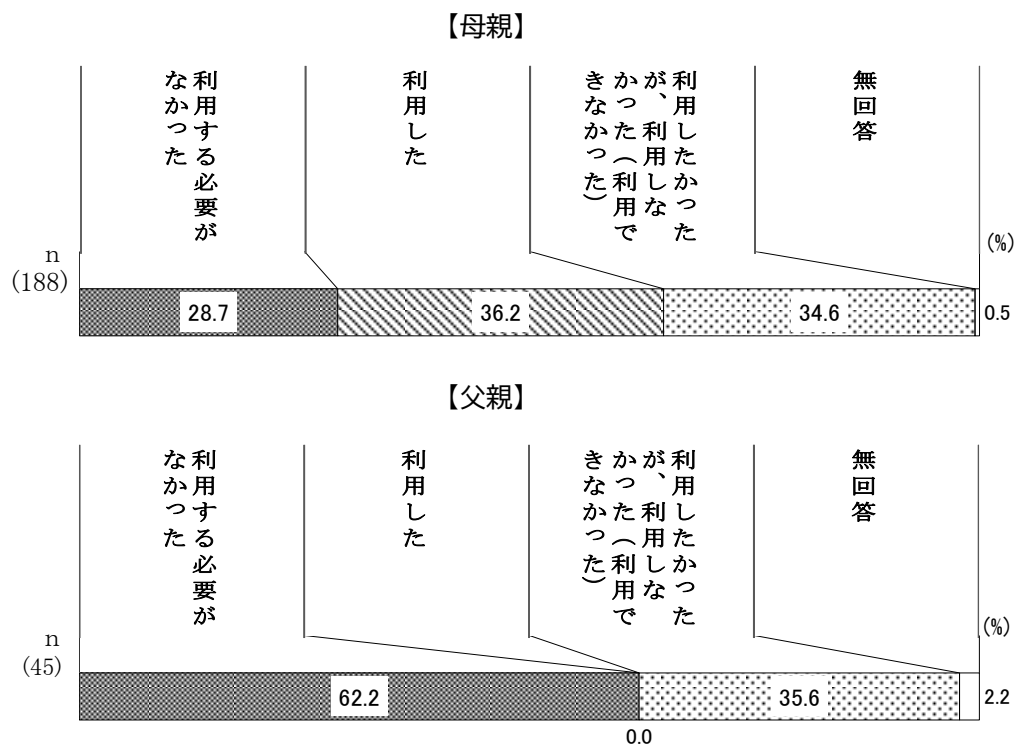
○希望より早く職場復帰した人の、希望の時期に職場復帰しなかった理由は、母親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 38.9%と最も多く、次いで「希望する保育所に入るため」(26.3%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(21.1%) などとなっています。

○父親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 57.1%と最も多く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(35.7%)、「配偶者や家族の希望があったため」(10.7%) などとなっています。

(7) 職場復帰時の短時間勤務制度の利用

【問 26-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ】

問 26-6 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。(1つに○)



○育児休業取得後、職場に復帰した人の、職場復帰時の短時間勤務制度の利用は、母親では、「利用した」が 36.2%と最も多く、次いで「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 34.6%、「利用する必要がなかった」が 28.7%となっています。

○父親では、「利用する必要がなかった」が 62.2%、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 35.6%となっています。

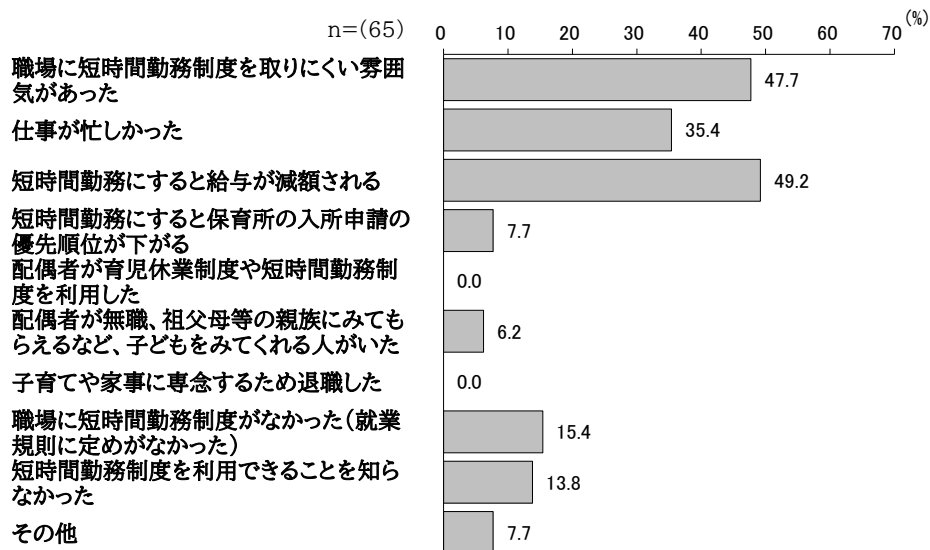
(8) 短時間勤務制度を利用しなかった理由

【問 26-6 で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した方のみ】

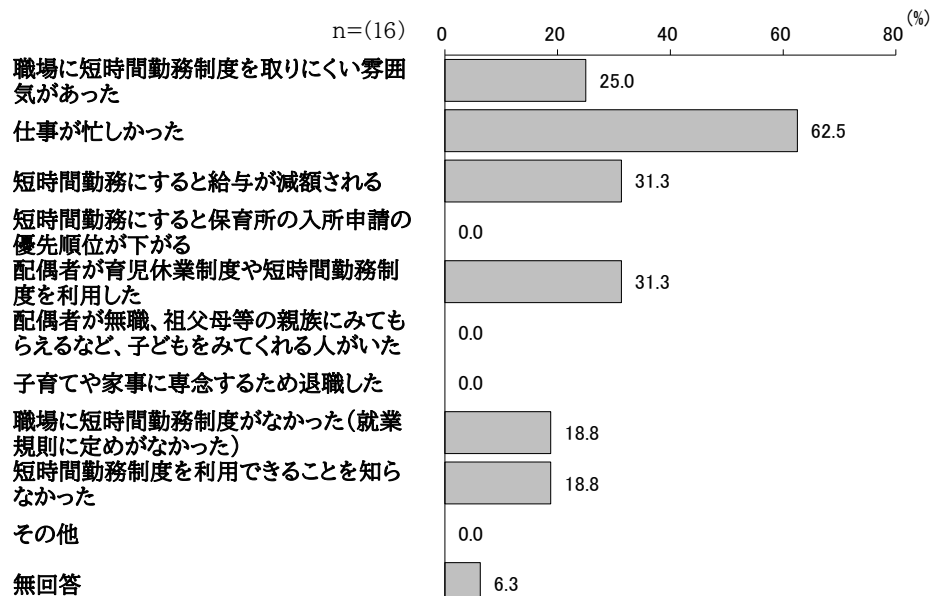
問 26-7 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)。

【母親】



【父親】



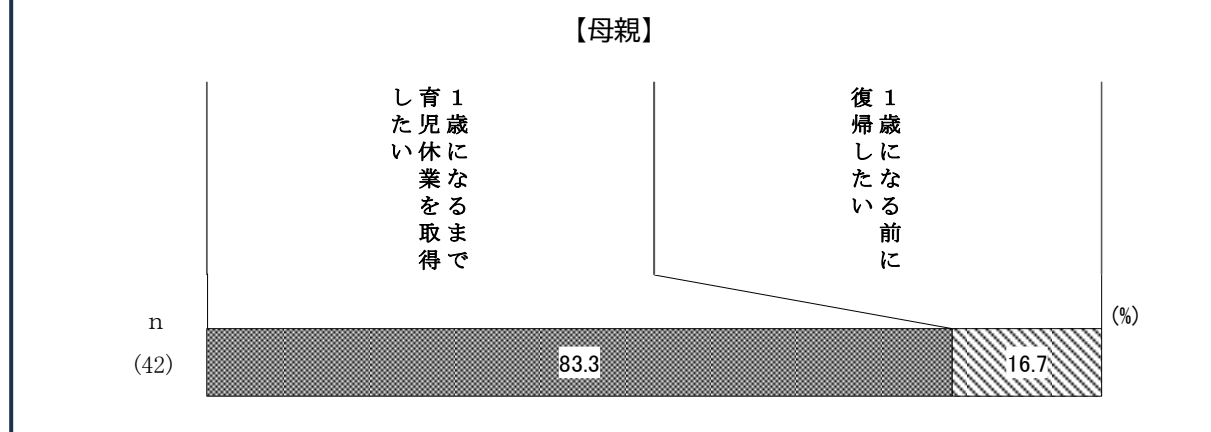
○短時間勤務制度を利用しなかった理由は、母親では、「短時間勤務にすると給与が減額される」が 49.2%と最も多く、次いで「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」(47.7%)、「仕事が忙しかった」(35.4%) などとなっています。

○父親では、「仕事が忙しかった」(62.5%) が最も多く、ほか「短時間勤務にすると給与が減額される」「配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した」(ともに 31.3%)、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」(25.0%) などとなっています。

(9) 1歳時に預けられる事業があった場合の育児休業の取得意向

【問 26-1 で「現在も育児休業中である」と回答した方のみ】

問 26-8 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。(あてはまる番号1つに○)。



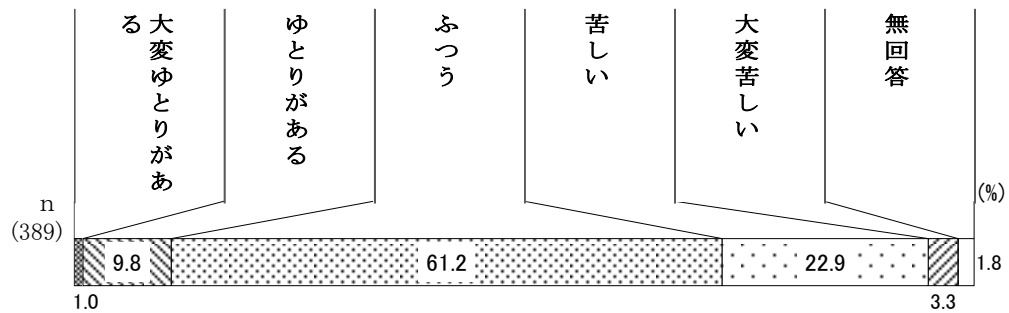
○育児休業中の人で、1歳時に必ず預けられる事業があった場合の育児休業の取得希望は、母親では、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が83.3%を占め、「1歳になる前に復帰したい」は16.7%となっています。

※父親の調査結果は、回答数が1件と少ないため非掲載とします。

1.1 保護者の子育ての状況について

(1) 現在の暮らしの状況

問 27 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(1つに○)

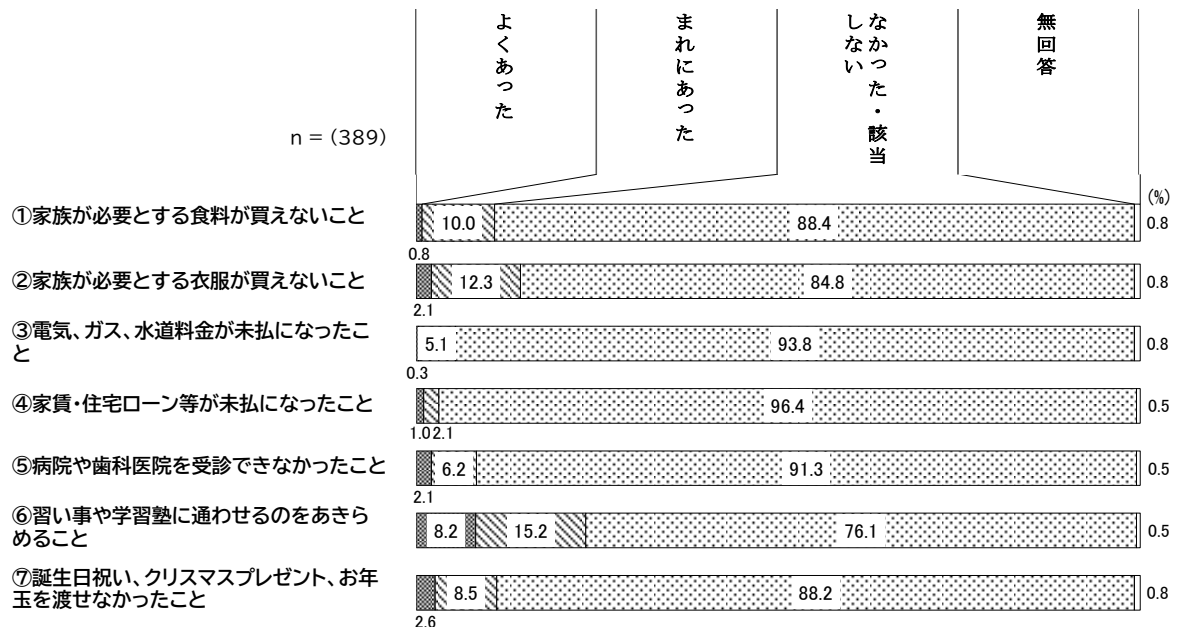


○現在の暮らしの状況は、「ふつう」が61.2%と最も多く、「大変ゆとりがある」(1.0%)と「ゆとりがある」(9.8%)を合わせた『ゆとりがある』は10.8%となっています。

○一方で、「苦しい」(22.9%)と「大変苦しい」を合わせた『苦しい』は26.2%となっています。

(2) 経済的な理由による経験

問 28 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で以下の経験はありましたか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

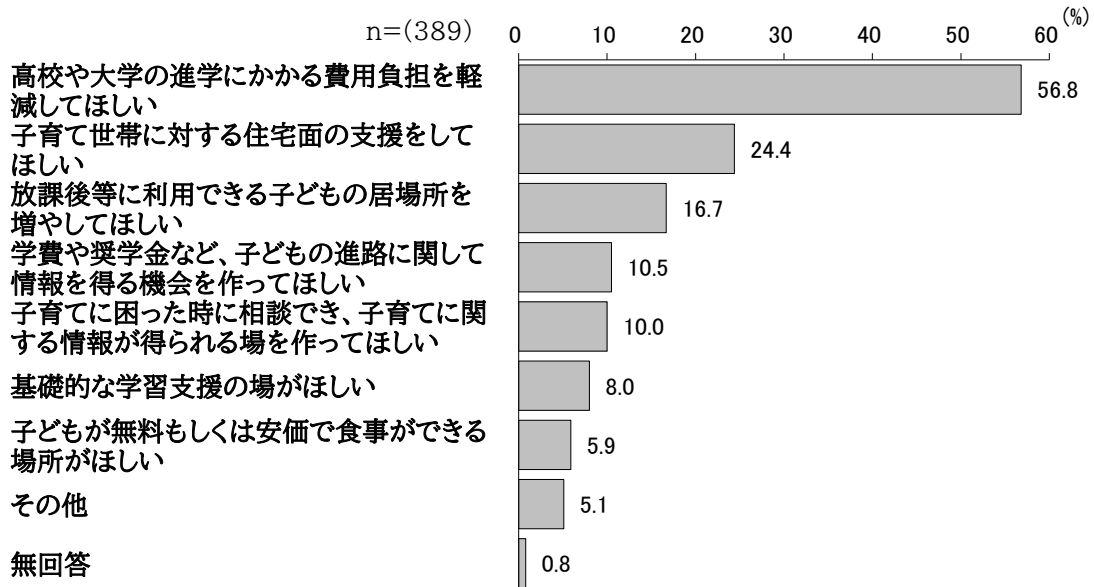


○経済的な理由による経験は、いずれの項目も「なかった・該当しない」が最も多く、《⑥ 習い事や学習塾に通わせるのをあきらめること》以外の項目では8割以上となっています。

○一方で、《⑥ 習い事や学習塾に通わせるのをあきらめること》では、「よくあった」(8.2%)と「まれにあった」(15.2%)を合わせた『あった』が23.4%となっています。

（３）子育て支援環境の充実のため、望ましい支援策

問 29 子育て支援環境の充実のために、どのような支援策が望ましいと考えますか（１つに○）

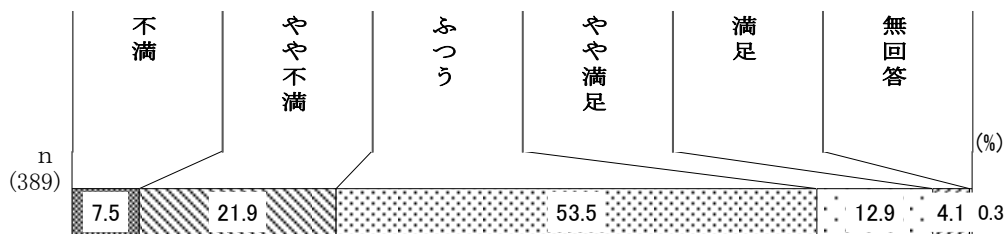


※1つ以上の回答している者が多いため、複数回答として集計している。

○二本松市の子育て支援環境充実のために望ましい支援策は、「高校や大学の進学にかかる費用負担を軽減してほしい」が 56.8%と最も多く、次いで「子育て世帯に対する住宅面の支援をしてほしい」（24.4%）、「放課後等に利用できる子どもの居場所を増やしてほしい」（16.7%）などとなっています。

（４）子育て環境や支援への満足度

問 30 お住まいの地域における子育て環境や支援への満足度をお答えください。（１つに○）



○地域における子育て環境や支援への満足度は、「ふつう」（53.5%）が最も多く、「やや満足」（12.9%）と「満足」（4.1%）を合わせた『満足』は 17.0%にとどまっています。

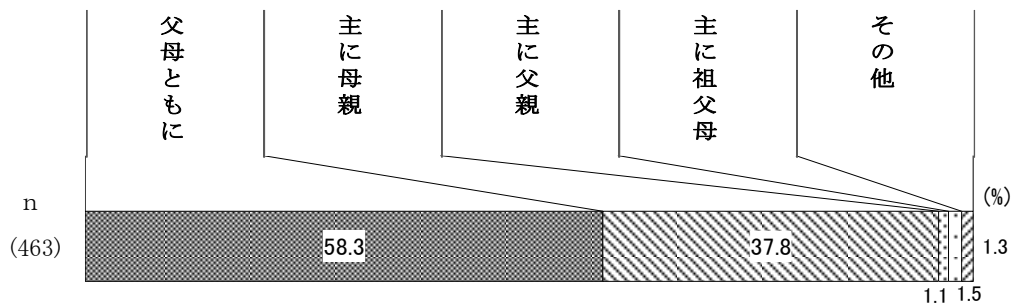
○一方で、「不満」（7.5%）と「やや不満」（21.9%）を合わせた『不満』は 29.4%となっています。

第3章 小学生の調査結果

1 保護者の子育ての状況について

(1) 子育てを主に行っている人

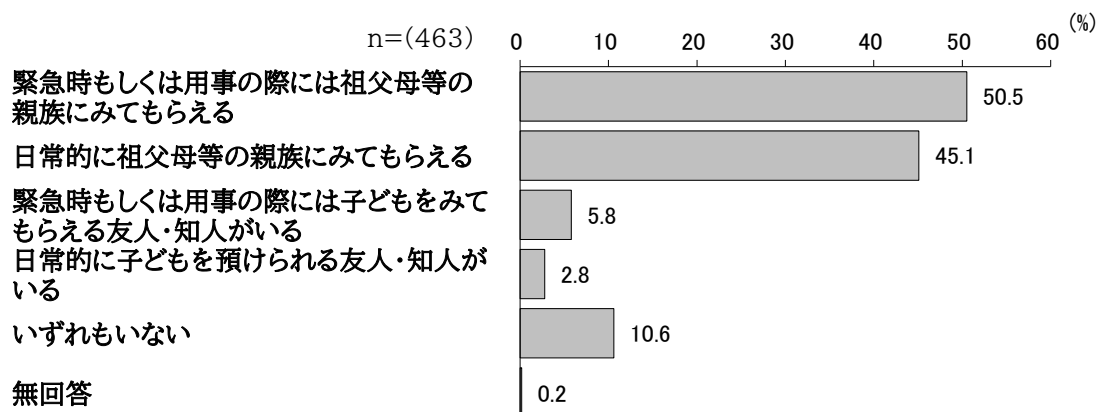
問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。（1つに○）
※お子さんからみた関係でお答えください。



○主に子育てを行っている人は「父母ともに」が 58.3%と最も多く、次いで「主に母親」が 37.8%となっています。

(2) 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

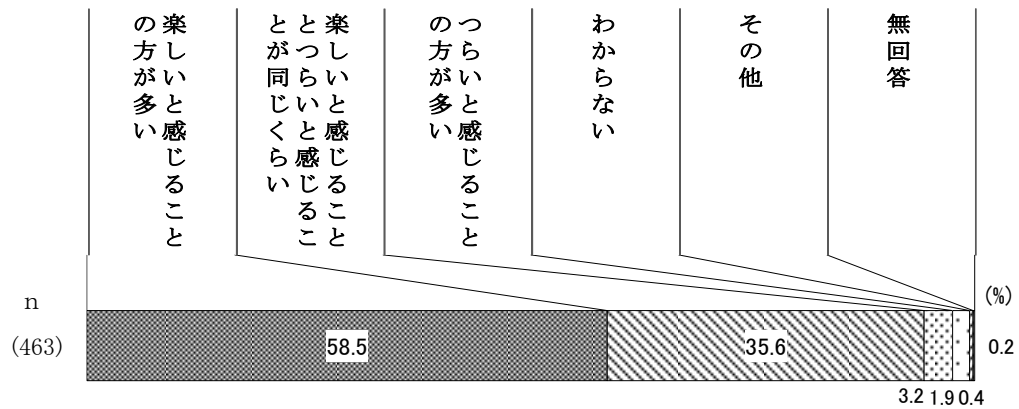


○子どもをみてもらえる親族・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 50.5%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(45.1%) などとなっています。

○一方で、「いずれもない」が 10.6%となっています。

(3) 子育てを楽しい・つらいと感じる度合い

問8 ご自身にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか。それともつらいと感じることが多いと思いますか。(1つに○)



○子育てを楽しいまたは、つらいと感じる度合いについては、「楽しいと感じることが多い」が58.5%と最も多く、次いで「楽しいと感じることが多いと感じることが多い」(35.6%)、「つらいと感じることが多い」(3.2%)となっています。

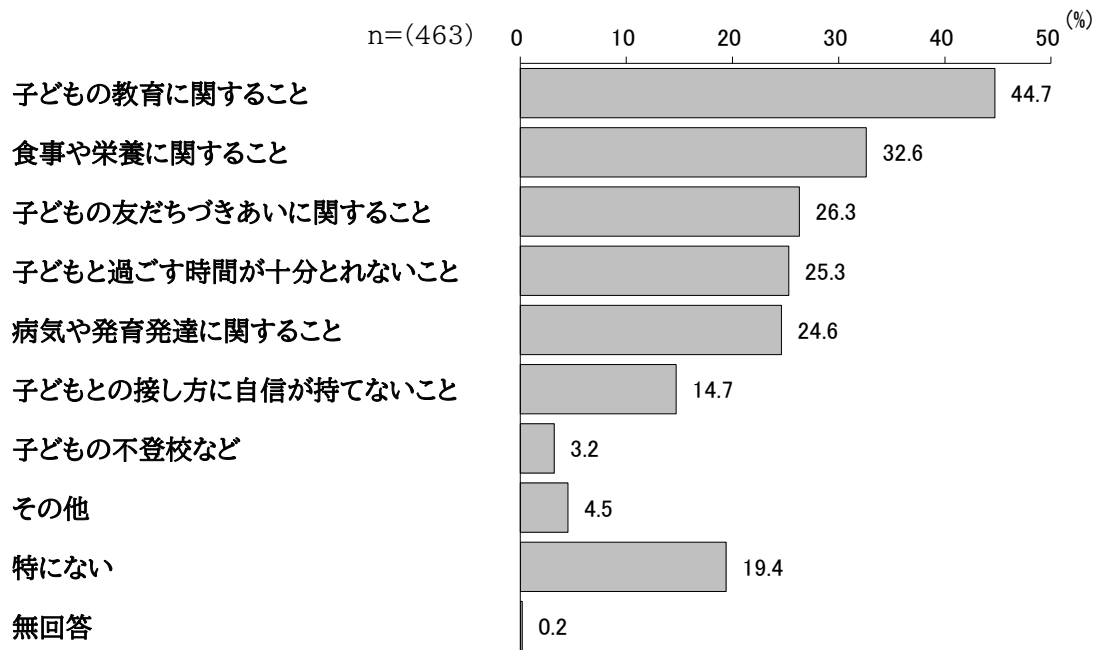
(4) 子育てで日常悩んでいること

問9 子育てに関して、日常悩んでいること、あるいは気になることは何ですか。

(1) 子どもに関すること

(2) ご自身に関すること（あてはまるものすべてに○）

【子どもに関して悩んでいること】

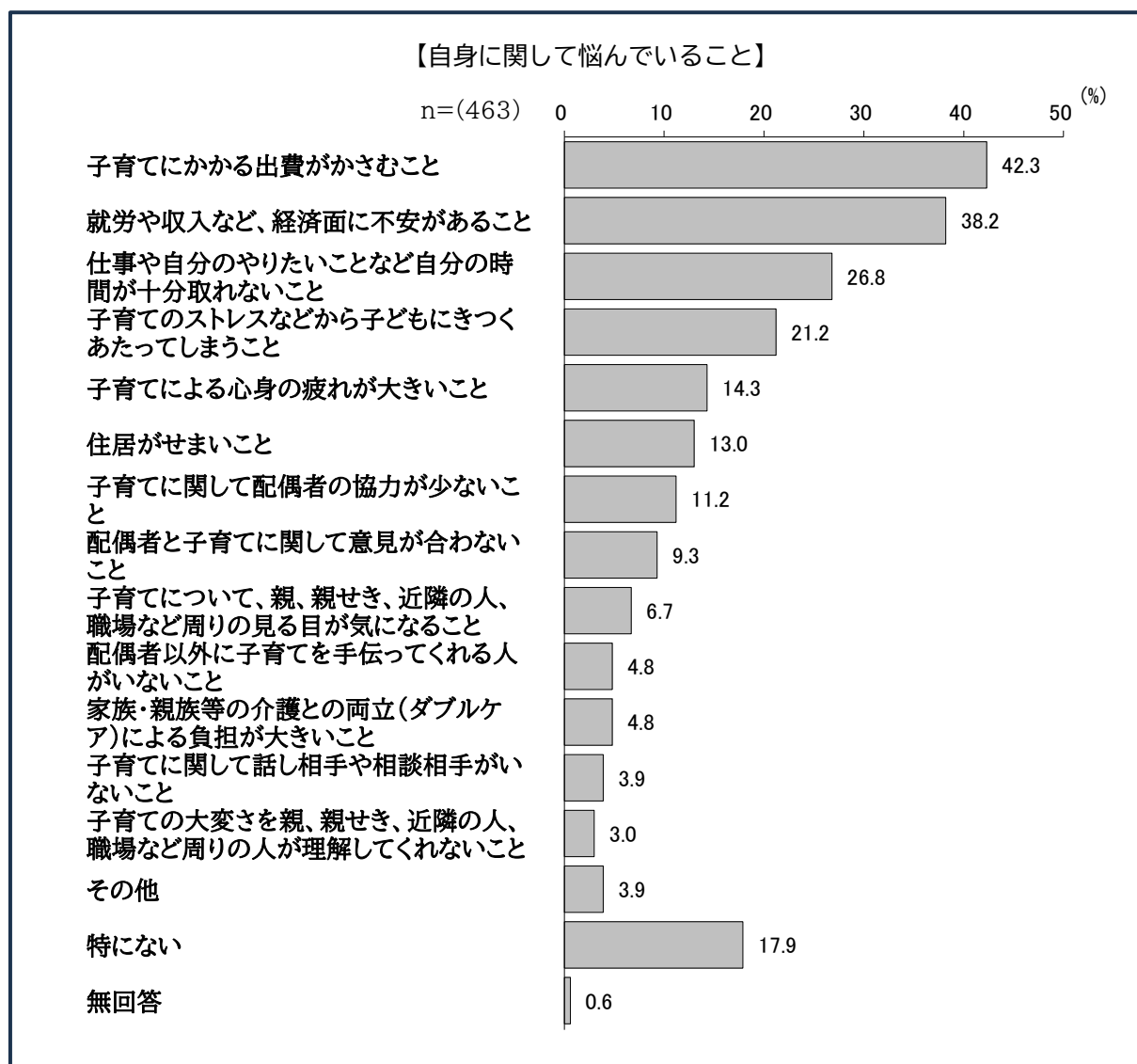


○子どもに関して子育てで日常悩んでいる、気になることは、「子どもの教育に関すること」が(44.7%)と最も多く、次いで「食事や栄養に関すること」(32.6%)、「子どもの友だちづきあいに関すること」(26.3%)などとなっています。

○一方で、「特にない」は19.4%となっています。

第3章 小学生の調査結果

～小学生の保護者～



○ご自身に関して子育てで日常悩んでいる、気になることは、「子育てにかかる出費がかさむこと」が42.3%と最も多く、次いで「就労や収入など、経済面に不安があること」(38.2%)、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」(26.8%)などとなっています。

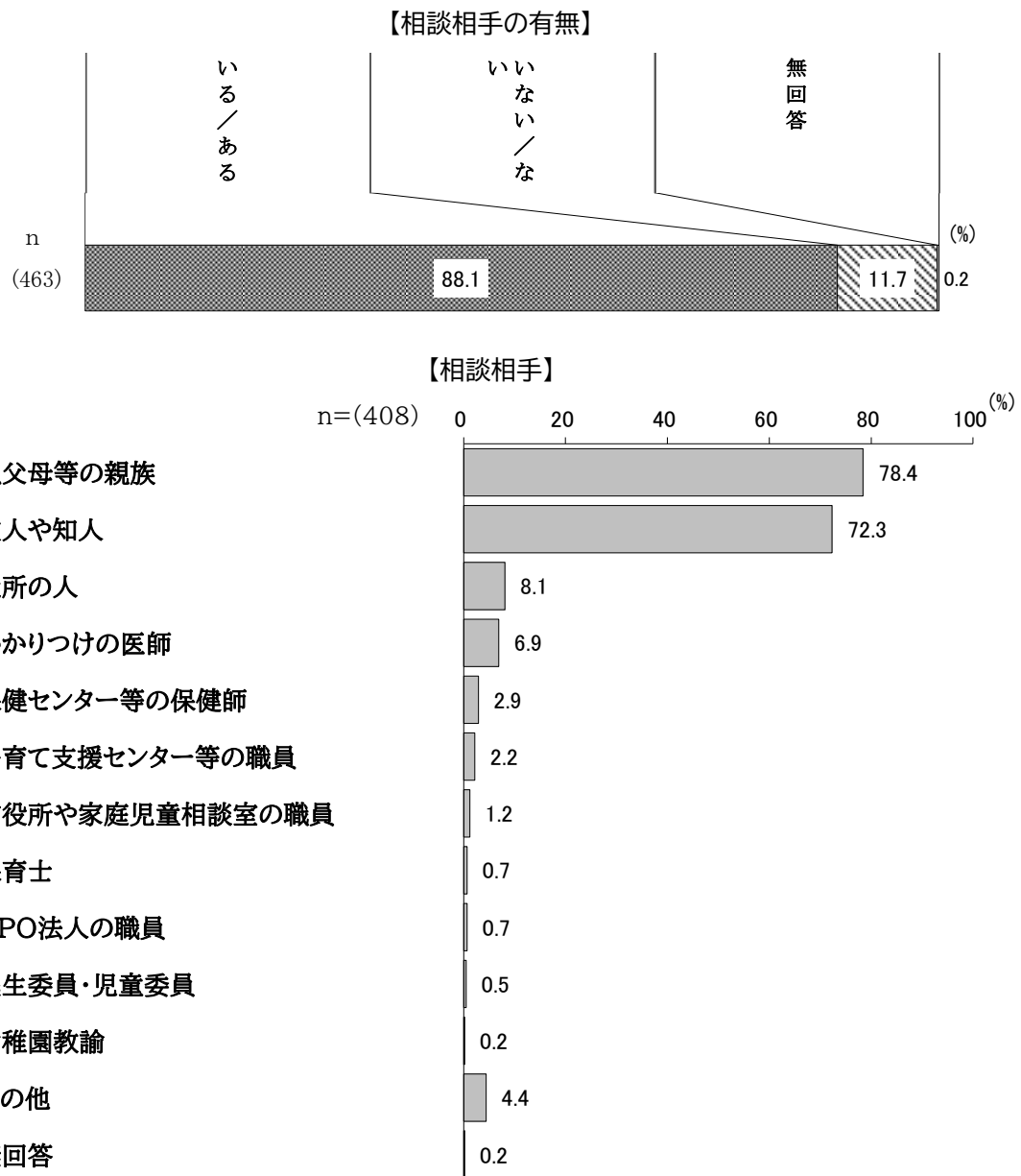
○一方で、「特にない」は17.9%となっています。

(5) 子育てに関して相談できる人

問 10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（1つに○）

【問 10 で「いる／ある」と回答した方のみ】

問 10-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

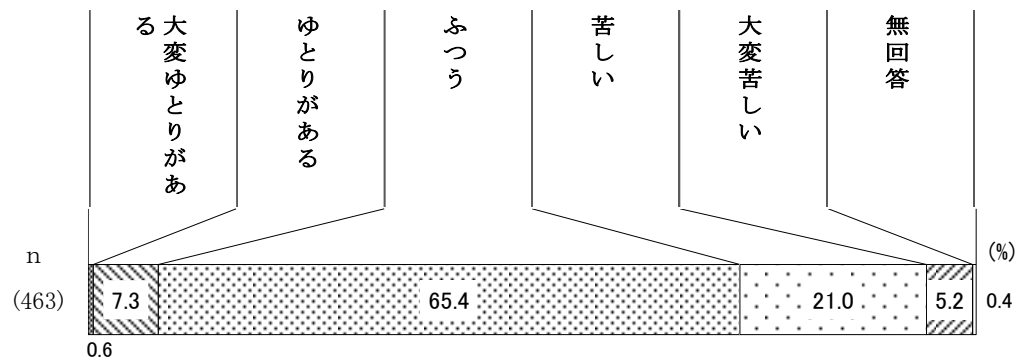


○子育てに関して、相談できる人の有無は、「いる／ある」は 88.1%となり、「いない／ない」が 11.7%にとどまっています。

○子育てに関しての相談相手は、「祖父母等の親族」が 78.4%と最も多く、次いで「友人や知人」(72.3%)、「近所の人」(8.1%)、「かかりつけの医師」(6.9%) などとなっています。

(6) 現在の暮らしの状況

問11 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(1つに○)

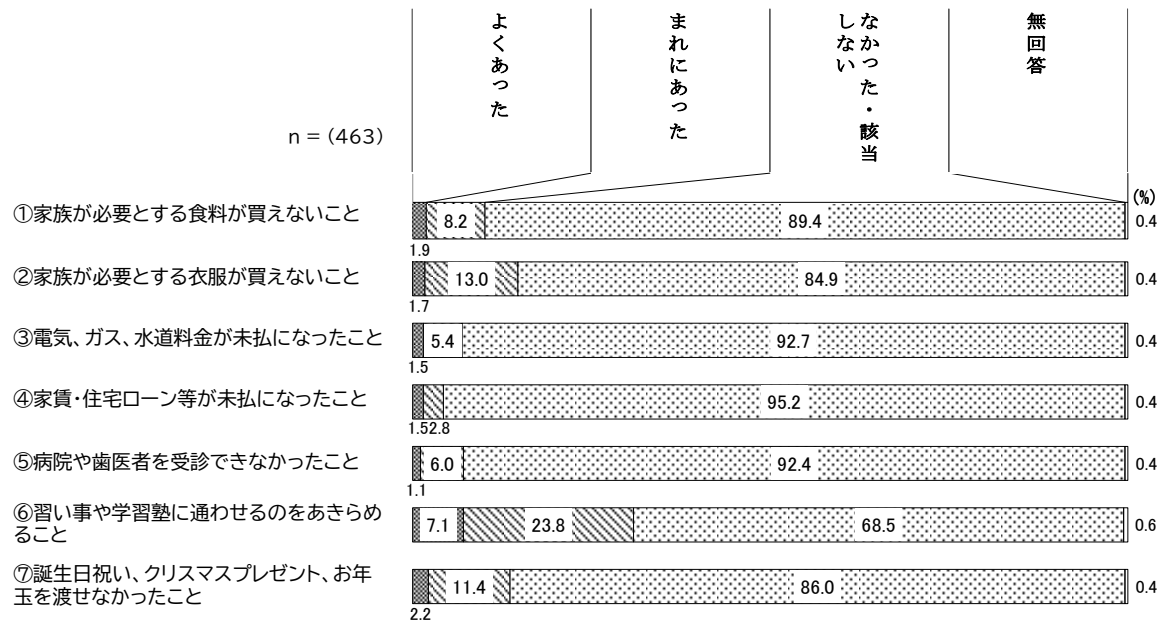


○現在の暮らしの状況については、「ふつう」が65.4%と最も多く、「大変ゆとりがある」(0.6%)と「ゆとりがある」(7.3%)を合わせた『ゆとりがある』が7.9%となっています。

○一方で、「苦しい」(21.0%)と「大変苦しい」(5.2%)と合わせた『苦しい』が26.2%となっています。

(7) 経済的な理由による経験

問 12 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で以下の経験はありましたか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

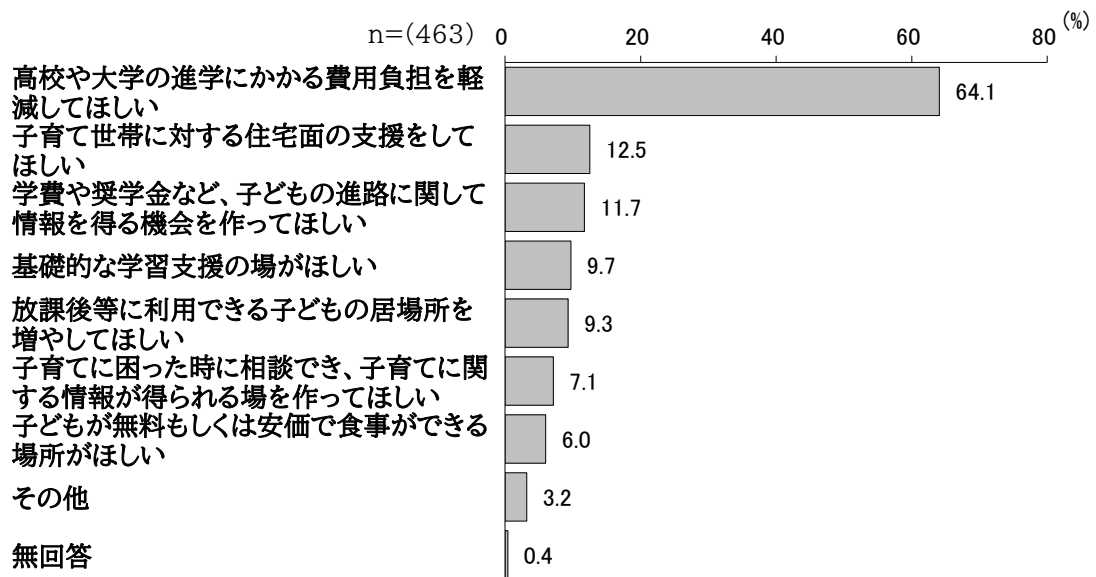


○経済的な理由による経験は、いずれの項目も「なかった・該当しない」が最も多く、《⑥習い事や学習塾に通わせるのをあきらめること》以外の項目では8割以上となっています。

○一方で、《⑥習い事や学習塾に通わせるのをあきらめること》では、「よくあった」(7.1%)と「まれにあった」(23.8%)を合わせた『あった』が30.9%となっています。

(8) 子育て支援環境の充実のため、望ましい支援策

問 13 子育て支援環境の充実のために、どのような支援策が望ましいと考えますか（1つに○）

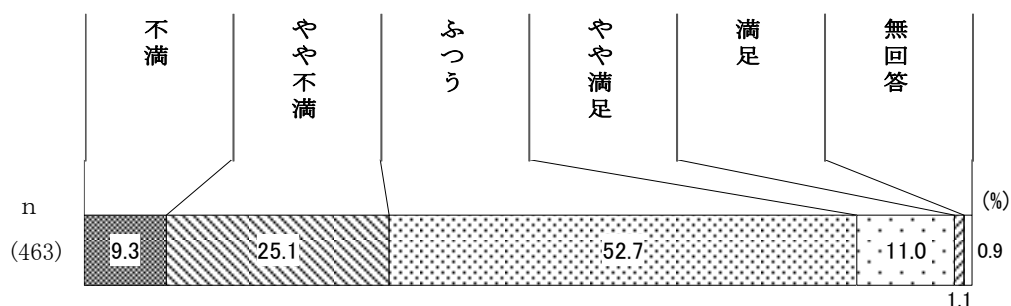


※1つ以上の回答している者が多いため、複数回答として集計している。

○二本松市の子育て支援環境充実のために望ましい支援策は、「高校や大学の進学にかかる費用負担を軽減してほしい」が 64.1%と最も多く、次いで「子育て世帯に対する住宅面の支援をしてほしい」(12.5%)、「学費や奨学金など、子どもの進路に関して情報を得る機会を作してほしい」(11.7%) などとなっています。

(9) 子育て環境や支援への満足度

問 20 お住まいの地域における子育て環境や支援への満足度をお答えください。（1つに○）



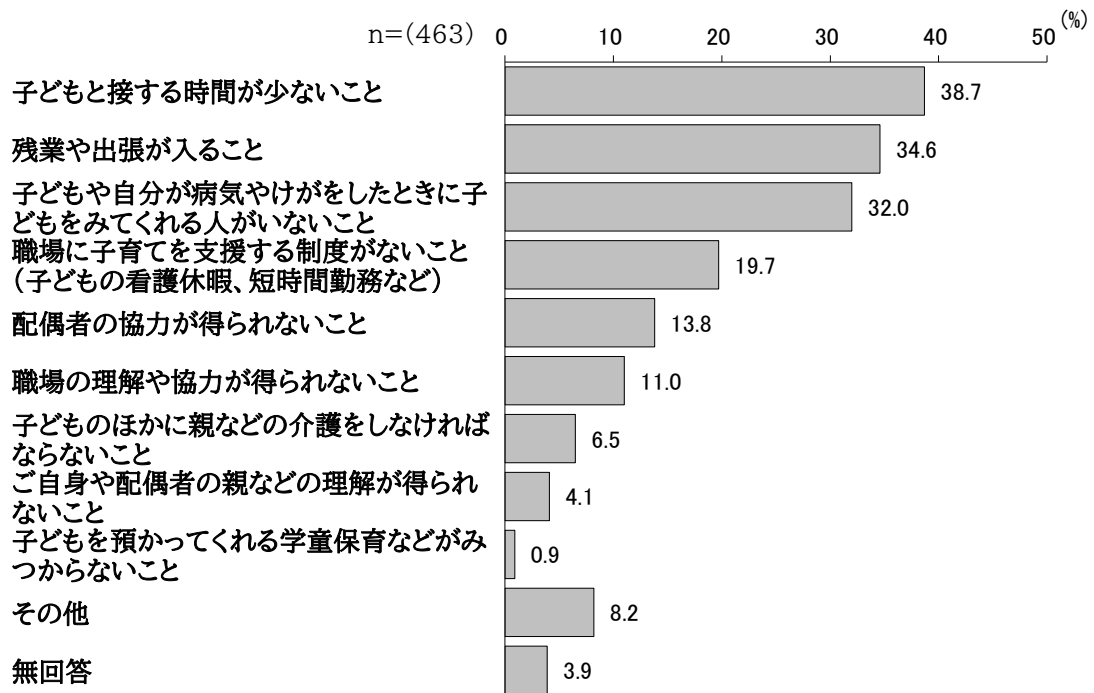
○地域における子育て環境や支援への満足度は、「ふつう」(52.7%) が最も多く、「満足」(1.1%) と「やや満足」(11.0%) を合わせた『満足』は 12.1%にとどまっています。
○一方で、「やや不満」(25.1%)と「不満」(9.3%) を合わせた『不満』は 34.4%となっています。

2 仕事と子育ての両立と保護者の就労状況について

(1) 仕事と子育てを両立させる上での課題

問 14 あなたにとって、仕事と子育てを両立させる上で課題だと思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

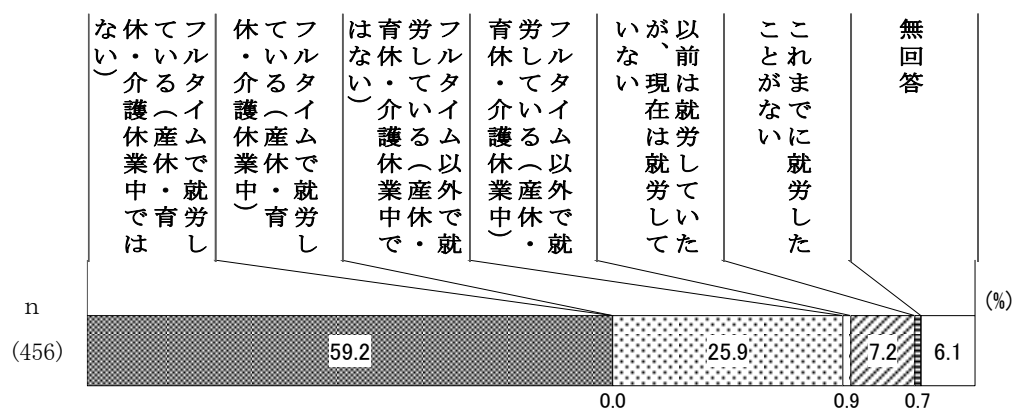


○仕事と子育てを両立させる上で課題は、「子どもと接する時間が少ないこと」が 38.7%と最も多く、次いで「残業や出張が入ること」(34.6%)、「子どもや自分が病気やけがをしたときに子どもをみてくれる人がいないこと」(32.0%) などとなっています。

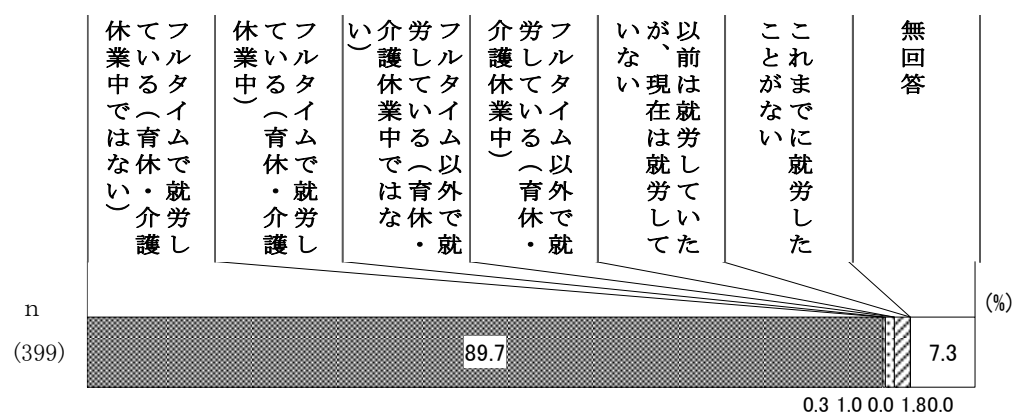
(2) 就労状況

問 15 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。
（母親、父親のそれぞれについて、1つに○）

【母親】



【父親】



○母親の就労状況は、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中ではない）」が 59.2%と最も多く、次いで「フルタイム以外で就労している（産休・育休・介護休業中ではない）」(25.9%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(7.2%)、などとなっています。

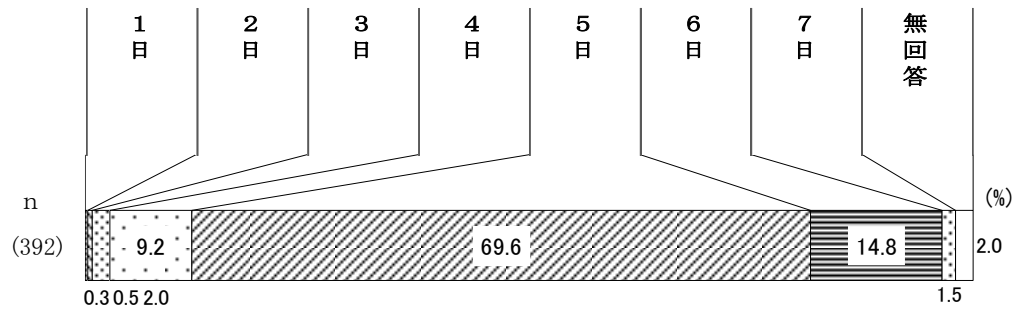
○父親の就労状況は、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中ではない）」が最も多く 89.7%を占めています。

(3) 1日当たりの就労日数と就労時間

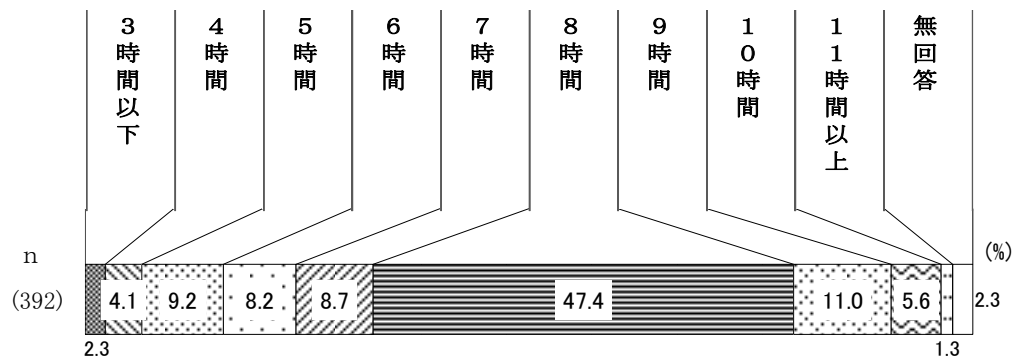
【問15で「就労している」と回答した方のみ】

問15-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」を、口内に具体的な数字でご記入ください。

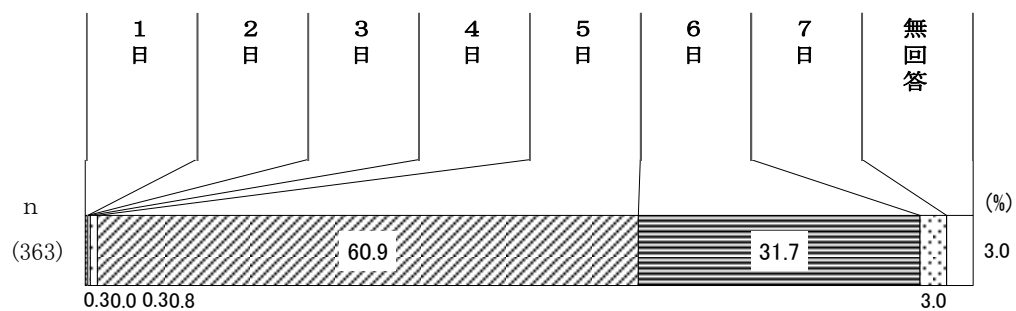
【1週当たりの就労日数：母親】



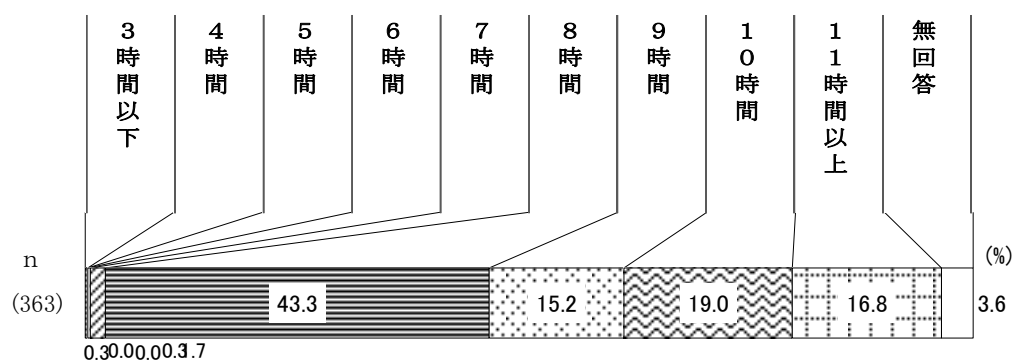
【1日当たりの就労時間：母親】



【1週当たりの就労日数：父親】



【1日当たりの就労時間：父親】



第3章 小学生の調査結果

～小学生の保護者～

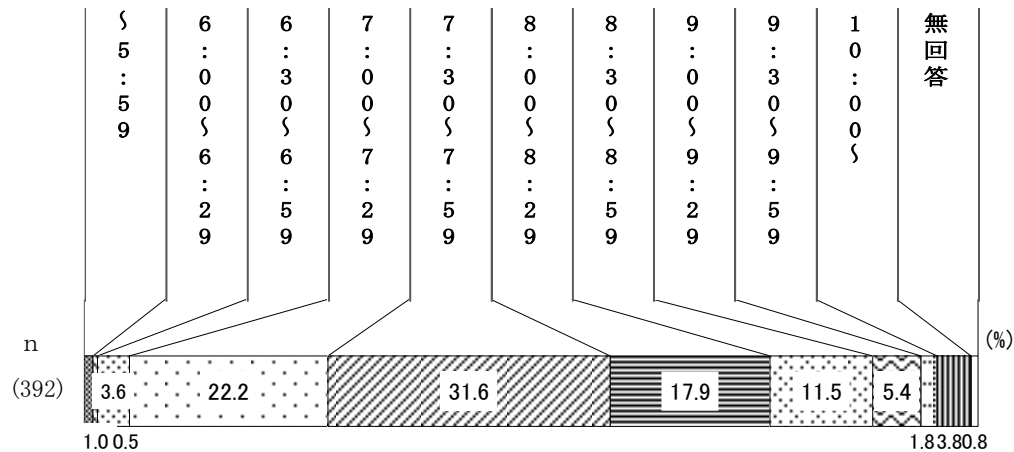
- 母親の1週当たりの就労日数は、「5日」が69.6%と最も多く、次いで「6日」(14.8%)、「4日」(9.2%)となっています。就労時間は、「8時間」が47.4%と最も多く、次いで「9時間」(11.0%)、「5時間」(9.2%)、「7時間」(8.7%)となっています。
- 父親の1週当たりの就労日数は、「5日」が60.9%と最も多く、次いで「6日」(31.7%)となっています。就労時間は、「8時間」が43.3%と最も多く、次いで「10時間」(19.0%)、「11時間以上」(16.8%)、「9時間」(15.2%)となっています。

(4) 家を出る時間、帰宅時間

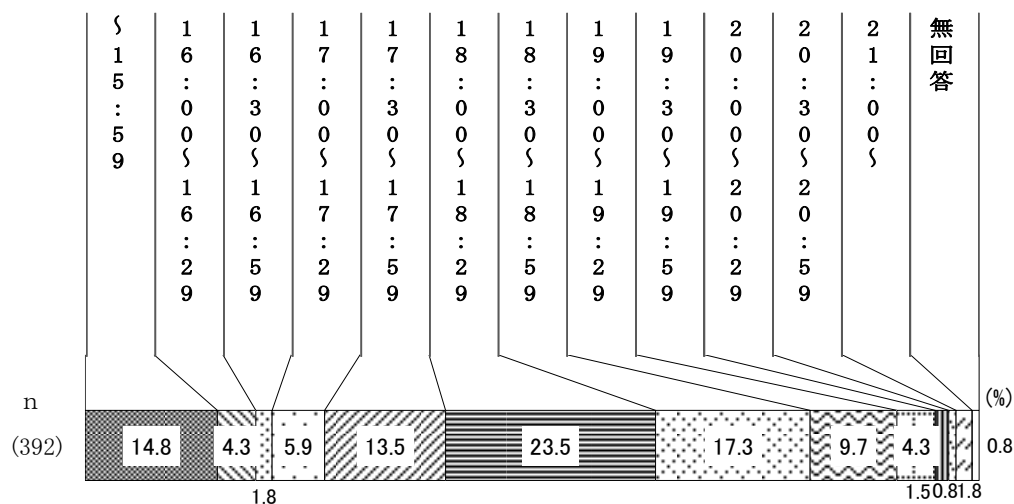
【問 15 で「就労している」と回答した方のみ】

問 15-2 家を出る時間と帰宅時間を、口内に具体的な数字でご記入ください。時間は 24 時間制でご記入ください。

【家を出る時間：母親】



【帰宅時間：母親】

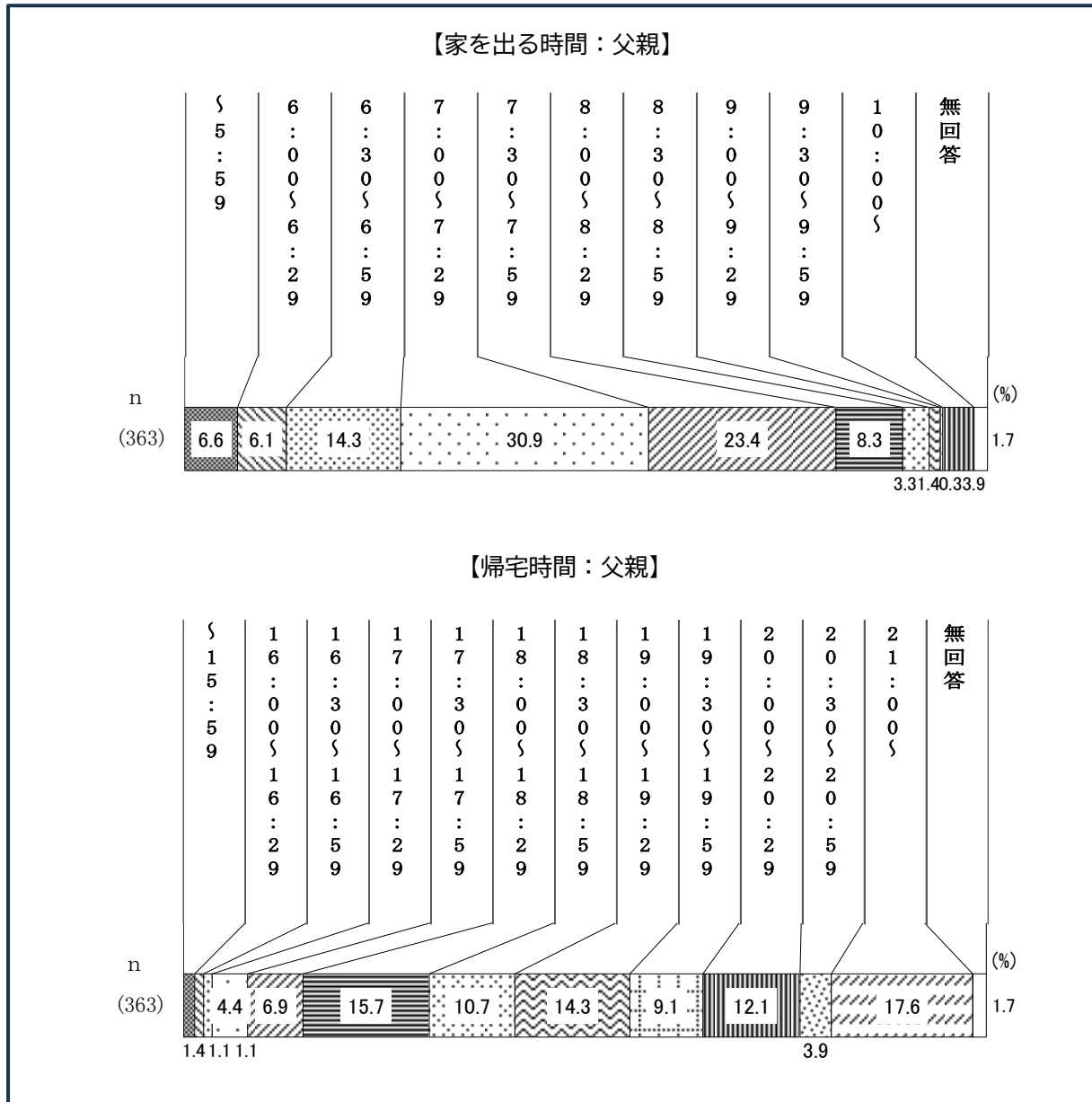


○母親の家を出る時間は、「7：30～7：59」が 31.6%と最も多く、次いで「7：00～7：29」（22.2%）、「8：00～8：29」（17.9%）、「8：30～8：59」（11.5%）と、7時台が 53.8%、8時台が 29.4%となっています。

○帰宅時間は、「18：00～18：29」が 23.5%と最も多く、次いで「18：30～18：59」（17.3%）、「～15：59」（14.8%）と、17時台が 19.4%、18時台が 40.8%となっています。

第3章 小学生の調査結果

～小学生の保護者～



○父親の家を出る時間は、「7：00～7：29」が30.9%と最も多く、次いで「7：30～7：59」（23.4%）、「6：30～6：59」（14.3%）と、6時台が20.4%、7時台が54.3%となっています。

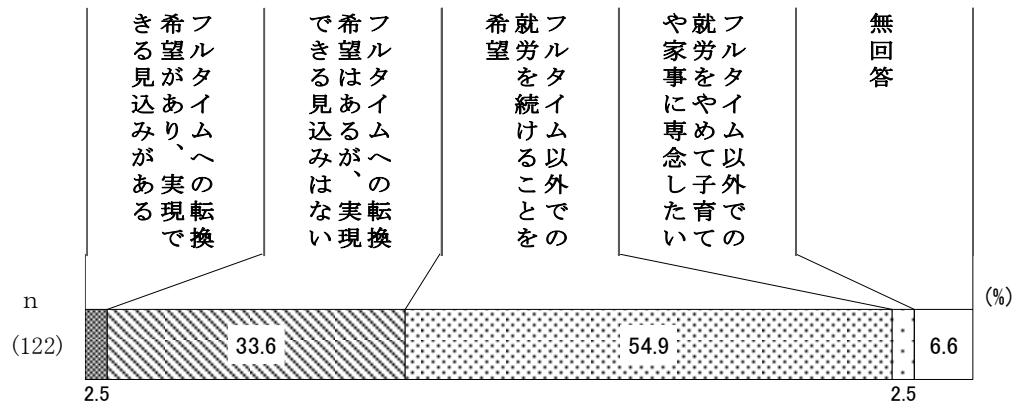
○帰宅時間は、「21：00～」が17.6%と最も多く、次いで「18：00～18：29」（15.7%）、「19：00～19：29」（14.3%）、「20：00～20：29」（12.1%）と、18時台が26.4%、19時台が23.4%、20時台が16.0%となっています。

(5) フルタイムへの転換希望

【問 15 で「フルタイム以外で就労している」と回答した方のみ】

問 15-3 フルタイムへの転換希望はありますか。(母親、父親のそれぞれについて、1 つに○)

【母親】



○フルタイム以外で就労している方のフルタイムへの転換希望は、母親では「フルタイム以外での就労を続けることを希望」が 54.9%と最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 33.6%となっています。

○父親の調査結果は、回答数が4件と少ないため非掲載とします。

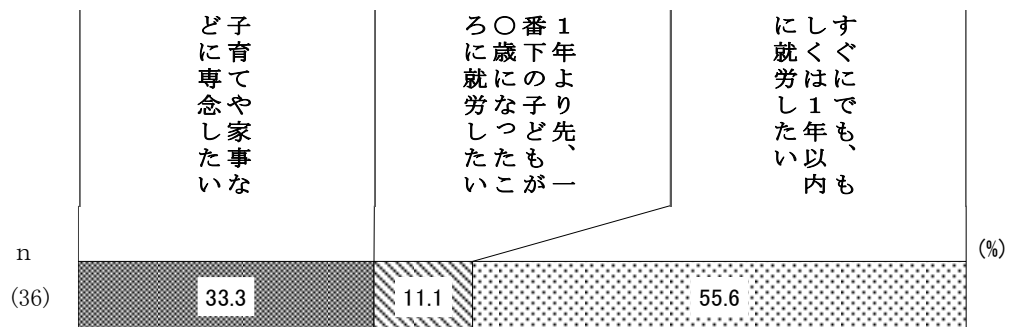
(6) 就労希望

【問 15 で「就労していない」と回答した方のみ】

問 15-4 就労したいという希望はありますか。

(母親、父親のそれぞれについて、1 つに○。□内に具体的な数字記入)

【就労希望：母親】



○就労していない方の就労希望は、母親では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が55.6%と最も多く、次いで「子育てや家事などに専念したい」(33.3%)、「1年より先、一番下の子どもが○歳になったところに就労したい」(11.1%)となっています。

※父親の就労希望(7件)と、母親及び父親(いずれも1件)の就労したい末子の年齢の調査結果は、回答数が少ないため非掲載とします。

(7) 希望する就労形態

【問 11-4 で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した方のみ】

問 15-5 希望する就労形態をお答えください。

(母親、父親のそれぞれについて、1つに○。□内に具体的な数字記入)

【希望する就労形態：母親】

上段：件数、下段：%

調査数	フルタイム	フルタイム以外等
20	3	17
100.0	15.0	85.0

【希望する1週当たり就労日数：母親】

上段：件数、下段：%

調査数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
17	-	-	2	6	9	-	-
100.0	-	-	11.8	35.3	52.9	-	-

【希望する1日当たり就労時間：母親】

上段：件数、下段：%

調査数	3時間未満	4時間	5時間	6時間	7時間以上
17	-	3	8	6	-
100.0	-	17.6	47.1	35.3	-

○すぐに、または1年以内に就労したい方の、母親の希望する就労形態は、「フルタイム」は15.0%、「フルタイム以外等」が85.0%、となっています。

○フルタイム以外等で希望する、1週当たりの就労日数は、「5日」が52.9%と最も多く、次いで「4日」(35.3%)、「3日」(11.8%)となっています。

○フルタイム以外等で就労希望する、1日当たりの就労時間は、「5時間」が47.1%と最も多く、次いで「6時間」(35.3%)、「4時間」(17.6%)となっています。

※父親の調査結果は、回答数が3件と少ないため非掲載とします。

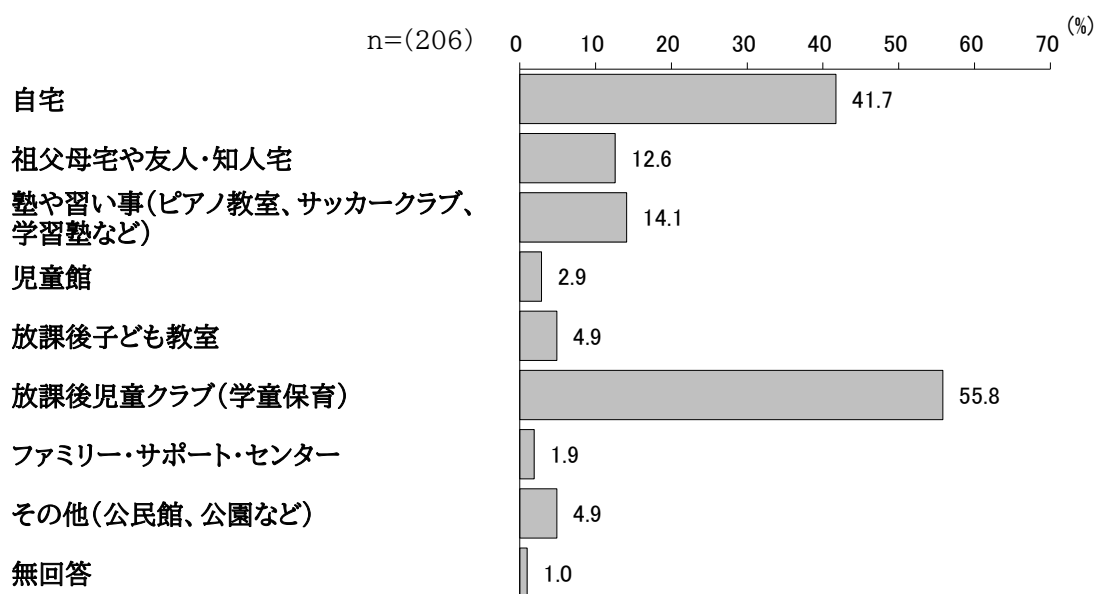
3 放課後の過ごし方について

(1) 低学年の放課後の過ごし方

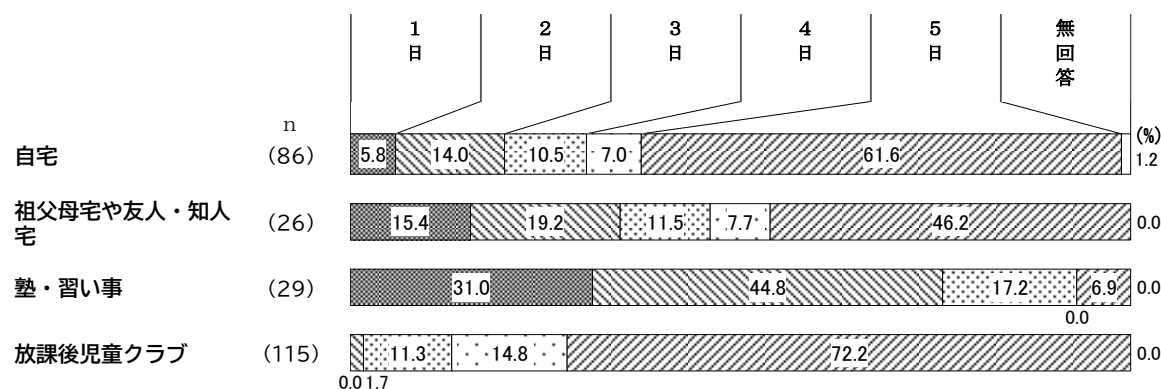
【宛名のお子さんが1～3年生の方のみ】

問16 放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか、または過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

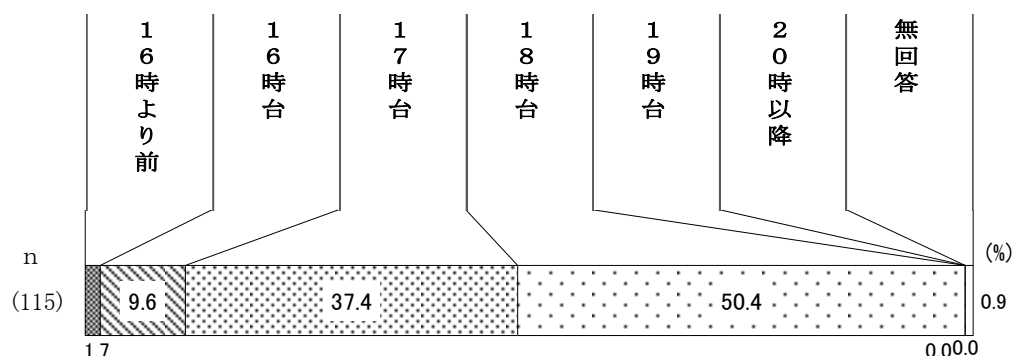
【低学年の放課後の過ごし方】



【1週当たりの利用日数】



【放課後児童クラブの利用時間】

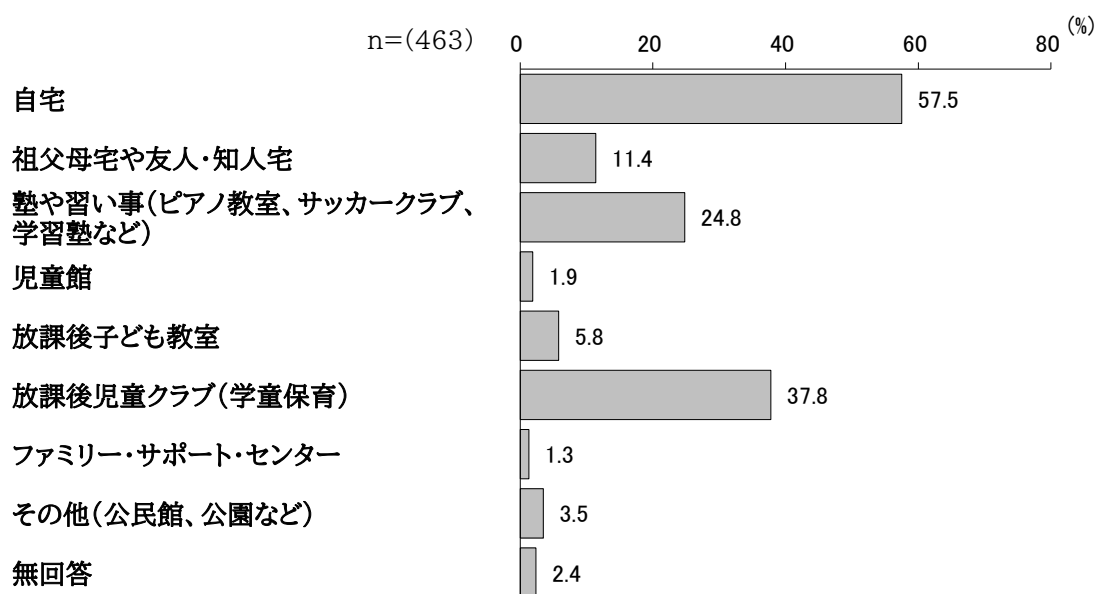


- 低学年の平日の放課後の過ごし方、または希望する過ごし方は、「放課後児童クラブ」が 55.8%と最も多く、次いで「自宅」(41.7%)、「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(14.1%) などとなっています。
- 1 週当たりの利用希望日数は、《塾や習い事》では、「1 日」「2 日」が多く、合わせると 75.8%を占めています。
- 《塾や習い事》以外では「5 日」が最も多く、《自宅》が 61.6%、《放課後児童クラブ》では 72.2%を占めています。
- 放課後児童クラブの利用希望時間は、「1 8 時台」が 50.4%と最も多く、次いで「1 7 時台」が 37.4%となっています。
- ※《児童館》(6 件)、《放課後子ども教室》(10 件)、《ファミリー・サポート・センター》(4 件)、《その他》(10 件) の 1 週当たりの利用希望日数は、回答数が少ないため非掲載とします。

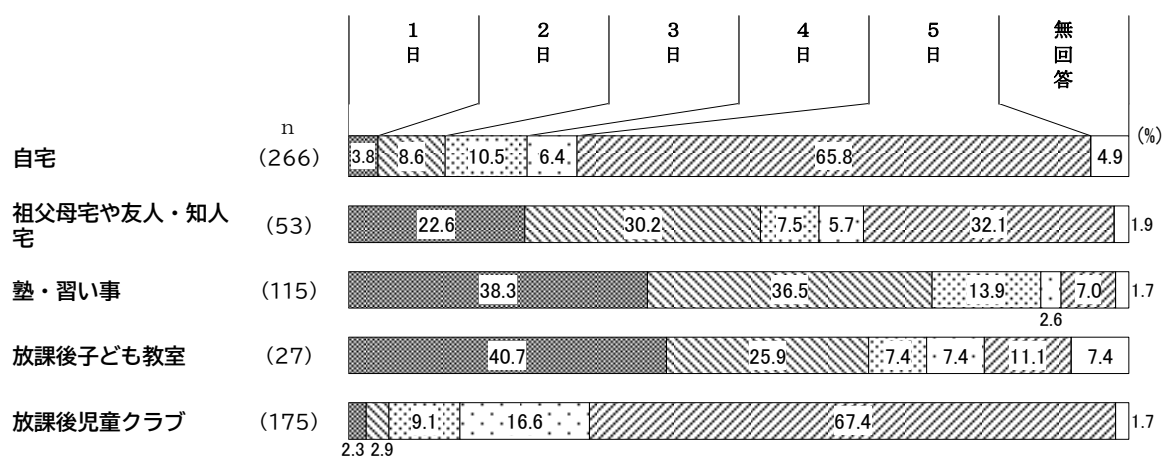
(2) 高学年の希望する放課後の過ごし方

問 17 小学校高学年（４～６年生）になった時、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

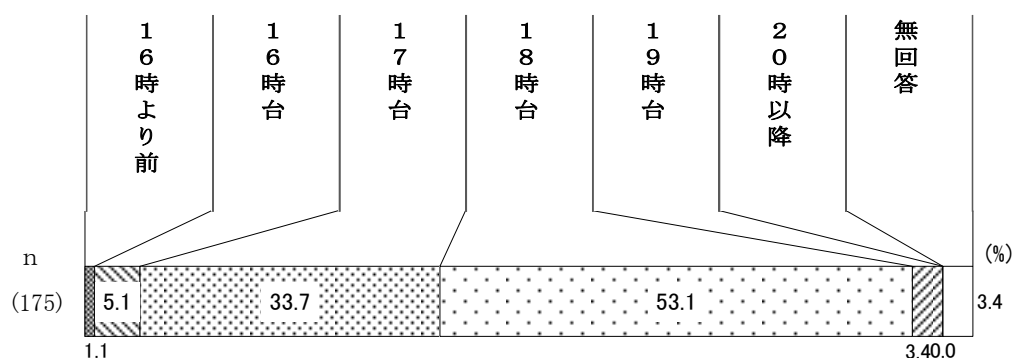
【高学年の希望する放課後の過ごし方】



【１週当たりの希望利用日数】



【放課後児童クラブの利用希望時間】



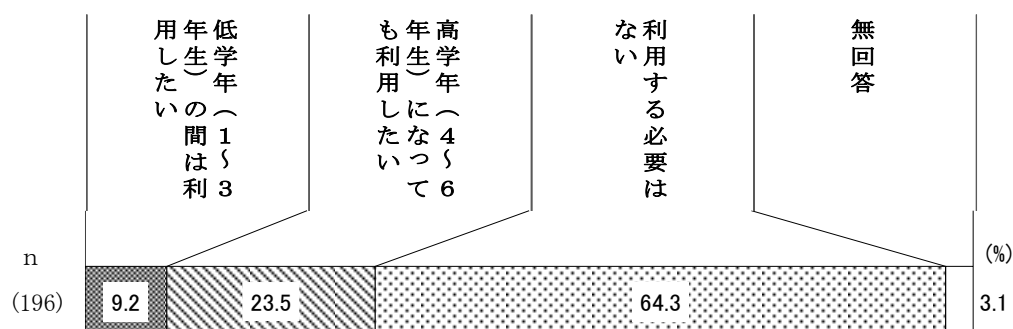
- 高学年の希望する平日の放課後の過ごし方は、「自宅」が 57.5%と最も多く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」（37.8%）、「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（24.8%）などとなっています。
- 1 週当たりの利用希望日数は、《塾や習い事》《放課後子ども教室》では、「1 日」「2 日」が多く、合わせた『1～2 日』は7割前後となっています。
- 《自宅》《放課後児童クラブ》では、「5 日」が最も多く、6割半ばとなっています。
- 《祖父母宅や友人・知人宅》では、「2 日」「5 日」が最も多く、それぞれ約3割となっています。
- 放課後児童クラブの利用希望時間は、「1 8 時台」が 53.1%と最も多く、次いで「1 7 時台」が 33.7%となっています。
- ※《児童館》（9 件）、《ファミリー・サポート・センター》（6 件）、《その他》（16 件）、の 1 週当たりの利用希望日数は、回答数が少ないため非掲載とします。

(3) 土曜日・日曜・祝日の放課後児童クラブの利用意向

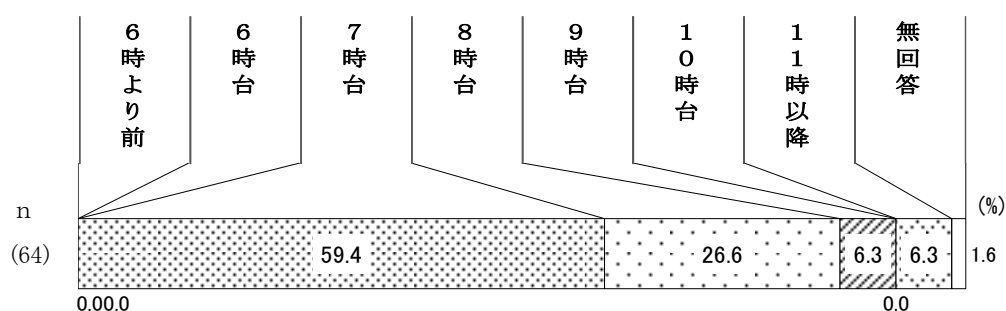
【問 16 または問 17 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方のみ】

問 18 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。（(1) (2) それぞれについて、1 つに○）

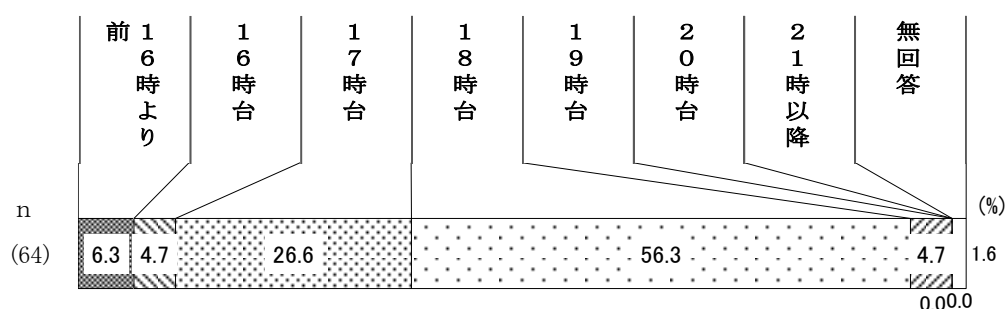
【土曜日の利用意向】



【土曜日の希望開始時刻】



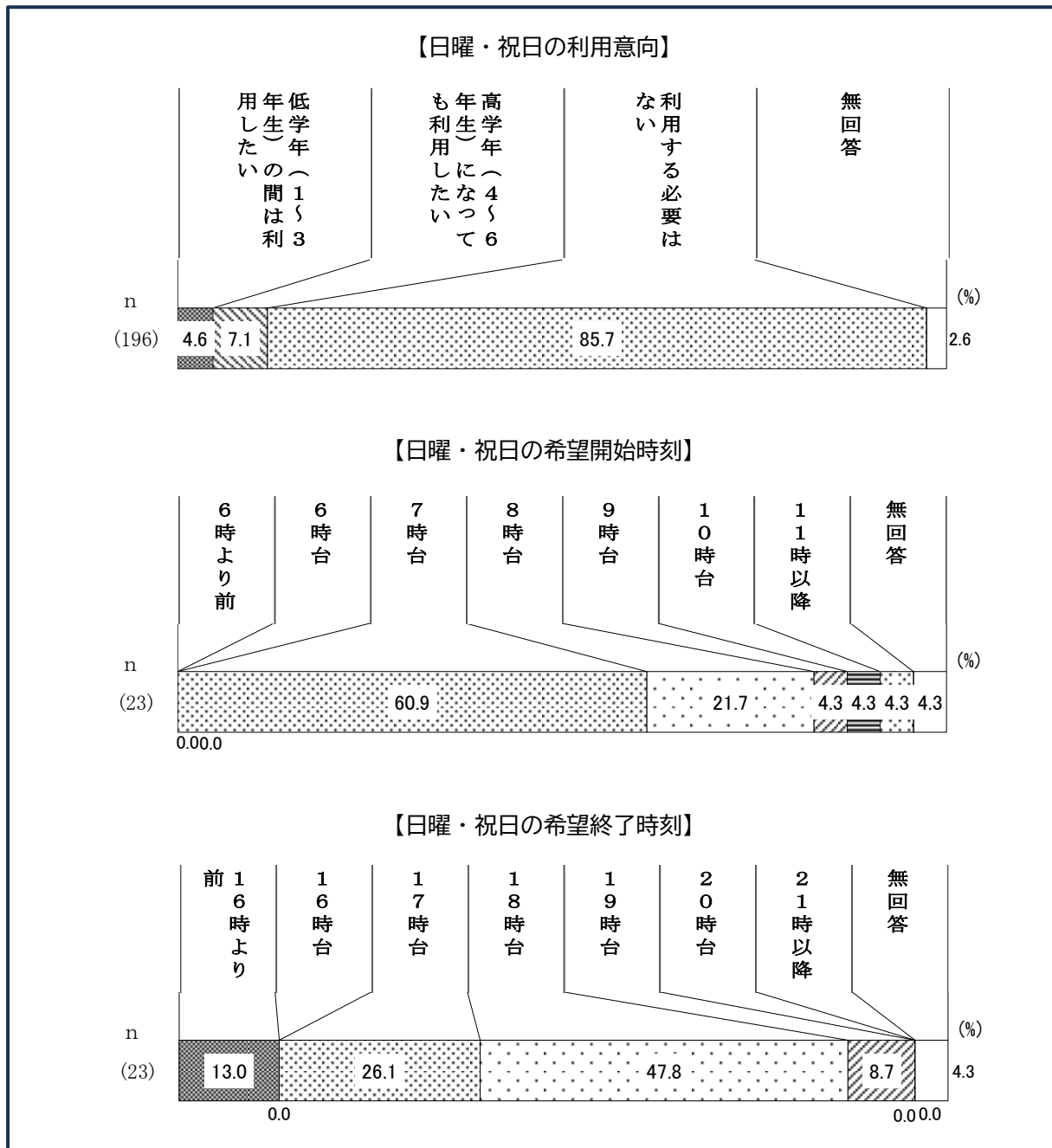
【土曜日の希望終了時刻】



○土曜日の放課後児童クラブの利用希望は、「利用する必要はない」が 64.3%と最も多く、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は 23.5%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は 9.2%となっています。

○希望の開始時間は、「7時台」が 59.4%と最も多く、次いで「8時台」（26.6%）、「9時台」「11時以降」（ともに 6.3%）となっています。

○希望の終了時間は、「18時台」が 56.3%と最も多く、次いで「17時台」（26.6%）、「16時より前」（6.3%）となっています。



○日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望については、「利用する必要はない」が85.7%を占め、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は7.1%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」は4.6%となっています。

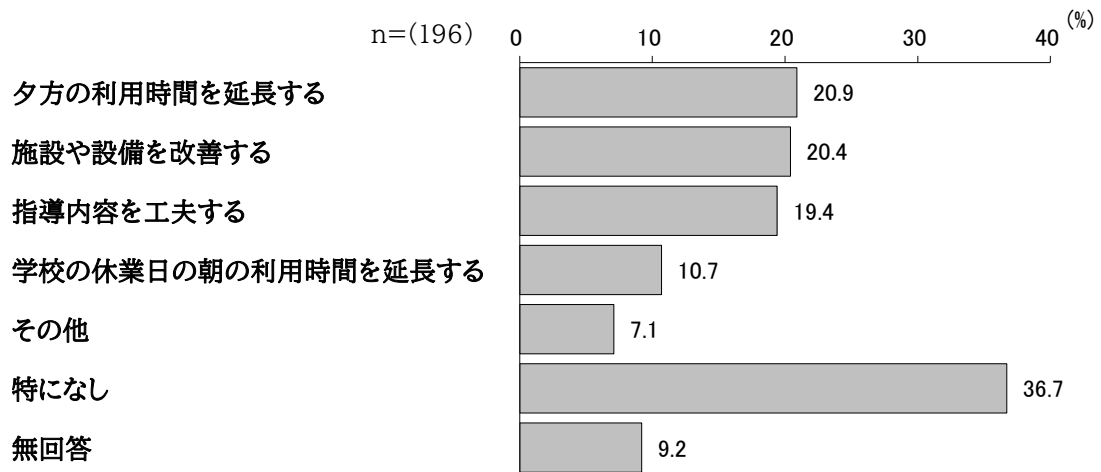
○希望の開始時間は、「7時台」が60.9%と最も多く、次いで「8時台」（21.7%）となっています。

○希望の終了時間は、「18時台」が47.8%と最も多く、次いで「17時台」（26.1%）、「16時より前」（13.0%）となっています。

(4) 現在通っている（通いたい）学童保育に希望すること

【問 16 または問 17 で「放課後児童クラブ（学童保育）」と回答した方のみ】

問 19 現在通っている（または通いたい）学童保育にどのようなことを希望しますか。（あてはまるものすべてに○）



○現在通っている（通いたい）学童保育に希望することは、「夕方の利用時間を延長する」が 20.9%と最も多く、次いで「施設や設備を改善する」(20.4%)、「指導内容を工夫する」(19.4%) などとなっています。

○一方で、「特になし」は 36.7%となっています。

第4章 自由意見

1 自由意見件数

最後に、教育・保育環境の充実など子育て環境や支援に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。(就学前児童の保護者：問 31、小学生の保護者：問 21)

アンケートの最後の設問に、教育・保育の充実など子育て環境や支援に関するご意見をお聞きしたところ、就学前児童の保護者では154人の方から、延べ182件、小学生の保護者では174人の方から、延べ229件の意見が得られました。

意見内容を項目ごとに分類化し、その項目別の件数は以下のとおりです。

【分類項目別件数：就学前児童の保護者】

順位	分類項目	意見数
1	保育所等、教育・保育事業について	42
2	経済的な支援について	36
3	遊び場、交流、地域子育て支援拠点事業について	28
4	医療、こどもの健康・発達について	18
5	仕事と子育ての両立等、就労環境について	16
6	放課後児童クラブ等、放課後や休日の過ごし方について	13
7	商業施設や地域等、生活環境について	9
8	学校、教育環境について	5
8	行政全般について	5
10	防災防犯等、こどもの安全について	3
11	その他	7

【分類項目別件数：小学生の保護者】

順位	分類項目	意見数
1	経済的な支援について	46
2	放課後児童クラブ等、放課後や休日の過ごし方について	37
2	遊び場、交流、地域子育て支援拠点事業について	37
4	商業施設や地域等、生活環境について	26
5	学校、教育環境について	24
6	防災防犯等、こどもの安全について	12
6	行政全般について	12
8	仕事と子育ての両立等、就労環境について	11
9	医療、こどもの健康・発達について	10
10	保育所等、教育・保育事業について	5
11	その他	9

※複数意見があるため、意見数を足し合わせると、回答者数を超えます。

2 意見内容（抜粋）

※就学前児童の保護者の順位の順に掲載しています。

（１）保育所等、教育・保育事業について

- 市内の保育園は、親が仕事を休む時はこどもを預けることができない。親にもリフレッシュする時間は、子育てする中でも大切な時間で必要な時間だと思います。また保育園入所を希望する際に、祖父母の就労状況について記載が必要だが、そこまで入所の基準に含める必要があるのか。実際体力的にも厳しいし、病気とまではいかなくとも足腰の負担は大抵の方が持っている中で、祖父母が就労していないから入所できないとなると非常に大変だと思います。（０歳）
- パートタイムで働くお母さんは、希望する保育園に入れないことが多いと思います。実際に私は２人目、３人目は希望する保育園は何度も落ち、２次募集で自宅から遠い小規模保育園に通わせたり、幼稚園の延長保育で働くしかありませんでした。（３歳）
- 市立保育所である、施設での安心安全な保育環境で保育をお願いしたいので待機児童でも１年３か月会社を休みました。ですが、それでは経済面がかなり厳しく大変でした。休園の施設が増えて大変だと思いますが、０歳児での（生後６か月）途中入園が可能になることを心からお願い申し上げます。日頃、保健センターなどを通じて通園している保育園も含め、事細かくご支援いただき本当にありがとうございます。更なる向上を期待しています。子ども２人、共に１月生まれ待機児童で１年３か月待ち。保育園入所が４月。（２歳）

- 保育園時代、たまたま通っていたその保育園が習い事に寛容じゃなかった為に、途中で諦めた経験もあり、現在も寛容だった子と娘との差に開きがある状況です。もっと子どもの可能性を応援出来るような、保育園が増えて欲しいと思います。(3年生)
- 共働きの親のこどもが増えているため、広い保育施設、室内と室外を検討していただきたいです。(3年生)

(2) 経済的な支援について

- 1人目でも、子育て支援関係のお祝い金を増やして欲しい。2、3人目以降の年齢が離れていても、きちんと恩恵の受けられる制度にして欲しい。(0歳)
- 高校、大学など、進学をする為に金銭的な支援があるとありがたいと思います。学費だけでなく、家賃などの生活費など必要なお金が高額になるので。また、こども園の保育時間をせめて7時からにして欲しいです。勤務地が遠いと、特に冬場は出勤がギリギリになるので。(3歳)
- 給食費無償化または助成。オムツ代の助成。子ども手当の支給間隔の短縮化。毎月、毎月少しでも負担軽減(経済面)になれば、さらに心にも余裕が生まれ、子育てに対してもゆとりが広がるのではないかと思います。現在経済的に困窮している状況ではないですが、子どもにかかるお金に対してゆとりが欲しいです。(1歳)
- 世代所得額関係なく、高校大学への進学助成は必要だと考える。ひとり親家庭への事業は多くあるが、フルタイム共働き世帯への支援は手薄い。働き方は各世帯が自身で選択しており、行政からの助成は一律で良いと考える。(2年生)
- 進学(とくに大学)に関する費用の負担が大きいので、その支援が欲しいです。3人子どもがいて、全員を大学に進学させるのは難しいので、誰かに諦めてもらうことになります。子どものためにも選択肢を広げてあげたいです。(2年生)
- ひとり親世帯への経済的な支援をもう少し広げてほしい。住居の家賃補助、家具家電付きなど、特に母子家庭では、収入が低いため、住みたくても住めないのも、すぐ入居できる環境があると助かる。(1年生)

(3) 遊び場、交流、地域子育て支援拠点事業について

- 二本松地域子育て支援センターがなくなってしまい、とても残念に思った。以前は月に数回利用し、精神的にとっても助かっていた。保育士さんたちによるサポートや、行事等、子どもはもちろん、親も楽しく参加して、とてもよい息抜き場になっていた。無料でいつでも利用できる屋内の施設を増やして欲しい。(1歳)
- 公園、子どもの遊べる場所が少ない(本宮が良いと思う)。学校から帰って遊ぶ場が近くに欲しい。支援クラスの支援員さんが、もう少し多くても良いと思う。学年が違う子と同じクラスの場合、教室の移動に付きそいなくなる。小学校の低学年では、先生一人だと見きれない事が多いと思うので、サポートに一人居たら良いと思う。(0歳)

- 子育てについて相談できる場所（Mumのような場所）を土日にも利用できるようにして欲しい。平日仕事していると電話する時間もない。土日だったら父親と一緒に利用できて、行きやすくなると思う。（1歳）
- 子ども達が、自由に出入りでき体を動かしたり、色々な学年の子などとふれあえる場所があると良いと思う（学童以外で）。神奈川ではコミュニティーセンターという場所が学区内に数か所あり、そこへ行けば、誰かと遊べるという環境があった。二本松にも小学生向けの、ふれあう場を作ってほしいです。（2年生）
- 子どもの事を気軽に、コミュニケーションをとれる場があればいいなと思います。また、せっかく、岩代、安達、二本松、東和が合併して、大きな二本松市となっているので、それぞれの学校の交流ができればいいのかなと思います。特に東和については、幼稚園から、中学校まで、ほぼメンバーが変わらないという、小さい輪の中で、育ちます。だから、同学年の子と交流できる場を設けてほしいです。（1年生）
- 今は共働きの家が多く、親がいない家に友達を上げるのを嫌がる親も多いため、放課後に友達と遊べる場所が少ないと思う。油井小学区にも子どもたちが歩いて行けて、安全に遊べるような公園や施設を、もっと増やしてほしい。小学生がもっと遊べる場所を増やして欲しいです（小さい子の施設は充実していると思います）。なぜか小学校の校庭には遊びに行きたがらないのです。（6年生）

（4）医療、こどもの健康・発達について

- 市内に安心してかけられる小児科が少なく不安です。かかりつけでないと文句や小言を先生からいわれたりします。かかりつけ医は予約でいっぱい、行けないことも多いし、何かあった際不安です。（0歳）
- 他の地域に比べて、発達障害への理解、最新の情報が教育機関、病院等で周知されていない気がします。安心して預けられる環境が整ったら、親子共々心身ともに安定すると思います。（4歳）
- 小学校就学前に発達障害の有無の検査の実施。入学後も該当児の検外の実施、市から受診のすすめ、促進など特別支援教育の充実。普通学級にいたことが当たり前の世の中になりつつあるが、適切な支援、指導、投薬、親や周囲への教育や理解が必要。そのままでは本人も周りも不幸。（5歳）
- 病院をもっと充実させて頂けたら嬉しいです。（5年生）
- すぐ行ける病院が少ない。小児科も予約制だったり、早めに受付終了だったり、新規患者は受け付けないと言うようなニュアンスの病院ばかりで、診療科も少ない。子どもに限らず大人ですが、わざわざ市外の病院に行っている。（3年生）
- 時代が変わり、子ども達も色々な媒体から情報が得られるようになったかわりに、多様な考えを持つようになり、考えも成熟した子が多く感じます。その分、子育てに悩むこともあります。特に高学年になると思春期や反抗期もあり、また、不登校も年々増えていることから、思春期外来や児童精神科のある病院が二本松市にあると助かります。また発達検査などができる機関や病院の情報を発信してもらえたら、助かります。（6年生）

(5) 仕事と子育ての両立等、就労環境について

- 希望する園に、いつの時期でも入れるようになって欲しい。職場復帰が4月予定なので、3月頃に慣らし保育が、できるようにしてほしい。4月から慣らし保育となると誰かにお願いしないと働くことができない。(4歳)
- 仕事をしながらの子育てのため、土・日曜日も預かってくれる施設があれば助かります。病児保育は、事前に医師の診断をもらっていないと預かってもらえないので、利用しづらい所がある。もう少し柔軟に預かるシステムがあれば良いと思う。(2歳)
- 働きたいが未就学児、小学生の育児中は、ハードルが高いです。社会復帰が遠のくと精神面も不安定になってしまって、余計に孤立してしまいます。専業主婦からの社会復帰への支援などがあると、嬉しいなと心から思っております。(4歳)
- 就労している家庭、事情があって働けていない家庭など、各家庭により、様々な理由や事情があると思います。その中で、フルタイムで働いている立場からの意見として、学童など放課後、預かっていただける場所があり、ありがたいと感じていますが、やはり、その一方で、子どもと過ごす時間の少なさは常に悩みではあります。就労している家庭もいろいろ悩みながら、子育てしていることをご理解いただき、支援は皆、平等であるとありがたく思います(質問の回答としては少し違うかもしれませんが、すみません)。(2年生)
- 子育て支援に関することは、ひとり親とは区別せずに扱ってほしい。必ずしも夫婦がいるから負担が軽いわけではないし、祖父母と暮らしている家庭も大変なことはたくさんあると思います。(4年生)

(6) 放課後児童クラブ等、放課後や休日の過ごし方について

- 学童保育を19:00まで行ってほしい。また、夏休み等の長期休業期間は7:00~開所してほしい。保育園が7:00~19:00までやっているのので、学童も同じ時間にしてほしい。(5歳)
- 共働きである程度の収入があるのはありがたいことですが、その分所得制限で支援を受けることができないケースがあると、とても悔しいです。小学校へ進学すると時短勤務もできなくなる会社の規則があるため、学童に入れるよう支援をお願いしたいです。可能なら、もう少し遅い時間までみていただけると助かります。(年齢不明※就学前児童)
- 長期休業期間の学童保育の開始時間を7時からにしていきたいです。現在の7時30分からだと、職場への到着が始業時間に間に合わないときがあります(職場が福島市内で、道路が混むため)。また、子どもの話では、学童でよくケンカをしてしまうようですが、子どもがどのように過ごしているのか、よく分かりません。難しいのは承知しておりますが、子どもの様子を教えていただけると、安心して利用できます。(5歳)
- 学童から自宅へ自分で帰ってこられるように支援できないのでしょうか。まだ低学年なので無理ですが、高学年の場合の利用法例、放課後~習い事の時間まで学童利用、学童から自力で自宅へ帰る(徒歩35分)、自宅から習い事(自力で行ける場所なら自力で)親は仕事から帰宅後、夕食作りを進めることができる。自分ができることは自分でやってもらいながら、親子で会話や宿題に向き合う時間を確保できるようにしたい。(1年生)

- 二本松北小の学童は、居住地、学年、所属する部活（合唱、合奏）によって3か所に分けられていますが、場所もばらばらで季節によっては、夕方暗い中歩くことになります。我が家は、学童に行くより家に帰ってくる方が、距離としては近いです。学童をわけることでメリットもあるのかもしれませんが、学校に近い所で利用希望する子どもすべて収容できる場所の整備を希望します。学童を休む場合の連絡方法を小、中学校と同じようにGoogleフォームにしてほしい。連絡時間が仕事とかぶり、電話するのを忘れてしまう。（4年生）
- 現在、学童保育を利用しています。全体の利用人数に対して、施設が狭く、子ども達が窮屈に感じているような気がします。職員のみなさんも大変そうです。もう少し、施設数を増やし、子ども的人数を分散できないのでしょうか？（4年生）

（7）商業施設や地域等、生活環境について

- 子どもだけではなく、バリアフリーの面等から考えると、図書館をもっと魅力的にしてほしい。今の時代にそぐわないと思います。須賀川市のt e t t e他、位になったら嬉しいです。（1歳）
- 休日の子どもの向けイベントは郡山か福島がほとんどで、出向くことが多いので、もっと二本松でも充実するといいなと思います。2年前に移住してきたので通学の感覚がわかりませんが、来年娘が南小に通います。歩いて10分くらいです。その後中学校は一中なのですが、坂道があり、通学に徒歩30分かかります。通える範囲が広いなと感じます。夏場など熱中症の事故、雪の事故もあり、少々不安に思います。スクールバスがあるといいなと思いました。よろしくお願いします。周辺自治体で進められている給食費無料化についても検討していただきたいです。（5歳）
- 子ども達を遊ばせておきながら、ママ達がゆっくりごはん食べたり、リフレッシュできる施設がほしい。（3歳）
- 放課後に利用できる自転車や徒歩で行ける室内施設があるといい。（1年生）
- 二本松市には、ないものが多い。近隣の本宮市や大玉村と比べてしまう。私は県外から引っ越してきたのもあって、他の地域と格差を感じる。保守的な感じがする。このままでは、なんでもワーストになりそう。（5年生）
- 子どもの費用に関することの補助がたくさんあり、大変ありがたいと感じています。全部の小学生のスクールバス導入を希望しています。（1年生）

（8）学校、教育環境について

- 小学生の制服は、サイズアップの回数を考えると、負担に感じる。給食費の全額無償化を実現してほしい。二本松市内の習い事一覧のパンフレット等があると良い。（3歳）
- 金銭的な面で塾に行けない子ども達の、勉強の補助ができる場所があればありがたいです。学年が上がるに連れ、難しくなって行きます。保護者が就労のため中々勉強まで教えてあげられない。保護者も今の子ども達の勉強の仕方が変わって、教え方がわからない、学校意外に子ども達がわからない所をわからないままにしない場所があれば学力も上がるのではな

いでしょうか？家に居ると、ゲームなどのメディアに依存してしまうと思います。気軽に勉強が学べる場所があると学力アップ、依存症低下に繋がるのではないかと思います。（5歳）

- 小学校の全校生が少なく、これからの学校生活が不安。（5歳）
- 住んでいる地域には、習わせたい習い事や塾がなく、送迎の事を考えると仕事をしているため難しいので、習わせることができません。住んでいる地域に塾などが出来れば良いなと思います。又は、学校や集会所などで教えてもらえる機会があれば良いと思います。（2年生）
- 各小学校の情報も共有して、良いことは他校に展開しあったりするのも良いと思う。小学校においては、寄付などで使いまわせるものは使いまわし学校用品（特に算数セットなど）や制服など、各家庭の余計な負担を最小限にするなどを希望する。（2年生）
- 不登校の生徒へオンライン授業を受けられる環境を積極的に作って欲しい。（4年生）

（9）行政全般について

- 市民が過ごしやすい二本松市であって欲しいです！また、転出する人が多く、転入する人が少なく感じます。転出した方、また二本松市の制度、子育て対策、医療、学習、「二本松市の施策」良かった！と思える「二本松市」にして欲しいです。時間はかかると思いますが、頑張ってください。（4歳）
- 放課後の預け先に放課後デイサービスという選択肢がないので、その他を選びました。障害児の支援、特に小学校での支援体制の不足により、市役所や教育委員会では把握していないような小さな事例はたくさん起きています。小学校では親が授業に付き添う訳にはいきません。介助員の加配について制度はあると思いますが、体制不足を感じます。（2年生）
- 特別支援学級へ通っている子どもへの支援をしっかりとって欲しいです。（6年生）
- 少子化がどんどん進んでいるので、将来の子ども達の姿をイメージした時に、経験の少なさ、地域の住み心地などの心配があります。二本松市全体の課題として考えていただけると幸いです。（4年生）
- 事業が充実しているのは、二本松や安達だけの様に感じる。子どもが少ないので仕方がないが不便・利用しにくいとずっと感じていた。（6年生）

（10）防災防犯等、こどもの安全について

- 公園の草がかなり放置されていて危険です。他県ではきちんと整備されています。子ども達が安心して遊べるよう、予算をとって整備お願いしたいです。広い公園も少ないと感じます。いつも遠くまで遊びに出かけねばならず、不便を感じています。検討お願いします。（2歳）
- 自宅の近くの道路は歩道がとてもせまく危険だと感じるので歩道を整備していただきたいです（二本松市作田）。物価がとても上昇していて生活にゆとりがなく、園上でオムツやミルクも値上がりしているので補助があると嬉しいです。（2歳）
- 子どもと一緒に近所を散歩したいが、歩道のない道路が多く危なくて散歩しづらい。（3歳）
- 通学路の整備。歩道がない等危ない場所が多すぎる。（3年生）

- 二本松市だけに言えることではないですが、基本的に学校へ行き来する際の心配があります。歩道の狭さや交通量の多さなど、子どもたちが小中高と安全に通える環境が整っていくと大変ありがたいです。よろしくお願い致します（2年生）
- 登下校に関して、学校までの距離もかなりあり、人通りのない山道を数人だけでの集団登校にかなり不安があります。地区が違っただけで、距離も近いのにスクールバスに乗れる子もいて、不公平感があります。野生動物との遭遇や長引く猛暑日、雪のある坂道での転倒の危険性などがあり、頼れる民家もないのでいつも心配しています。学校を通して何度かスクールバスにならないか相談してきましたが何も解決していません。（5年生）

（11）その他について

- 子育てがしやすい市をつくる、と掲げていて、とても前向きに支援、施策してくださり、ありがとうございます。物価高で、一人親世帯、両親の協力を得られない世帯など大変な思いをしている家族も多くいます。市外に引越しをしてしまう家族もいます。少しでも子どもの数を減らさないようこれからも前に前に、取り組みよろしくお願いします。（2歳）
- 知らない制度や、お得な情報、知らない事が多くて勿体無いなあと感じる事があります。病気で不安な時やサポートが必要な時、1人ではないけど、1人で、頑張らなくては行けない時もあります。情報がもっとあると嬉しいかなと思います。（4歳）
- 産後は、出掛けるのも大変でした。人と話す機会が無く、体力も体調も悪くて、子どもの検診に行くとすごく疲れた事を思い出します。今は子どもが大きくなり、だいぶ楽になりました。辛い時に優しい言葉を掛けてもらえたら、すごくうれしいと思います。乳児期のママさんに優しくしてもらえたらいいなと思います。（5歳）
- 学区内の市営住宅が、まったくあたらない。（1年生）
- 子育てに関するアンケートが、どれほど重要なのか、理解できない部分が大きい。まずは、「子どもを産みやすい二本松市」を考えるべきだと思う。（5年生）

二本松市
子ども・子育てに関するアンケート
調査結果報告書

令和6年9月 発行

福島県 二本松市 子育て支援課
〒964-8601 福島県二本松市金色 403 番地 1
TEL:0243-55-5094 FAX:0243-22-1547
<https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/>